中央公論

本號目次



CHILD STUDY.

(By Bushrell.)

N. 172

中央公論

第十八年　第六號



殖民的國民としての日本人

今世紀世界の流行物たる帝國主義なるものは、昔日の所謂世界一統主義とは其趣きを異にす。故に殖民と稱するも今日は羅馬殖民の如く軍隊的占領を意味せず、又希臘殖民の如く全く本國の政治より離れたる獨立の都市を起さんとにもあらず。約して言はゞ領土の獲得に非ず、貿易擴張の爲に自國勢力範圍の新市場を世界各地に新設するものなり。列强の競ふて殖民を奬勵する全く此意味に外ならず。

吾人は素より世界を以て優勢たる人種の自由に任すべき財産とし、文明にして有力たる種族は野蠻にして微力なる種族を逐斥し且つ占領する天賦の權利有りと云ふが如き、人道無視の曲解論者に非ず。サリトテ緬甸國民が戰爭は惡魔の所業なりとて英國の軍隊が首府に攻入るに當ても、寺院に集て禮拜を事とせしが如き病的の理想を抱くものとは勿論違へり。唯公明にして品位高き國際競爭の上に於て、我國の將來が殖民事業に向て大に發展せざる可らざるを信じ、特に之を奬勵せんと欲するものなり。

年々增加し行く人口は平均五十万人と稱す。地狹くして人多し。移民會社の增加と云ひ、殖民學校の新設と云ひ、殖民銀行の計畫と云ふ、これら皆悉く殖民の必要を感じ來れる時代の要求に非るは無し。

一　我が移住民は果して何れの方面に向ふべき歟

濠洲に、太平洋諸島に、印度支那に、南亞米利加に、

中央亞米利加に、ハタ柴比利亞に、我國民の移住地は多し。殊に墨西哥移民の如きは稍其成功の緒に就きつゝありと聞けり。吾人は我邦今日の場合、其何れの地何れの國たるを問はず、國情は只日々に殖民事業の擴張を迫りつゝあるを以て、いづれの方面にも向はんことを望まざるべからず。然れども將來我國の世界競爭上決して等閑にすべからざる最も重要なる地點に於いて、我國民の來住を待つものありとせば果して奈何。特に其地が風光明媚に氣候温和に加ふるに土地の豐沃と人口の稀薄を以てするものありとせば果して奈何。同じくは他よりも其地を先きにして、移民事業の根底を作らざるべからざるなり。吾人は此點に於て北米太平洋沿岸の地が、先づ第一に我移住者の着目すべき地たるを信ずるものなり。

嘗て世界の背面たりし太平洋は、今や殆んど世界文明の中心となれり。所謂「大洋文明の時代」(オーシャニック、エプーク)はこれより漸く其の眞相を現はさんとす。想ふに太平洋文明の發達は、獨り亞細亞亞米利加壕洲の運命を裁決するに止まらず、必ずや東西文明の結合となり、やがては六大陸の併進、全人類の競爭に依りて世界文明の完全も亦此に其成否を決定せられずんばあらず。於是か列強の恒に懸念しつゝある問題は何ものか能く先んじて太平洋上の覇權者たるかに在り。

近時の歐洲は、此點に於て悉く米國の前途を恐れつゝあり。ウォトルローの戰爭が世界の中心を佛國より英國に移したるが如く、マニラ、サンチアゴの戰は更に之を米國に移したるの觀有り。彼や正しく翼を太西太平の兩洋に張りて、高く宇内に雄飛せんとしつゝあり而して我日本は三大陸に介在し、太平洋の死命を制するに足る天然の好位置を利用して、將來商工業上の權力を米國と爭はざるべからず。苟くも此太平洋の將來を思ふもの、誰か向岸北米の野に新日本村を一日にても早く、一個にても多く、創設すべきの必要を感ぜざるものあらんや。况んや彼地の事情は大に我移民の來住を希望しつゝあるに於てをや

見よ、彼れ合衆國が所謂沿岸殖民地と稱するの地、カ

リホルニヤ州と云ひ、オレゴン州と云ひ、ワシントン州と云ひ、地廣く人少く、特に風土の我國民に快適せるあり。モントリーの風光を眺めよ、サンタクラ、サンタクローズの沃野に耕せよ、清凉なる北部沿岸の夏、温暖なる南部邊海の冬、到る處として新日本村の建設に適せざるものなし。渺たる孤島布哇にてすら我出稼民の年々に本國に送り返へす金錢は現今一千万圓以上と云はずや。若しカリホルニヤ一州をして布哇の如く米國治下の日本人國たらしむるの時到らば、我邦の富强は現今に倍加せん。歐洲移住の白人をして充實せしむるに先ちて現世紀の前半に日本人をして米國の太平洋沿岸に殖民的大成功をなさしむるは、我邦人の一大責任なり、而して實にこれ我邦將來の死活問題に屬す。

二　我が勞働者に對する米國民の感情

ゴムバアス一派の米國勞働隊有り、極力邦人の勞働者を排斥せんと欲するも、米國民一般の意嚮は決して日本國民を厭惡し排斥するに非ず。却て諸種の事實は彼等が我國民を歡迎し、日米の關係をして益密接ならしめんとしつゝあり。

一度び移民制限法として顯はれたる海外勞働者敎育資格問題の如き、一時其可決を見んとしたるも、ニユーハムシヤイヤ、ウエストバーヂニア等に於ける諸事業家の熱心なる反對に依て、遂に廢案となれり。此の如き案の提出を以て一概に東洋亞細亞の移民を排斥せんが爲めにせるものと思へるは誤れり。特に日本國民をも支那人と同視して、人種的惡感情に依りて排斥せりとせるは大なる誤りなり。去年米國下院に於て該案の委員長たりしシヤツタツク氏は辯じて曰く「近來歐羅巴の諸政府は、兎角國內の厄介者や、無敎育なる貧究者、懶惰者若くは罪人を驅て我が亞米利加に追ひやるの惡傾向有り、此制限法の制定を欲するは全くこれらの徒を拒絕せんとするの精神に出でたるものにして、セメテは米國憲法を解し得らるゝ者のみを移住せし

め、以て米國將來の爲めに計らん」と、以て該案精神の在るところを見るべし。苟くも我移民にして正當なる者なりせば、彼等は却て歐洲白人の移住者よりも歡迎せんと欲するなり。

今春米國の議會は又一種の浮浪者取締規則を議決して曰く「健康なる乞食、正業無き浮浪、掏摸、竊盜、波止場停車場附近を徘徊する懶惰者、持主の許諾無くして小屋物置等に宿る無宿者、及び泥醉者は五百弗以下の罰金又は六ケ月以内の拘留に處す」と、此種の人間を排斥するは獨り米國に限らず、いづれの國も等しく排斥するところ、此等を以て亞細亞勞働者排斥の爲にせるものと思ふが如きは自ら侮るの甚しきものなり。聞くところに依れば在米同胞の間にも、此取締規則の出でしを機として、我同胞の面汚しなりし浮浪者破落戶の驅逐に力め、米政府と共力して追放の手段を勵行したる結果我勞働者の多きサクラメント、フレスノ、ローサンゼルスを始め、すべての日本人移住地に於て大に勞働者の狀態を改善するを得たりと。加ふるに各地に在る佛敎及び基督敎の青年會は、大に活動を始め、彼等の精神彼等の素行一般に前日の觀を改めつゝありと稱す。米國殖民の前途益好望なりと云ふべし。

一部の論者が米國沿岸白人勞働黨の小反對に畏縮して、日米の衝突を來たすが如く考へ、我移民の根據地を他に擇ばんと云ふが如きは、淺見の最も甚しきもの決して其眞相を知る者の言に非ず。よしや日米の衝突を之に依て買ふものとするも、我邦將來の國是上、是非共米の太平洋沿岸には我殖民を有せざる可らず。敵手ならば益挑戰すべし、衝突すべきものならば一日も早く衝突すべし。決して之に依て退嬰すべきに非るなり。況んや彼れの實情は決して我移民を排斥するものに非るをや。

三　我が海外移住民の三缺點

米國に於ける我勞働者の位地及び我殖民の必要は此の如し。翻て我移住勞働者の性格果して殖民事業に成功すべき資格有りや否や、殖民的國民としての日本人は果して完全なりや否や、見來つて吾人は大に嘆息すべ

きものあるなり。我邦に在ること二十餘年、垂髫の日本より而立の日本までを通觀して、我國情には最も精通せりと稱する博士ハリス氏は米國に歸りてよりも高齡の身を辭せず、桑港を本據とし太平洋沿岸に在る日本人の爲めに全幅の好意を以て盡しつゝあり。氏は一方米國人に向ては、日本人と支那人の區別を說き、或る米人の一派が日本人を目して支那人の如く社會公德の敵と思へるの謬れるを說明し、一方には我が移住者に對して、種々の缺點を警告するところあり。氏は恒に云ふ米國に在る日本人には三個の大缺點ありと、吾人は之を曾て「サンフランシスコ、クロニクル」紙上に出でたるものより左に摘要す。敢て斬新の言に非るも、我勞働者の爲には實に其弱點を約言して餘薀無きものなり。吾人は三省するところ無くんばあらず。何をか日本移住民の三缺點と云ふ、氏は曰く

第一　支那人よりも劣れる共同心　日本人は多くの美風を有せるに拘はらず、海外に於ての共同一致の精神は支那人にも劣れり。在米の支那人は恰も一村民を見るが如く、氣質氣風の相似たるものあり、大に共同一致の美風に富めり。故に彼等の習慣行爲文明人の齒するを恥づべきもの多々なるにも拘はらず、意外なる成功をなし、白人をして後へに瞠若たらしむる事業頻々として起れり。之に反して日本人は、何事にも調和を缺き、統一を缺き、個々分立す。これ恐くは在米の支那人は只廣東省の一部より來れる者大多數を占め、日本人は九州東北中國と風習や氣質の異れる各地より來り、地理的の關係此の如き結果を生じたるならんも、實にこれ日本人の爲め惜むべき現象なり。在米三萬の日本人、若し假りに一人五弗の貯蓄を支出すとせば、十五萬弗の總高となる。之れを以て共同の資本に投ず、必ず相當の事業を爲し得べし。假令へば十五萬弗にて一の地所を購入し耕作を始むるとするも、一大日本村を新建し得らるゝに非ずや。一人五弗の支出は在米日本人の收得よりすれば、其一個月分の收入より引き去るとする

も、左まで難事に非ず。而して此種の計畫に至ては、日本勞働者の特性として全く之を缺けり。只一人々々の孤立主義に甘んずるのみ。

第二　短期に大成功を收めんとする空想　日本人が缺點中の缺點は成功を急ぐにあり。僅か二年三年又は五年にして大成功を見、錦を故郷に飾らんとする者のみ多し。これ恐くは日本人が他の人種よりも望鄕病多きに依るならんも、移住勞働者としては最も不都合なる性格なり。かく成功に急なるが爲め、適當の經驗すらも得ず空拳故國に歸るもの多し。結果を十年二十年の後來に期し徐々大事業を目錄む殖民的事業は今の在米日本勞働者に到底望むべからざるが如し。今の世界は賭博的、倖僥的、或ひは梯子なくして一躍高所に飛び上らんとするが如きことを許さず、日本人が永住の希望を以て功を遠き將來に收めんとするに至るまでは。米國渡來の結果は何事をも得ざるに終らん。

第三　不攝生にして身躰不相應の勞働を爲す性質　北米沿岸の諸洲、其死亡率は他の人種に比して日本人特に多し。これ全く勞働に過ぎ、勉強に過ぎ、暴飲暴食に過ぎ、臥起飲食の不規律に過ぐるに依らずんばあらず。余は日本にて學生が學校を畢るの時は、病院に入るの時なることを屢實見せり。これ皆一時過度の勉強をなし、健康を度外視せしに依れり。此例は米國に於ける日本勞働者にも適用し得べし。彼等が地方のピースウオーク等にて、度外の働きを爲すを見、同時に滋養分を採るの分量餘り尠きを見ては、誰か之れを驚かざらんや。彼等は其當座身躰に直接影響無きを見て、過度の勞働を意とせず、一時の金錢の爲めに百年の健康を無視す、思はざるも亦甚しと云ふべし。これらは假令勞働者自身に於て面の當りさしたる痛痒を感ぜずとするも、社會の上より見て實に大なる損害と云はざるべからず。大國民が大事業を他國に扶殖せんとするに當りかゝる缺點は最も注意せざるべからず。余は日本人の爲めに特に

之を悲むものなり。

以上の言、獨り在米の我同胞に對する警告たるに止らず、實に國民全体に向ての忠言なり。將來に殖民的大成功を期する我國民たるもの、大に警むるところ無くして可ならんや。

四　殖民事業と我が政府

世界の殖民史上その最も成功したるものを英國民とす、彼等は政府の手を假らずして國民個人が活動の精神、進取の精神、失敗に屈せざる特有の忍耐力に依て今日有るを致せり。彼のルイ十四世時代の佛蘭西と英國を見來るも、英國は國家として寧ろ冷淡に過ぐるものなりき。而かも國民が殖民的精神は益々發達したりき。ルーカスは言はく「英國殖民史に於て若し特筆すべきものありとせばそは只失敗に依れる成功なり」と、彼等か幾度の失敗、終に北米合衆國すらも失ふの止むを得ざるに至りし大經驗は、次に濠洲の大殖民を成功し、加奈陀や印度を初め、渾球到處に殖民地と屬地を掌握して綽々餘裕を示す今日の大英國となれり。

我國今後の殖民事業も、吾人は英國民の如く國家の奬勵を待たず、國民自ら進んで世界の四方に開拓し行かざるべからざるを信ず。然れども悲むべし、我國民現時の性格は、未だ彼の如く自主獨立の精神に富まず、百事國家の保護指導を待たざれば發展し得ざるの境遇に在り。且つ全世界の大勢と、太平洋上の今後と、及び我が商工業や人口增加の狀態は、我國民が他日英國民の如く殖民的成功の資格を具ふる個人たるべき發達時を待つの猶豫を與へず、寸時も早く他の人種に先ちて、對岸の米國に新市場を開設せざれば國運の消長に大關係を及ぼすの境遇にあり。我政府が適當の保護奬勵を用ひて、國民を促がす可きは現時の必要上又止むを得ざるなり。彼れ英國の自由政策と雖、其殖民が成功の顯著なるに至りしは、政府が一定の政策を案出して、鋭意實行したるの後ならずんばあらず。則ち千八百四十一年ジョージ、コンウオスレヴイス氏の屬地統御策の世に公にせられてより、英政府は愈殖民地と屬地との區別を明にし、一定の政策によりて今日の結果

を來たすの組織と方針とを確定したるなりき。成功の本源は素より其の國民の思想氣力に依るべきも、善良なる政府の方針と、適當なる奬勵法とは、更に其成功を迅速ならしめ確實ならしむるものなり。我邦の現狀と我國民の氣風とに於ては、今日最も政府の奬勵に待たざるべからざるなり。

さるにても、我當局者の冷淡なる、又は無識なる。未だ何等の方針を確定せられしを聞かず、徒らに貪欲なる移民會社の横暴を看過し、或は上陸拒絶の恥辱を度外視し、一方繁文の鐡鎖を以て渡航者に面倒を掛くることのみを知れり。此受働的無爲政策を改めて、進んで殖民奬勵の大計畫を實行すべきは實に目下の急務なるを信ず。

五　殖民事業振張の方法

吾人は終りに我政府及び國民に向て、殖民奬勵の一手段として左の三策を提供す。言や平凡なりと雖、殖民的國民の將來には是非かくあるべき必要の案件なり。

第一は國民の敎育法をして今少しく世界的常識を養成せしむることとなり　日本は今猶世界を日本化する前に、先づ日本を世界化せしむるの時期にあり。力めて其思想を向内的ならしめずして、向外的ならしむるの時にあり。退嬰的たらしめずして進取的たらしむるの時にあり。依頼心を除いて獨立心を養ひ、虛學を斥けて實學を貴び、商工業國民として海國民として、殖民遠征國民として、世界に四出して競爭すべき資格を養成すべきの時にあり。我邦の現時の敎育法は果して此點に於て十分なりや否や、英國海上權の今日有るは遠くヘンリー八世の三學校を起こしたる時代に起因すと云はずや、吾人は我國民の現時の敎育法に於いて殖民的國民養成の點に於いて大に物足らぬ心地せずんばあらず。

佛國殖民の衰へ行く源因を說くものは曰く(一)人口の增殖寡きに因るは今に始めぬ事ながら(二)生計の度高く奢侈に慣れ艱難を異域に嘗むるの氣力を生ぜざること(三)隨て靑年の意向國内にて官吏其他小成に安んずるを希ふことと(四)財產當分の制ある爲め無資力なる靑

年をして奮て海外に新事業を起さしむる社會の刺撃無きと等にして、これら源因中の源因をなすは(五)國民教育の根本に於て誤れるものあるに依る、と。人口減少の一事こそ、我國とは異なれども、其他に於て何んぞ我國に類似せるの酷しきや。今に於て教育の根本より注意し、次代の國民を改造すべきは最必要の件なり。

第二は資力有り教育有る人の自ら進んで殖民事業に從ふ事なり　歐洲大陸列强の中、獨逸は現時移民出稼熱の最も旺なる國なり。而して實に新興國の第一位に在り。獨逸人の海外に出づる獨り中等以下の階級に止まらず、上流紳士進んで出稼人となるなり。貴公子の身分を以て米國に渡り、一般勞働者と同じく耒を田圃に採るものあり、或は酒屋奉公に身を落とす者あり、ハウスウオークに屈從するものあり。而して貯蓄又貯蓄、三年四年の後には事業を始め、十年二十年の後には大成功を見る、宜べなり米國は今や到處獨逸人の侵入に逢ひ、擧げて獨逸化せられんとしつゝあるとや。若し我國の教育有る紳士にしてこれらの行爲を學び、自ら進んで海外勞働者の先發となり、これを指導してこれを保護せば、其結果實に驚くべきものあらん。局々たる小天地に自ら其眼界を狹ばめ、僅か二万三万の小金を貯めて、五十の壯齢樂隱居を氣取らんとするが如きは、ナサケ無き事の限りと云ふべし。況んや彼等の遠征とは、箱根大磯に日々酒色に飽て力めて其壽を縮めんとするに外ならずと云ふに於てをや。獨逸は我國情に比して海外出稼の必要尠きに於てすらも此の如し、歐洲の新興國と亞細亞の新興國との差實に此點に存す。

第三は正當なる婦人の渡航を奬勵すべき事なり　移民間の風紀矯正策を講ずると共に、婦人の渡航を奬勵するは移民事業に就て大必要の事なり。米國の本邦勞働者が、滔々として支那街等に賭博と酒と女の爲めに其所持金を浪費し、其身を誤るものは彼等に家庭の快樂無きに依る、「日本人は金を白人より受取りて之を支那人に渡す媒介者なり」とは桑港に於ける一の流行語たり。蓋し無教育にして自制心薄弱なる彼等にはそれ

以外に快樂無し、事業を永遠に期し能はざる所以、失敗身を誤るもの多き所以一に茲に在り。苟し彼等をして家庭の眞趣味を解せしめ、天涯の異郷即ち故郷との感を抱くに至らしめは、永住の念茲に生じ、事業の大成期して待つべし。

然りと雖「殖民の端緒は酒屋と女郎屋と敎會堂が軒を並ぶるに在り」との諺の如く、今日までの狀況にては又止むを得ざるの事なりしならん。只今後は大に正當なる婦人の渡航を奬勵し、彼等移住民に配せしめざるべからず。現今にてもやゝ事業の成功をなしたる本邦人は家庭を作るに最も困難を感じつゝあり、幸ひにして米國は本邦婦人の勞働すべき業務多々にして、男子と共働するに最も都合善き國柄なり。我政府が醜業婦の出稼を恐るゝの餘り醜業婦ならざる婦人の渡航にも面倒多からしむるは、決して海外移住者をして成功せしむるの所以に非ずと知るべし。

家庭有りて社會有り而して國家の發達有り。殖民の事同じ。北米ユタ洲に於ては西方の移住を奬勵せんが爲めに、婦女子の來住を促かすに宗敎的手段を用ひ「未婚の女子は神の救を得ず」と云ふ如きモルモン宗すら顯はれたるに非ずや。吾人素よりかゝる極端なる手段を賛せずと雖、當局者が女子の渡航を奬勵し、移住民をして長久の計をなさしむることは吾人の希望するところなり。

以上說き來りしところは時勢の要求として正に目前の急に迫れる殖民事業に關する吾人の卑見なりとす。いさゝかにても讀者諸君の參考に資するところあらば幸甚し。

（里　山）

我國民體育の現在と將來（中）

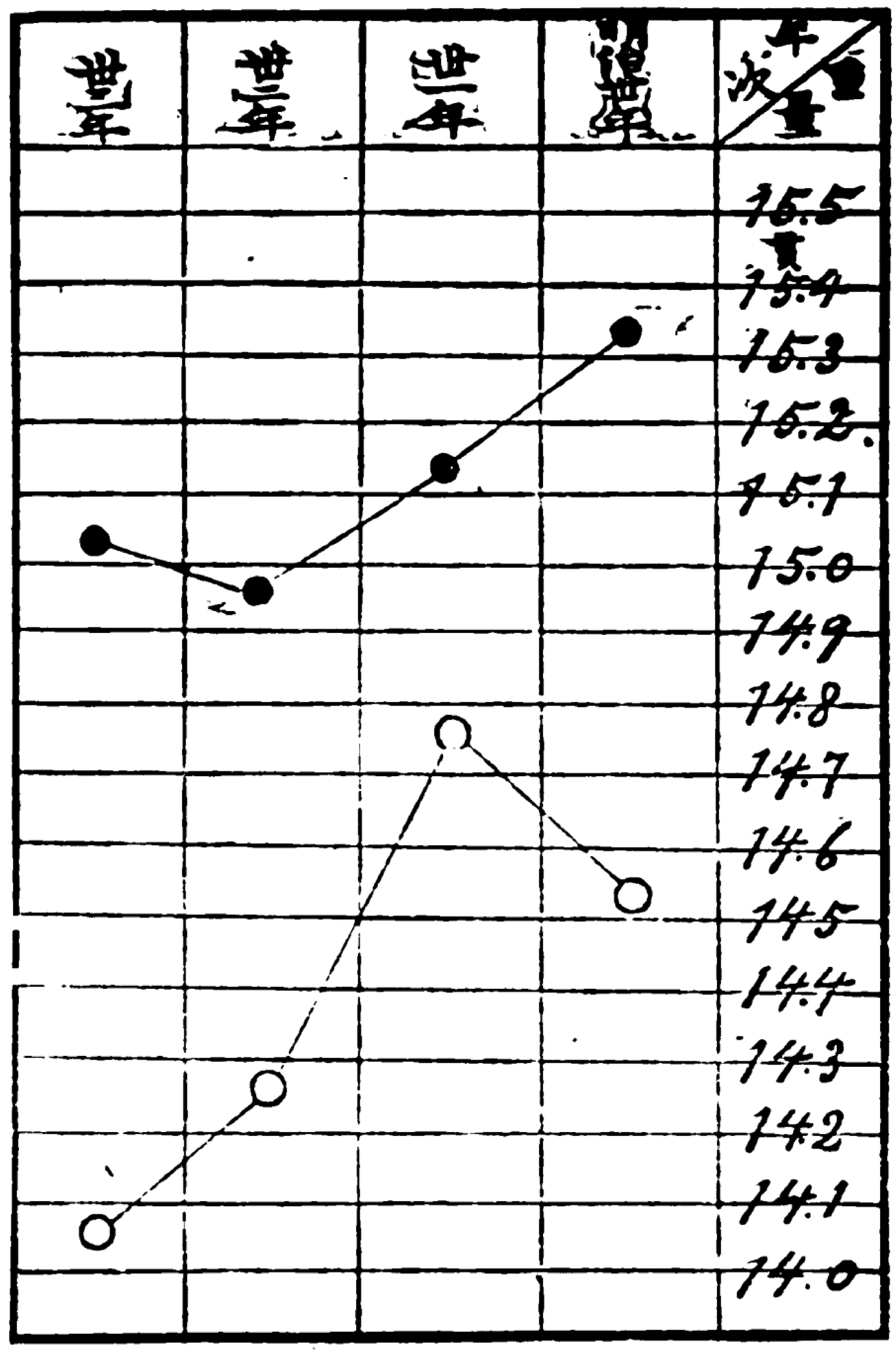
萬國體育會日本委員代議士　山根正次

次には村落と市街の體格比較表を參考に供します、此表は即ち二師團に於て調べたものであります、市部と

郡部との壯丁を分けて見たのであります。

第四表

村落と市街の體格比較表



●本表は第二師團管下に於ける村落の壯丁と市内の壯丁との各體重を比較表示せしものなり

●表中の黒點は郡部の壯丁白點は市部の壯丁なり

黒いのが郡部でありまする郡部から採つた壯丁の體の重量であります、それから下の白いのは市部の方の壯丁の重量であります、明治三十年の頃に於て二師團管下にあつて郡部から出た者が十五貫三百三十匁斗りの重量があつたのであります、市部の者はどうであるかと云ふと十四貫五百二十匁斗りほかない、それから三十一年に於ては大分下つて郡部の方が十五貫百三十匁、それから市部の方が十四貫七百七十匁程あるのであります、三十二年には大分に下つた、郡部が十四貫九百九十匁で、市部の方は十四貫二百九十匁程、三十三年に於ては郡部が十五貫二十匁、市部が十四貫五十匁ほかない、之は市部と郡部と斯う云ふ差が出て居りまするのは何故かと云ふと、市に居る者は重もに坐業をやつて居る者が多くて運動や何か欠乏して居る、郡部に居る者は歩るくこと抔が盛んでありまして、オ負けに脳を使ふことが少ない、市部の方は餘計脳を使つて居る、さう云ふ結果から斯くの如き差が出るのである。

以上四種の表を見て諸君は如何なる感じが起るてありませうか、私は實に日本國民と云ふものは次第々々に惡るくなりつゝあると云ふことを御感じになるだらうと信ずるのであります、斯樣に全躰の國民中で殊に學生なるものが惡るい、將來の國民の原動力ともなる可き教育ある國民の體力が一般に宜しくない樣ては實に非常に憂ふ可きことであると考へるのであります、青

年諸君が實際此の表を見られたらば分かるでありませうが、體力の盛衰と云ふものは全く我々國民の實際の問題でありまして決して空論を以てする譯でないのであります。

歐米に於ける體育の實況

歐米諸國の體育の形況はどうであるかと云ふことを申しますると、私が廻はりました何れの國に於ても體育と云ふことは非常に盛んに行はれて居る、獨逸の如きに於ても千八百六十二年の頃からして小學校に於ては體育場を設けねばならぬと云ふことを云ふて居ります、千八百七十年七十一年即ち普佛戰爭があつて獨逸が勝ちましたが「勝つて兜の緒を締めろ」で、此の體育と云ふことは戰爭後非常に盛んに遣つたのであります、其の結果が體育會の如きも獨逸に及ぶ國はないと云ふ位に澤山にあります、又其の教師を拵へる所でも學校から澤山の金を出して教育する樣になつて居る、一躰の國民が體育に大變に重きを置き充分に務めて居る結果が其の國民が大變に强健であります、獨逸の國民が世界で第二番の長生をする國民である、則ち同國民は四十六歲ばかりの平均で生きて居ります、日本と較べると驚くでありませうが、日本のは後から申します、身體が丈夫で長生をすると云ふでなければ多くの仕事をなすことが出來ない、丈夫でないと云ふと忍耐と云ふものは少い、勢が少い、日本人の如きは實に一時の勢は强いのでありまするが、長い間の體力を使ふと云ふことには耐へられぬ所の國民であります、此の獨逸では各小學校でも中學校でも、體育場と云ふものを設けられて其の區内に居るものであれば誰でも往つて運動することが出來る樣になつて居る、夜は夜で電氣燈が出來て電氣燈が點けてあつて機械體操でも鞦韆でも何んでも皆遣る樣に出來て居ります。

それから白耳義である、白耳義は誠に小さい國でありまする、小さい國であるにも拘はらず、世界で英吉利に次ぐ所の一箇人の財産は澤山ある國民であります、非常に富んで居る國である、而して人口はどれ丈けかと云へば六百万人しかない、此の小國が何によつて富んだかと云ふことを調べて見まするとと、私は彼國に往つて體育の盛んなることに驚いたのであります、小學校時代から非常に盛んでありまして、體育智育德育此三ッの中、體育と云ふものに一番重きを置いて居る、そして小學校時代から常に實業を盛んにして身體

の强健を圖る樣にのみして居る、殊に此の國は六百万の人口中百二十万以上の職工を有つて居る、それで非常に生產力が大きい、此小さい國であるにも拘はらず支那の國まで來て澤山の鐵道を懸け樣として其の約束を結んで居る、又今日問題となつて居る露西亞國—彼の大なる露西亞國の如きに向てすら僅か六百万人ほか居らぬ白耳義國から實に十二億万法と云ふ金を貸して居る、而してその富は大軆の源因身體を丈夫にすることを基礎として實業教育を施した結果であります。

それから瑞典、小學校時代から體育のことを非常に重んじて居る彼の瑞典の如きはストックホルム市に於ては世界一番なる體育場が設けられて瑞典法と云ふて世界に體育の教師を—女の教師も男の教師も—出して居る程の國柄であります、それから彼の佛蘭西の如きでも中々やつて居る、即ち體育學校の如きは非常の金を投じて居る、私は萬國博覽會の時に萬國體育會に臨んだ、その時に御馳走に此の第十八回の佛蘭西の體育會の總會と云ふものがあつたのであります、其の會に五十三の組から成れる一の體育會が出て數千の人が一ヶ處に聚つて一號令の下に體育を遣つて見せた、大統領などが臨んで數萬の人の環視の中に於て勳章を與へて居る、此の一事に依つても皆樣が御分かりになるだらうと思ひます、又英國の如きは勿論の事で英國人種が身體の强健を以て外に誇ると云ふことは實に近年のことではない、既に三百年以前から英國人なるものは體育に骨を折つて居るのであります、英國の書生は常に言つて居る、相互に勉强する時强て書齋に居無くとも外に於ても諳誦が出來るではないかと、こういふ主義で如何なる日でも二時間は必ず野外運動をする、それで英國では各學校にて圖書館が具はつて居ると云ふを以て誇るでなく、體育の機械の備はつて居ると云ふことを誇つて居る、即ち其の國民を健康にすると云ふ上に於て費用を惜し氣も無く費して居るのであります。

かく英國人の體育を重んじた結果は三百年間の統計で身の長ヶは三寸程伸びて居ると云ふことを示して居る、日本國民と正反對であちらの人は三百年に三寸伸びた、即ち百年に一寸宛伸びた、日本の方は年賦の借金の如く、次第々々に小さくなる、此英國人はドレ丈生きるか、即ち平均五十五年であります、日本人は——此處で御話するが僅か三十七年であります——私どもは大分生き延びて居る、それで英國人なる者は實に忍

耐が強いのでありまする、身體が丈夫であるから非常に忍耐も強い、殖民地に往つても長い間そこで終はると云ふ所の元氣を皆有つて居るのであります、日本人の如き少こし往つて居つて少こし豪くなると直に戻つて來ると云ふ樣な忍耐のない國民ではない、御存じの如く英國は實に世界で一番の金持ちである、トランスヴアールと戰爭しても象の背中に蚊が居る樣な程にも思はない、三十億圓の公債を募れば忽ち數倍になる樣の有樣であります、五百万圓か千万圓の公債を募つて大騷ぎをして居る日本とは大變なる差違であります、これ皆體育と云ふものを重んずるに依るのであります。

又米國に參つて見ましても非常に體育を盛んにして居ります、何れの大學校に於ても立派な體育場と云ふものが設けられて、又雨中の體操場又は水泳場と云ふものを置いて居る、靑年會の倶樂部などに行つて見ても、其の倶樂部員は番頭も醫者も代言人も來て食事の前に於て充分なる運動をする、球投げもフートボールも其他色々の體操の機械が備へられて教師の指導の下一生懸命汗をかいて遣つて居る、さうして游泳場がありまして――游泳場なるものは實に六万ガルロンの水を含んで高跳びをして中へ飛込んでも不自由がない、それが七十五度に溫められて居ります常に水道に結び付いて其の水が廻はりつゝあるが一時間に大なる水槽にある水を盡く換へて一定の度まで溫めてあります、夏でも冬でも何時でも飛込んで游泳をして此の身體の發達を圖ることが出來るのであります――斯の如く文明國の人民と云ふものは體育の上に注意して居る故、是等諸國の人々は工業にも技術上にも政治上にも着々偉大の成功を告げつゝあるのであります。

體格の改良と我國の服裝

それで此體育といふものはどう云ふ工合にやるかと申しますると第一國民全般が一致してやるが最必要であると思ひます、既に文部省に於ても日本體育會の學校に對して奬勵をされて居る如く各地方に於きましても是等の體育學校といふものを設けて大に體育の思想といふものを普及しなければならぬのであります、一方に於て我々自身が進んで熱心に體育をやることが必要であるのであります、靑年諸君、諸君は此我々日本人の歷史上有力なる人種であるといふことを信じて居るでありませう、我々日本人は三四百年前に於て世

界第一流の强大なる國民であつて、彼元龜天正時代には此小國を以て東洋の諸國を征服するといふ勢ひを持つて居つたのであります、彼等の時は朝鮮を征服し大明と戰ひ大に國威を發揚しました、又遠くは安南、東印度の方より、南洋諸島を征服した人物も出た、其時代の國民といふものは、體力が最發達して居りますから隨つて此國民の元氣といふものは極めて隆盛でありましたのであります、加藤清正とか福島正則とか云ふエラ者は八貫目もある甲冑を被りて戰場を驅け廻りたのであります、かく體力といふものが壯んであつたから國民の元氣が充滿して如何なる國でも征服して仕舞ふと云ふやうな强大なるところの勇氣を自然に具えて有つたのであります、此時代の我國民は恐らく世界唯一の强壯な國民であつたと信ずるのであります、其後我德川氏が鎖國の政策といふものを執りまして太平無事といふものが續いて、國民の進取的氣象といふものが衰えて參つて、衣服とか飲食とかいふものが段々奢を極めて、男女共に放逸懶惰に流れて參りまして、身體が運動をしないやうにといふ障碍を受けましたから、即ち今日の如き弱い人種となつたのであります、彼婦人の衣服の如きものを此時代から承けまして唯今の如き不都合なる着物が出來ました、維新以來此弊風といふものは一瀉千里の勢ひを以て增長いたして參りまして國民は擧つて體育に反對すべき衣食住を求める狀況になつて參つたのであります、今日に至つて稍々體育といふとの聲が起りましたが私は未だ甚だ不滿足であります、此頃になつてやふ〳〵松方伯だの渡邊子などが歸朝して西洋では大變體育を盛んにして居るといふやうなことを話して居らるゝ有樣であります、是が我國の前の大臣であつたかと思へば大變心細く思ふてのであります、であるが故に私は諸君と一致して此上改良進歩といふことを圖りたいと思ふのであります、徒らにビーヤホールの樓上に於てビールを喰つて身體の保護を忘れてタワイもなく醉ッぱらい、醜態をさらけ出すやうな青年諸君は此中には無いと信じて居る、是から日本を進めて行かうといふ大任のある青年といふものは實にビーヤホールに行つて醉倒れる有樣では迚も賴甲斐が無いのであります。

此體育の方法に付きましては私は諸君に又望むことがある、第一に衣服の改良、家屋の改良、それから飲食物の改良等を實行しなければならぬ、是はナカ〳〵一朝一夕に出來ぬことでありますけれ共、其中でも最出

來易い所のものを行はねばならぬことゝ思ふ、私は衣服改良のことに付ての御話を少しいたしまするが、私は衣服改良に最熱心家であるのであります、外の人などがよく衣服改良といふことは家屋改良が出來ねばいかぬと申します、無論家屋にも伴ふものであります、けれ共衣服の改良といふ方が大變出來易いと思ひます、私の衣服改良といふことは男子に於きましても女子に於きましても殊に早くやらねばならぬと思ひます、私は歐羅巴から歸りまして衣服の改良といふことを大變怒鳴つて歩いた結果、大分筒袖も殖えました、そも／＼日本の不都合なる着物といふものは早く改良しなければならぬ、今日位色々の着物を被て居るところのものは無い、日本位色々の着物を被て居るところは無い、袖のあるもの、筒袖、兵兒帶、角帶、又袴があり、パッチがあり、色々な風をして歩く、實に一つも極まつた服は無いのであります、私は皆さまの身體が丈夫にありたいと希ふの餘り云ふのであるが、諸君は非を改むる元氣には乏しくないと信じて居る、何である、私は云ふ宜しく日本の袖は切るが宜い、惜しいことは無い、剪刀でゞも切れる、身體の方が餘程大切だ、身體といふものを丈夫にしやうといふ考があつたら長袖などは要らぬ、誰に見て貰はふと思うてそんな長い着物を被ますか（大笑）宜しく剪刀があればつままれる、つんで下宿屋の婦にでも直ぐに縫うて貰へばどれ丈け便利であるか分りませぬ、袴を穿いて歩く人に直ぐにズボンになさいとは言はない、袴でも宜いが日本袴を止めて能く股が裂けるやうにしてさうして充分に飛び歩かれるやうな衣服にしたい、それに付ては私の書いた改良服圖說といふものを御序でがあつた時に御讀みになつたら其中に男ののも女ののも書いてあります、衣服改良といふことは誠に見易いことで、譯は無い、直ぐに出來ることであります、持統天皇の御宇の頃には四民共に皆袖が短かつた、袖の長さは八寸より長くすることは出來ないとなつて居りました、袴の如きは裾の細の襠がる袴はなかつたのであります、袖は筒袖で、胴の此處に紐を結んで袴といふものはズボンと丁度對てありました、さう云ふことをして、奥州の風にモンペー袴といふのがあります、山袴、ア、云ふのは昔の風の遺つたのであります、どうか諸君に願つて置きたいのは馬鹿に大きな帶で結び附けるとか、袂の重たい着物を被るとか袖の長い着物を被る風習を止めさせる方針に諸君も大贊成をして頂きたい。（喝采）

血統上より觀たる貴紳と新平民

前田貞次郎

余は本年四月發刊の中央公論に於て「新平民團結の必要」を說きしが、今退いて考ふるに、余が新平民の事業に對して聲援を與ふるには、正に二樣の方法を講ぜざる可からず、即ち

一は新平民自身をして發憤せしむる方法

一は世人の新平民に對する迷想を排除する方法

是なり、因て更に「血統上より觀たる貴紳と新平民」を論じて聊か世人の注意を喚起せんとす、讀者幸ひに之を諒とせよ。

維新革命以來、望族衰へて無名の士時を得顏なる世となり、姓氏はいたく紊れて人の偶ま其祖先の事を言ふ者あれば、聞く者は「系圖自慢」として之を一笑に附し去り亦顧みざらんとす、而して此侮蔑はやがて血統の上に及び、其純正なると否とは殆んど不問に措かるヿとはなれり、斯の如き傾向は少くとも一般國民の年に輕佻に流れつゝあるヿを證する者にして、決して喜ぶ可き現象にあらず、余を以て之を觀れば血統の詮議は曾て久しく結婚の際に於ける重要事なりし如く、今も猶重要事ならざる可からざるなり、何を以てか之を言ふ、曰く說あり。

蓋し血統に於て爭ふ可からざる二種の分脈は

一は肉體の上に現はれ

一は心性の上に現はる

るなり、而して其肉軀の上に現はるゝものゝ恐る可き結果を來すと同時に、心性の上に現はるゝ者も亦屢々恐るべき結果を來しつゝあり、然れども從來之に對する詮議はたゞ肉軀の上に來たるべき結果をのみ豫想して、心性の上に來るべき結果は深く問ふヿを爲さゞりしが如し、而して其の之をなす僅に精神病系の者を恐れたるのみ、然るに今や兩つながら之を問はざらんとするが如き傾向あり、要するに現代一般の趨勢は權勢と黃金とに眩惑して聟を撰び、嫁を擇ぶにも唯一に之を標準として其他を顧みざらんとする姿なり、而して一家を經營する夫妻が双棲して共に身心健全なる幸福を享受し、更に身心健全なる子孫を擧ぐると否とは、結婚の際に於て血統の詮議を忽かせにするとせざるとに基因するヿ多きを思はず、萬事たゞ今日よかれとの

み思へるものは、求めて一家の不幸を醸し延て子孫に迄も不幸なる運命を遺せるなり、豈に顧はざるべけんや。

既に然り、而して血統に於て爭ふ可からざる二種の分脈は、いづれも欠陥を肉躰及び心性の上に現はすのみならず、特に一たび心性の上に現はれたる道德的欠陥の如きは稀に子孫をして其汚辱を雪ぐ可き奮發心を起さしむるとなしとせざるも多くの場合に於ては祖先の遺訓、家庭の教誡も其効を奏するとなくして拭ふ可からざる印象を子孫の腦裡に留め、之をして益々墮落せしむる素因とはなるなり、故に嚴密なる意義に於て血統の詮議をなすときは、現代の貴紳中その純正なるものは甚だ多からざるを見る、然れども夫の權勢と黄金とに眩惑せるものゝ如きは、もとより其然る可き理由をすら了解するに苦しむなる可し。

蓋し一代風習の變移と、是に伴ふ迷信とは、最も恐る可き者にして、擧世之を是認するときは其中非難す可き點多きも、能く之を理解して矯正し改易す可き必要あるを思はず、人はさながら醉へるが如く狂へるが如く、自己の是認する所を以て直ちに一代理想の最上なる者と確信する場合さへあり、而して斯の如き迷信を打破せんは至難中の難事に屬す、余は結婚の際に於ける血統の詮議を輕視せる今日の風習に於ても、亦之を矯正し改易せんとの容易ならざる可きを思ふ。

試みに看よ、今日みめよき女子を有する者は如何なる者を其聟と爲し、又は爲さんとしつゝあるかを、彼等の多數は之を權勢の家、黄金の家に賣り、又は賣らんとしつゝあり、而して彼等は其所爲を以て正當なりと信じ、眞に嫁せしめ又は嫁せしむる者と思惟せるならんも、事實は決して然らず、蓋し權勢の家、黄金の家は美しき心を求むるにあらず、美しき貌を買へるなり、好ましき愛を求むるにあらず好ましき色を買へるなり、既に然り入つて妻たる者其家庭の快樂を享受すると能はざるは當然の事のみ、今斯の如き不愉快を豫想せず、又よし之を豫想するとても敢て之に耐へ之に忍ぶを幸福なるかの如く思惟せる者は、何の暇ありてか能く血統の詮議をなすべき、否かゝる親の子は卑劣又は貪慾と稱す可き精神的欠陥ある者にして、心性の上に其症候を現はせるとなれば、血統純正なる家に入るべき資格もとより之なき者なり。

然るに一方に於て權勢の家、黄金の家は左迄の穿鑿をなすともなく、賤妓を納れて妻となし妾となせる者多

ければ、心性の上に症候を現はせる精神的欠陷の如きは敢て問ふ所にあらざるのみならず、肉躰の上に恐る可き結果を來すべき素因の其間に存するあるとを思はざる者さへあり、故に天刑病の子、肺病の子、黴毒の子も、寧ろ屢々歡迎せられ　其美しきスキンの裡にバチルスを包みつゝ、權勢の毛を被れるゴート、黄金の羽を粧ふスパロー（山羊と雀とは共に淫亂を以て稱せらる）を無意識的に打倒さんとして其の家に入りつゝあり、而して良心麻痺、賄賂食傷の如きは彼等に固有なる精神的疾患にして、此症候なきものは絶無僅有なりといふべし。

此の如くにして現代貴紳の血統は、肉躰の上より觀るも心性の上より觀るも、甚だ汚れたるもの多く、概ね是れ人化したる濫淫の、人化したる貪慾を伴うて眠れるを夫妻とは謂へるなり、然れども多數の俗物は權勢に依り黄金に依りて瞞欺せられ、其閨閤の内秘を透觀すると能はず、乃ち一瞥したるのみにて唯之をゑらく氣高き御前とも奥方とも仰げるなり、焉んぞ知らん彼等は夕顔棚の下涼みに男はてゝら女は二布して天眞を娯めるものに劣れると遠きを。

想ひ見る一穗の寒燈光り微けきところ、寢顔を照されつゝある兒女の安らかに眠れる傍らに坐して針の手止むる暇もなく、一意衣を縫ふに忙しき妻は抑も誰が爲にか稼げる、多くは是れ其夫に新衣を供し又は生活の資を補はんとて誠心誠意その業を勵めるなり、翻つて夫の深閨の裡燈光有り餘れるを利用せずして徒らに顯を襟に沒し、俯首沈思しつゝ遣瀨なき涙を呑めるものを見れば人生の眞樂これに在らずして彼れに在るべきも、擧世滔々權勢に趨り黄金に趨るの世にありては、其迷妄を諭すに由なきなり。

思て此に到れば濫淫と貪慾との抱合に成れる幾多貴紳夫妻の間に於てせる情交甚だ冷かなる爲、放蕩にして痴愚なる兒女を產ずるも必然の結果なりと謂ふべく、血統の爭ふ可からざる所以實に此に在りて存す、若し之を實例に求めんか明治年間その事實の多きに勝へざらんとす。

旣に然り、血統上より觀たる多數貴紳の憐れむ可きと此の如し、而して新平民は如何。

想ふに四面よりする迫害は彼等をして寧ろ益々其意志を鞏固ならしめ、抵抗の氣力は内に蹐屈せるとと久しく、必らずや遺恨十年磨一劍の慨あるべし、而して其夫妻の間に於ける情交の濃密なるはかの貴紳のそれに

幾倍せるものあらん、况んや彼等は敢て其血統に於て汚れたる者にはあらずして純正なるもの寧ろ多く之あるべきに於てをや。

曾て聞く、戰國の時、亡命の士往々身を其部落に托して世を韜晦したる者ありと、乃ち知る古英雄の遺血また彼等の血管中に流注せられたるもの多かるべきを、たゞ時非にして彼等は久しく其驥足を伸すこと能はず、千里の駒も空しく槽櫪の間に斃死すること多かりしなり、之を維新當年の足輕に比し、草履取に比すれば其祖先の遠く優れるもの多きやも未だ知る可からざるなり。

事情此の如し、新平民たる者一たび此に思ひ到らば其血統に於ては敢て多く耻づることを要せず、寧ろ其汚れたる貴紳に對しては我より絶交を宣言し得べき理由あるなり、亦何を苦んでか彼等と對等の交際を求め、其女子をして漁色者の犧牲に供することを要せん、若し新平民なるが故にかの濫淫なるものも一顧を與へずとせば、眞に是れ人生の幸福なり、父兄は爲に權勢と黄金とに眩惑せず、其女子は由て以て貞節を全うし、人としての天眞を娛むことを得可し、新平民諸君それ自愛自重せよ。

附言　古來近親結婚は我國の風習として最も多く行はれたり、新平民種族にありては或ひは特に甚だしきものありしやも未だ見るべからず、若し然る事實ありとせば左なきだに壓迫を受け來りし其種族は漸次人口を減少せるやも測るべからざるなり、斯の如き破滅の兆候あらば宜しく大いに近親結婚を戒しめ、可成遠隔の地方に於ける種族と結婚すべし、勿論天刑病の子、肺病の子、黴毒の子を其家に入るゝ貴紳は遠からずして一族破滅す可ければ、斯る者に對して種族的勝利の凱歌を奏せんと欲せば、新平民は今より後よく其生殖の實况を調査し、以て他日の備へを爲すべきなり。

余の見たる日本の國病

博士リギヨル

三　悲しむべき現時の教育法（接前）

されど今日の青年の智識と良心とを指導し、其判斷をして正確ならしめんが爲めに、何等かの一定したる原理を與ふる時は、青年は其原理を標準として從來受け

得たる種々の害毒思想等を驅除して自ら其言動を矩畫する事を得べしと雖も、今日の教育に於て確立一定の原理主義なきを如何せん。各勝手なる道をたどりて勝手なる事をいひ勝手なる事を爲しつゝあるなり。

哲學は其性質上國民の言動を規矩する一團の光明なれども、それさへ確固たる基礎を缺くを以て、國家にとりて殆ど益する所これなし。今日の哲學者は何事をも論じて何事をも解決せず。故に現時の青年にして哲學を學び終りし後却つて始よりも解らずなりぬと嘆ずるもの多し。

往昔は宗教趣味の信仰ありて教育の基礎をなせりき。人々信仰の定規によりて事を行ひしを以て其言動は少しも矩を越ゆるものあらざりき。畢竟これ宗教の力なり。然るにルーソーは其著「エミール」に於て、人は無宗教的に教育せざるべからず、二十歳を超ゆるまでは神の名をいふべからず、靈魂の不滅を説くべからずといへり。かゝる殺風景なる提供を全くせんが爲めに教育より宗教を省く事は殆ど今日の定則となり了んぬ。吾人より之を見れば教育より宗教を省くといふ事は其の行く所を定めずして荷を負はしむるが如く、彼れが向ふべき所を教へざるなり。憐むべき哉、宗教を顧みざる教育家は人の一生に於て人が何を爲すべきか、又何處に歸着すべきかを知らず、之れを知る事によりて人生萬事自ら明かなる所以を解せざるなり。ルーソーの教育主義を取る人は自ら大いに省みる所あらんことを乞ふ。彼ルーソーは果して此點に就て如何なる方針を取りしや。夫れ或はルーソーに眩醉するもの丶知らざる所ならん。ルーソーは彼自ら其子を教育せざりき、而も子なかりしに非ず、皆不倫の子にして一人も自ら養はず、悉く孤兒として宗教を信ずる婦人の手に棄委せり。彼は宗教家が能く之れを育つる所以を知るを以てなり。これを現教育の大先生となす、自身の子を育てざるものが他人の子を教育するに就て「エミール」と稱する空想の書を著せり。之れを經典視するエミール教育家以て如何となす。

かくの如く現教育の悪結果を見て罪を教育家のみに歸するは當然の事なりと雖所謂教育家のみ罪すべきに非ず、其の教育主義なるもの丶罪や更に大なりといふべし。余は寧ろかゝる不完全なる教育主義を以て立てる先生にして世に教育家と稱せらるゝものゝあるを怪しむものなり。

抑も教育は其職に當らんとするものに如何なる責任を

附與するか、或る有名なる教育家の言によれば「教育は自由なき生命を與へ、休止なき生命を與へ、爵位（表面上）なき生命を負はしむるものなり。換言すれば教育は自己を小にし、自己を束縛し、自己を補足し、時に或は自己を捨てざるべからず。故に尋常一様の誠心にてはこれ足らず、非常なる熱誠を要するものなり。而して其熱誠たるや萬事に行き亘らざるべからず、子弟の品性にも學術にも健康にも内外大小總ての點に及ぼし、又其美點は固より缺點にも及ぼさゞるべからず。子弟の苦患厭惡失望にも及ぼして之を慰藉し同情せざるべからず。一言以て之を掩へば萬事を引受くる親切なかるべからず。子弟が心の高尙なる要求を初めとし子弟の物質的生活の卑き需要に到るまでも飽く迄親切ならざるべからず、之によりて之を觀れば斯かる重き天職を盡さんと欲せば世の父母が子を思ふ誠心よりも猶熱き誠を有せざるべからずと。

然るに現日本の思想界に於て輿論と稱し公論と唱へ或は主義といひ理想といふものゝ中に於て、教育家をして家庭の父兄よりも親切に其子弟を教養せしむる動機となるものありやなしや、今の所謂口ありて手なき談論家が机上に陳列せる品々は外見美なりと雖も實際に試用する時は何等の功もなくして一塲の笑柄に終らざるものなし。然らば現に教育家を左右しつゝある動機はそも何物ぞや、唯一あり。曰はく黃金なり、今や世人皆黃金を拜し黃金に服從せり世道人心を導く教育家すら金力に動かさるゝに至りぬ。然りと雖金力如何に萬能なりと雖之れを以て如上の熱誠を買ふ事能はざるを如何にせん。人をして己を捨てゝ献身的の事業に就事せしむるには黃金以外のもの以上のものを求めざるべからず。利益よりも更に高尙なる目的物を有せざるべからず。余は之を宗教上の理想といひ信仰といはん。

今日教育者の品性權利及び其職掌の重みが、いたく失墜して人より輕蔑せらるゝに至りし源因は那邊にありやといふに、今日の教育者は高尙なる目的、理想確信を缺くを以ての故には非るか。往昔は教育家が最高の地位にありしこと、恐らくは西洋のみにはあらざるべし。當時の書を見るに社會の公職に在るもの、就中青年子弟の教育に當れるものよりも、より大いに國利民福に貢献をなすものはあらじ。隨て之れよりも尊むべく感謝すべきものはあらざるなり。國家は教育を支配する大臣を最も必要とすといへり。他の有司例へば司法大臣は罪人を捕へて之に嚴正なる所分を下すのみ。

されど之れ罪惡を根本より滅却するの謂にあらず、唯罪過を所罰するのみ。苟も人心を支配する有司は然らず、如何に之れを所罰すべきかを尋ねず。如何にせば其害惡を矯正する事を得べきかを考ふるものなり。故に天下の青年子弟たるものは、教育家は自己の形骸上の親に非ずして、精神上の親たる事を記憶せざるべからず。

靴工あり、怠惰にして其職掌を盡さず粗末なる靴を造りたりとするも國家は之れに對して左程の損害を感ぜず。唯國民の或者が形醜き靴を穿けりといふに過ぎざるなり。然れども教育者が其天職を盡さゞる時は國家は大影響を蒙らざるべからず。遂に國家の將來を危險に陷るゝに到るものなり。

之れによりて余は教育者を最高の地位に置くを怪まざるものなり。昔し先生と稱せられし人々は其國の學術と道德は其一身に集まれり。一國の氣魄權化して當時の教育家となりしもの。教育家は國民の良心たり世表の龜鑑たりしなり。されば地上に於ては人間の精神の上に絕へず感化を及ぼす所の教育の業よりも高尙なる天職は非るべし。されば國家の偉大なる人物といふは決して政治家に非ず軍人に非ず、遠大なる識見と寬大なる心情を以て奉公の政治家となり忠勇の軍人となるべき者に光りと命とを與へて天下後世の人々に眞理と道德との遺産を殘すものなり。

之れによりて考ふるときは往昔の先生が絕對的權利を帶びたりし事と及び到る所に尊敬を受け、死後に於ても神視せられたるも理なきに非ず。

往昔の教育家は斯くの如き見識を以て子弟を教へたりしを以て、其思想及び其事業は長く門弟の腦裡に印し弟子は師の面影により思想によりて其生涯を終りしもの多きなり。古聖賢に弟子なるものあり學徒なるものあり、皆これなり。されば當時の教育は簡單に定義するを得るなり。曰はく教育は權利と尊敬の事業なり。現今の教育に於ては教育者に權利なく被教育者に尊敬の念なきは何ぞや。今の教育家は無名の教育を施しつゝあるを以てなり。學者徒らに學術を叫び何事も皆學術の爲めと稱すれども、畢竟其尊ぶ所の學術は何を教ふるか、人間は物塊に過ぎず、其作用と愉快との爲めに凝集せしものなりといふ。かゝる學問によりて歸納されたる人生の目的は物質的快樂以外に出づる事なきは明々白々の論理なり。さればこそ先生自身は唯金儲けの爲めに教育を人に施しつゝあり。されど其利得も左

程大ならずと見へたる子の家豊かなるもの甚だ少し、これ或は教育は營利の業として全く不適當なるには非るか。斯くの如き教育を以て青年子弟に權利と尊敬の思想を起さしめんとす蓋し難い哉。

今日世に所謂權利なるものは唯其一人の爲めに與へられたるものと思惟せり。故に他人の自由をも奪ひて、己れが其上に立ち配下の者の尊拜を受くべき筈に心得たり。これ大なる誤謬にして權利の其人に與へられたるは他人の利福の爲めに與へられたるなり、同胞兄弟を支配するに非ず同胞兄弟を助け導く爲めに天の命より出でたる束縛なり。位高きは束縛の固きなり責務の重きなり。故に權利なるものは事を命ずる時にも配下若くは同胞の利福に從ひ仕ふるてふ念慮を缺くべからず。教育者に於ても然り、總ての權利は其子弟の爲めに計らざるべからざる義務、束縛なる事を忘るべからず。

かくの如く見る時は權利は今人の想像する如き一人の利益名譽特點の爲めに非ずして他人の利益を計らんが爲めに其人に負はされし重き責任にして、全く今人の解釋に反す。されば徃昔賢明の士皆權利を得るに當りて其重任に耐へ得るや否やを痛く氣遣ひしものなり。事古りにたれどプラトンの言に「吾人に其子弟の教育を托せんとする父兄は、吾人が其適任者なりと證明を與へられよ、然らざれば他の適任者に其子弟を托し給へ、吾人は子弟の一生をして危險に陥らしむるに忍びざるなり」と。天下の有爲有望なる子弟を教育せし奮先生は斯くの如し。今の授業料を貪らんが爲めに規定を侵しても猶多く生徒を收容せんとする教育家以て如何となす。

貧民狀態の研究（上）

横山源之助

下層社會の研究は余が十年前より志せる所にして、今も尚ほ之に注意を置き、日夜思を潜め居れりと雖も、俗累纏綿、其の研究に專らなる能はず、依然として呉下の阿蒙たるは余の窃に耻づる所なり。爰に年來坐右にして研究に供へたる調査項目を擧けて、江湖識者の是正を請はんとす。

下層社會の研究を行ふに當りて、先づ最初に起るは貧民てふ文字の意義なるべし。抑々貧民とは如何なる者ぞや、研究者に依りて各々相違あり、試に今日行はるゝ實例に依りて區別を立つれは、一、生活に不如意な

る者にして貧窮の生活に在る者を悉く貧民の中に加ふる者あり、其の階級の普通勞働者たると技術を要する職人及び工場職工たるとを問はざるなり。二、特更に範圍を一定の場所と職業とに撰び其の限られたる範圍に居住する者を貧民と爲す者あり、新聞紙上に散見する貧民窟探檢記事の如き概ね之に屬す。三、貧民救助法の制定及慈善事業の上より見地を立て不具癈疾鰥寡孤獨の類に意を致す者あり、法律學者及慈善論者の云ふ貧民の如き之に屬す。四、工業革命の近世社會的變遷より議を立て特に工場職工に就きて意を置く者あり、社會主義を唱へ勞働問題を論する者悉く之に屬す。
五、更に範圍を一部分に限り或特別なる生活社會の研究に止むる者あり、故柳瀨勁介氏が新平民の一事に十年の精力を注ぎたるは最も適例なるべし。

其の研究の態度に於ても大畧二樣の別あり、單に生活狀態を敍述し描寫して其の實際を穿つを專らとする者あり、民友社出版の「最暗黑之東京」の如き、一昨年及昨年の文藝倶樂部に連載せられたる「貧民窟」の如きは、蓋し其の一例にして、專ら文學者の間に行はる。深く數字に重きを置き統計に依りて研究を下だす者あり、社會學雜誌には常に此種の研究續出す、前者は文學上の研究にして後者は經濟上の研究たり。初期時代の貧民研究は概ね前者の方法を取りしが、今や第二の方法を取る者大に增加す。而して我國に於て未だ嘗て歷史的研究を企つる者なきが如し、唯た僅に柳瀨氏は新平民の來歷に研究を極め、小宮山綏介氏は細民間の融通機關たる頼母子講等の沿革を採り、横井時冬氏は德川氏以前の各種職人の技藝を日本工業史に發表せるを除きて余輩は他に研究者あるを知らざるなり。啻に過去の事實を研究する者少きのみならず、歐米の書籍を讀む者多きに拘らず、彼の貧民狀態と對照して比較研究だも企つる者なきなり。

以上、固より學術上の分類にあらず、今日我國に行はるゝ實例に依りて漫然區別せるに過ぎざれば貧民の意味の如きも甚だ不分明にして殆んど一定せる者あるを見ず。余輩亦た貧民の範圍を定めんとを欲すれども、其の種類を擧ぐるに止めて暫らく其の定義を曖昧に附す、蓋し貧民の性質は、研究者の目的に依りて各々其の種類を異にするが故なり。而して余輩は最も廣汎の解釋を取り中等以下の社會民人は悉く之を貧民の範圍に加へんとを欲す。鮫ヶ橋万年町等に居住せる雜業者は言ふ迄もなく、日傭人足、人力車夫の普通勞働者は

固より、技術を要する職人及び工場職工の如きも同じく之を貧民に加へ、力役者外の屋臺店、大道店、棒手振の小商人も之を同一研究の下に置かんとす。唯た其の間に程度を置くのみ、即ち余輩は貧民の意味を細民と同一にし、中等以下の生活社會は悉く之を貧民の埒内に加ふるなり、要するに、余輩の貧民研究は中等以下の社會一切を包容する下層社會の研究なり。

而して余輩は貧民研究を一般と特別との二大項目に分つ、一般的研究としては

(1) 他府縣より移住し來る人の增加の割合
(2) 精神勞働者と體力勞働者との增加比例
(3) 東京市の細民は如何なる職業に從事する者最も多き乎
(4) 東京市政の貧民及勞働者に及しつゝある程度
(5) 社會問題の及びつゝある範圍如何
(6) 東京市に在りて最も貧民多き所は那處ぞ
(7) 貧民部落　附、貧民部落の變革

右は一般研究の調査概要なり、特別研究には、職業、住居。融通機關。共濟制度。風俗。衛生。宗敎。敎育。貧民に關する法令規則。慈善事業。特別の階級。の十一の大項目に分つ。其の職業には

▲一　技術を要する職業

甲　從來の職人

イ　職人の種別

職人の類別法……(1)維新前より存せる者と後に起りし者、(2)技術の精粗(美術的と然らざる者、)(3)輸出貿易品に從事する者と然らざる者、(4)居職人と出職人

ロ　居職人と出職人

舊幕時代に於ける職人制度―職人に關係せる當時の風習―小說戲作者の描ける職人氣質―維新當時の擾亂―兩者區別の錯綜。

ハ　居職人と問屋との關係

舊幕時代に於ける問屋の位置―仲繼人と問屋との關係―仲繼人と居職人との關係。

ニ　出職人と得意場との關係

得意場は一種の株なり―得意場の橫奪―出職人と受負事業―技術の衰退。

ホ　同業組合

太子講の沿革―自由主義最盛の時代―組合の堅固なる職人―大工は何故に一致せざる乎。

ヘ　親方と徒弟との關係

舊幕時代技藝習熟の方法―ワタリの慣習―見習年月―禮奉公―師弟道德の變遷

乙・工場職工

イ　從來の職人にして工場職工に變化せる者

ロ　職人と工場職工との比較

ハ　工場職工の失業者

▲二　技術を要せざる職業（所謂普通勞働者）

甲・普通勞働者の二大種類

イ　日稼人足

日稼人足の類別……(1)道路人足、(2)土方人足、(3)工場人足、(4)手傳人足、(5)車力人足、(6)荷上人足。

ロ　人力車夫

人力車夫の類別―「ヤド」の親方の占むる利益―「バン」の組織―街鐵馬車の乘客及其の收益と人力車夫全體の一日收入―人力車夫と警察規則―人力車夫の運命。

乙・雜種の稼業

イ　貧民部落の職業類別

ロ　德川時代の大道稼業

ハ　東京市の內職一班

丙・小商人

イ　小商人の類別

ロ　小商人と職人との比較

ハ　貧民部落の小商人

以上は特別研究の第一項たる職業の調査細項目なりとす。而して職業研究に附屬して調査を要するは勞働の供給方法たるべし、余輩は今日現在する紹介機關に對し、之を新舊の二者に分ち居れり、而して舊式の紹介方法として桂庵の組織、來歷、惡弊等を研究し、特に潛り桂庵の消息を審らかにせんことを欲す。職業紹介所の績設、新聞社の職業紹介等の如きは、彼の桂庵に比して大に趣向を異にすと雖も、勞働の供給機關としては尙ほ未だ完からざる者多し、特に職業紹介所の如きは、即ち桂庵の外觀を異にせる者のみ。余輩は歐米の勞働組織に鑑み、一方には新聞紙の職業紹介の普及するを望むと共に、更に今日の職業紹介所を改善し、勞働者に同情ある紳士の手によりて、誠實にして簡易なる文明的紹介所の起らんことを欲して已まざるなり。

（以下次號）



海外大勢

波斯灣頭の英露

近頃英國下院に於てサー、エドワードグレー氏曰く、波斯の獨立は只一の空語なるのみにして年々歳々其意味を弱めつゝあり、吾人は我大英帝國と露西亞帝國が波斯の完全を持せんが爲に連合を繼續せりと聞く時は、此の連合は空虚なる一物を保たんが爲の方法たらざるかと恐るゝものなり、思ふに吾人にして單に波斯の保全を目的として政策を行はゞ恐らく何物も保全し能はざる時來るべしと、此は頗る喝采を以て世に迎へられしが、波斯問題が如何に重且大なるかは言を俟たざる所にして、蓋し大亞細亞問題の要衝點英露の二大强は互に波斯の國境に相對立し相牽制して波斯國王は宛然歩卒に圍まれて逃場所なき王將にも似たらんか、此に關し倫敦タイムス通信員は波斯問題の亞細亞の生命に影響する長論文を草し其中に曰く

波斯問題は亞細亞の將來を卜するに足るべき大問題なり、歐洲の最大强たると同時に亞細亞の最大强たる英露二國が將來永く友誼的の競爭を以て其平和の使命を滿たさしむべきか、將又血雨を降らしめざる可らざるか、波斯なる一國はその試驗紙たり、而して波斯問題の殊に興味ある所以は他の亞細亞問題即ち清韓等に付ては幾多の與國亦一片の肉を味はんと、英露に附隨して肉叉にて突く事急なれども此問題は只英露の二國のみにて他の邦國與らず恰も苦しき最后の呼吸をなせる波斯なる一病人の枕邊に兩々肩を怒し臂を張つて只二人の縁者が遺産を爭へるに似たり。

と現今の形勢にては露國の勢力やゝ英を壓し英國は北部地方を擧げて敵手に委したるものゝ如し、然れども南方波斯に至ては英の根據頗る堅し、タイムス通信員は更に論じて曰く

過去に於て英佛及墺の士官は交々波斯軍隊の革新を計りしも凡て徒勞に歸せり、然るに露西亞の士官等は最後に此任に當りて充分なる成功をなせり、此は正しく彼等の背後に强力なる援助ありし爲なるのみならず彼等が實行せる手段の宜しきを得たるを以てなり、露國の士官等は決して波斯軍隊を一括して取扱はずして、面々の一部隊に分ち充分自己等の勢力を普く布きて后欲するまゝに滿足する迄練兵せり云々

かくして露西亞は今や波斯を掌中に飜弄しつゝあり、「タイムス」紙論じて曰く

顧みれば十九世紀にテヘラン朝廷に對する吾人の勢力は論を要せずして明に大なりき、加之波斯皇帝の領土至る所として吾人の勢力布かれざる無りき、而して吾人の勢力失墜し初めしは僅々四十年以來

にして、實に波斯が亞細亞問題の随一となりし時代よりなり、此衰退の原因は果して何ぞや、蓋し小許の勞を吝みしと前見探察を缺ぎて取る可き手段を取らず、行ふべき政策を行なはざりしに依るものにて、かく吾人が怠りつゝありし間に他の一國露西亞は進取の計策其實行少しの絶間なかりし、「波斯の衰亡を速かならしめ、波斯灣を貫き、レパントの通商を再興し、世界の實庫たる印度に進め」とは實に百五十年前彼ピーター大帝の喝破せる所なり、かく一歩は一歩に彼は漸々目的地に近づかんとす。

此は英人に取つて實に恨惜に堪へざるものなるべしと雖ども、南部に於ける英の根底深き勢力は又以て慰藉の材料たるへし、南方波斯に於ける英國の勢力は波斯灣に對する特別の關係より來るものにして、英國が當初海賊群を討滅せしに初まる、當時英國が海賊討伐に力を竭くせしは决して土地占領などの野心を有せしに非ずして波斯海をして安全なる商業上の通路たらしめんとの單純なる希望に出でしなり、然れども今や大英帝國は自己勢力範圍の廣狹如何を氣遣はざるべからざるに至れり、而して一方には露國が熱心に波斯灣に突出せんとを欲せるのみならず、更に獨逸は今灣の一港を得んと暗々裡に計策しつゝあり云々。

而して今眼界を大にして世界政策上より此問題を見るに、現今英國の思潮は正しく二派に分たる、一は雌雄を砲火に訴へて决すべしと云ふ論者にして、他は露國は波斯に於て吾人を妨ぐる行動をせざるべく又全亞細亞何れの地方にても吾人の懸念を要する如き行動なかるべし、むしろ英露二國相親和して獨逸を抑ゆるに如かずと論ずる者なり「スペクテートル」、「國民評論」等は此論者にして、國民評論の如きは英露の親和は英佛の親和に繼きて爲されざる可らざるものなりと切言し、盛に獨逸攻撃の鋒を弄せり。

有望なる加奈陀

加奈陀の富源と富饒なる事に付きエラスタスワイマン氏は四月の北米評論誌上に載せて曰く

加奈陀商務省の報告によれば千八百九十五年より千九百二年迄に外國貿易の増加せると九割一分にして一人宛平均七十弗に當れり、輸出品中特に加奈陀産のチースの如きは外國市場中の優等品となり永く名聲を保つべしと云ふ、かの加奈陀と合衆國合併說の如き加奈陀人は夢にも思はざる所なり、此は加奈陀人が合衆國人を愛せざるが故ならずして彼等は自力を以て自國を進歩發達せしむるに熱沖せる故なり、而して一方に合衆國人は充分加奈陀を熟知せず面積巳に合衆國全躰を超過せるさへ氣付かざる有様なり、試に見よアラスカに於ける兩國の領地を除きて比較するに加奈陀は耕作に堪ゆべき土地は合衆國の夫よりも廣きこと實に五十万方哩なり、加ふるに其地域中には世界の淸水湖の半以上を有せり、之尤も誇るに足らずや、此五十万方哩は實に北西加奈陀を含むものにして加奈陀太平洋鐵道開通以來僅々二十年間に往來耕作自由なるに至れり。

北西加奈陀に於ける小麥耕作業は尙問題たるの觀あるも、加奈陀は此業に付き少なくとも合衆國に勝る一の利益を有せり、即ち耕作の價格少なきと運搬の便利裕なる是なり。

加奈陀に於ける富源の他の一は製紙原料たるの森林なり、大森林はニューファウンドランドのラムラドール及ノヴァスコチヤより西北アラスカに及び、セントローレンス溪より其平野を超へ殆んど北極圏内を徒し其森林の掩ふ面積四億五千万エーカーに達す、而して此の地方の水運の利便は世界無比なれば此の業の進歩の速かなるは實に驚く可きものあるべ

し。

更に轉じて鑛物の生産如何を見るに、鐵鑛は太西洋より太平洋に至る隨所に存在し其中重なるものは晩香坡と大陸の中間なるテクサダ島あり、加奈陀太平洋鐵道クロースネスト線に沿へる邊にも又數ヶ所あり、其他アチコカン地方の如きアイオン湖フランセス及ヘレンの赤鐵鑛の如き到底擧示し盡くす可らず。

又石炭に至ては世界に供給して尙剩りある可く、未だ精探を經ざるを以て確知する能はざるも其鑛脈は華盛頓洲界より北極圈内に達せりと云ふ、其他加奈陀鑛山局の調査せる所によれば所有鑛物一として加奈陀内に有らざるものなしと稱せらる。

太平洋上第一の巨船

（北米對東亞貿易）

北米合衆國の異常なる大進歩は世の驚嘆する所なるが、其東亞商業上に於ける勢力も亦正に他國を壓せんとしつゝあり、而して其の原因に付ては討究頗る喧しきが中にもハーリングトン、エマーソン氏が「エンヂニーヤリング」誌に寄せし一文は中々面白き節あり、曰く

數年前には太平洋又は印度航海に用ゆる能はざる程老朽せし滊船を太平洋に廻して充分役立たせ、西米戰爭時代迄は加奈陀太平洋鐵道會社のエンプレス號の三姉妹船を除ひては他に一隻の一等船舶もなかりしが、今や亞米利加に建設せられたる最大滊船は太平洋航路に向けらるゝに至れり。從來米國東南方の諸州より東洋に輸出する鉄軌及附屬品、鑛山器械、煙草棉花の如きものゝ鐵道運賃は非常に不廉にして殆んど禁止的なりき、即ち新諸貨物を紐育より桑港に送るには紐育より倫敦に送るよりも二倍額即ち紐育よりスエズ地峽海峽殖民地、香港、横濱を經てブーゼット海峽に送る運賃と等しかりき。されば太平洋海岸の輸出入著しく増加せる望起りしと同時に米國鐵道全体に就ての大改革行なはれざるべからざりしなり。

蓋し太平洋岸に貫通せる鐵道は皆營業に依て利せんよりも寧ろ發起人等の私利を目的として建設せられしを以てかゝる禁止的不廉の運賃なりしなり、然るに此等の鐵道に對して公平の目的を以て太平洋貿易の爲に起りしをゼームス、ゼー、ヒル氏の大北鐵道とす、ヒル氏は決して補助金等を目的として此大鐵道を發起せしに非ず、彼の志す所は一に豊富なる運搬にありしなり、されば彼は鐵道の終點を太平洋岸最良港の一なるシヤートルに置き世界の大滊船會社の一なる日本郵船會社と相連絡して、加奈陀太平洋鐵道の手中より生絲茶等輸送の一部を奪ひ初めたり、玆に於てか米國對東亞貿易は全く新生面を開くに至れり。

初めヒル氏は凡て他の大陸横貫鐵道を敵として立つ目的なりしも、計らずも北太平洋大北及バーリングトン三社の共同棉花輸送契約成立し、米



（暹羅皇帝陛下）

國より太西洋及歐洲を經て亞細亞に送れる棉花を奪ひて凡てシャートルより積み出す計畫に一致せり、されば北部及南部諸鐵道の敵は只一の談柄たるに止まり、如此事業の規摸已に偉大なるに加へて、待設けし敵とは手を携ふるに至り、大北鐵道は今や非常なる幸運に際會しヒル氏の雄心勃々抑へ難く玆に世界第一の大汽船を築造して太平洋上に覇を稱せんとするに至れり。

此大滊船はミネソタ號と稱し本年四月十六日米國コンネクチカット洲ニューロンドンに於てヒル氏の手に依て進水式を行へり、其總噸數二万八千噸にして有名なる獨逸船にして先日漢堡より紐育に向て初航海を行ひしカイゼルウイルヘルム二世號より大なる事一万二千噸なり、而して乘客用としては上等室百七十五、中等百十、特三等七十、三等二千四百人を收容するに足り、尙乘組員用として士官室四十八水夫用臥床二百三十を供ふ、而して此船の姉妹船ダコタ號も亦近々進水式を擧ぐべく、何れも本年中に竣功して來春早々堂々たる雄姿正に太平洋を壓し來るべし、今に歐洲の貨物も絡束は悉く太平洋を經て來るに至り、太平洋の前途更に其面目を一新せん。

露國に於ける新舊兩思想の衝突

前號にも譯出し於ける如く露國の紛亂に就て後歐羅巴諸紙の傳ふる所にして誤なくんば聖彼得堡城中は今や新舊兩思想の衝突に火花を散らしつゝあり、皇帝ニコラス二世は高潔なる精神を有せる青年にして露西亞は愚か世を擧けて改革せんと欲せるも、幾多の反對と障害は之を壓し殊に前號に略歷を揭げし內務大臣プレウエ氏の如き熱心なる專制論者ありて其伎倆を恣にせりされども又他面には大藏大臣ウイッテ氏の如き熱心なる自由主義の友あり、露國皇帝は自から改革案を起草して先づウイッテ氏に示せしに氏は再讀の後其行なはるべき旨を答へしより、次て皇帝は之をプレーウエ氏に示せしが氏は激しく反抗の言を發し爲にウ氏とプ氏の間に大論爭を生ぜりと云ふ、巴里ダム紙に曰く



（暹羅皇后陛下）

プ氏は天性の專制家にして何時にてもウイッテ氏と相反せる地位に立つを辭せず、又ウ氏は決して極端なる自由思想家には非ずと雖ども其能く世間に通曉せる觀察と實業的實驗と新思想の充溢は若干の改革新智識の輸入を欲せざらんとするも止む能はざらしむるものあるなり、かゝればウ氏とプ氏が幾多の事に付て每に意見を異にするは素より怪しむ可きに非ず。

政界の風雲已に暴き事彼が如く、英邁の皇帝徒に思に悶へさせらるゝさへあるに、一方露國農民の現狀を見れば實に慘鼻に堪へざるものあり露國の田舍制度は一種奇妙なる風にして農民等はミールと稱する一團體中に集まらざる可らず、而して此ミールは一の家長會議とも稱すべ

きものにて、若し一人の農夫市に出て、職を求めんと欲し郷村を立去る時は必ず旅行券を携へざる可らず、此旅券は即ち前記のミールより下付するものにして毎年書替を要するのみならず其に對し若干の税を納めざる可らず、勿論其ミール中に住する時は旅券の必要なきも、少許なる田畝の收入は到底支出を償ふに足らざるを以て農民等はミールに請て都會に出稼ぎ以て收入の増額を計らんとする者なり、而して未だ一家を成さずして父の家に寄寓せるものは先づ豫め父の許諾を要す、加之露國の田舍は婚嫁甚だ早きを以て都市に出稼するものは何れも妻を殘して父母に仕へ田畝を耕やさしめ、己は都市に出て、多くは職工となる、一度職工となればアルテールと稱する仲間に加入せざる可らず、此アルテールは甚だ奇妙なる職工組合にして、組合員は働の大小に係らず自己の入費を差引たる殘額は全組合員に平等に分配せざるべからず、前記の旅券を若し毎年書替ふるを怠りし時は直に郷里に招還せられ再び外に出づるを禁ぜられ法律上何等の權利をも認められざるに至る、かくの如く壓制にして面倒なること多きより彼等の多數は不平满すに處なく、辛酸零落身に迫ると共に、法網を脱して世に横行し政府に反抗するに至るなり。

今春皇帝の詔勅は此旅券制度の苦より免れしめたるも農民及勞働者の不平は現今の如き腐敗の地方專制行はるゝ限り如何なる改革來るも到底醫せらる可きに非ず、以前は露西亞の改革黨は自己の理想の爲には身命を忘れたる決心堅き數百の男女あるのみにて、所謂教育ある人士は暴虐政府顚覆に幾分の仝情を寄せしも農民職工等は全く無頓着なりき、然るに今日は一度いづれの階級かゞ反抗の旗を擧ぐれば嘗に直に上下の全階級に仝情の夥しきのみならず、實際上の援助あるに至れり、思ふに現世紀露國青年の如く智識を渇望する青年はなく、露國人民の如く自由を希待する人民はなかるべし。

海外雜纂

西比利亞流罪人の慘狀（承前）

ウイント氏
蒼生譯

追放人の生活

「スレドニー、コリムスク」の追放者に、斯くまで狂人の多いのは、一つは身躰の苦勞が過ぎるといふとも與つて大に力があるやうに思はれる。如何に富有に暮して居たものでも一旦西比利亞へ追放されるとなると、財產は全躰政府へ沒收されて了つて、錙一文も身には殘らない。其代りに、配地ての生活には、政府から扶持として、月々一定の給與金を送つて與れる、ところが其の給與金は地方に依りて、大に差異がある。「パーメホヤンスク」ては一ヶ月に、十六ループル、又「スレドニー、コリムスク」ては一ヶ月十九ループル（凡そ英國の一ポンド十六シルリング許）に定まつてある、副に物價騰貴の場合には猶此外に、六シルリングを加へるといふ恩典はあるが、何分千二百哩餘も隔つてゐて、双方の事情が通じないのてあるから、いつも恩典の方は屆かぬ勝ちてある。又場所によつては、即ち交通の稍開けだる最寄の部落からてすら非常に隔れてゐて、而も猶歩てなくつては達することが出來ないやうな邊鄙ては、日用品は、何時も飢饉時ほど高價てあるから、給與は常に不足を告げてゐる、吾等が此

の「コリムスク」て滯在して居つた時は、麥粉の價が一ポンド、一ループルて、磚茶の下等なのが一ポンド、二ループル、蠟燭や砂糖や食鹽などは「ヤクック」に比して殆ど五倍も高い、處が其の「ヤクック」ては物價は大抵本國の三倍であるから、「ゴリムスク」て物を買ふには丁度歐洲て十五倍の價を拂はればならぬ割合になるとは實に驚かざるを得ぬ、鹿肉は前にもいつた通り、殆ど禁じられてゐる有樣であるから、追放人が冬季の食品といつては前年の夏に捕へて蓄へて置いた魚肉のみてある、然るに其の魚肉たるや、鹽がしてない爲めに、脆弱て、丁度腐つたやうてあるから、味も何も無ければ、迚も身躰の營養などになつたものてはない！而も斯る腐肉てさへ晝飯の時だけしか食べないのて、朝飯と晩飯とは粗製の黑麵麭一片と、薄き茶一盃とて、すましておくのだ、砂糖と來ては其の珍重されること一通りてなく、茶など飲む時には一寸、塊を齒間に嚙んて、そして茶を飲む、飲んて仕舞つた後は、又其塊を口から取出して蓄へて置く、斯くして砂糖の一塊は四日も五日も使用されるのてある、たとへ政府の給與は斯樣に不十分てあつても、他の住所や衣服などが一通り備つてさへ居れば、どうかこうか身躰や精神を傷はずに暮して行くことが出來るのてあるが、併し之等も亦一つも滿足に行かない、だから追放人の中には仕方なしに、此地土着の住人てすら捨てゝ住はぬやうな汚はしき朽ち壞れたる小屋に潛り込んて、おまけに皆々着物は薄着てあるから、冬の間は斯る濕つぽい毒氣ある小屋てすら離れることが出來ないのてある。

「エム、ストラシエプスキー」氏は極めて親切な、眞面目な、同情心に富んだ「ポーランド」の紳士てあつた、其人の家は此處ての最も上等な建物てあつたが、猶、高さは僅かに二間ばかりしかない平屋根の低い、泥て塗つた矮屋に過ぎなかつた、それても隣りの建物などに比べては數时も高く突き出て居た、其中には縱二間二尺横一間四尺ばかりの廣さを持つた室があつて、柱は荒削りの丸木て、床は平土間になつてゐる、室の隅々には何年來といふ煤埃が堆く積つてゐて、煤煙や木脂のため黑光りに光つてゐた、窓は氷を張りつめて日光取としてあるから、いくら晴れた日でも、太陽の光が薄黃色に輝いて、室内は常に鬱陶しい、小高い臺の上へ、板二三枚並べて其上へ鹿の毛皮を敷いだのが即ち主人の寢臺てあつて、机も同じやうに四五枚の板から出來てゐて、書物やインキなどが其上に散らばつてゐる、石油の空鑵て以て椅子の代用をさせてある、余が同氏を訪うて其椅子の上へ腰を下した時氏は土の竈の前へ行つて木の片切を燃やした、それがほんの暫く燃えてゐて直ぐと消えた、すると主人は直ちに室から飛び出して屋根の上へ攀登り、手にせる繩襪附て煙筒の口を密鎖した、氏の云ふ處によれば之は部屋を温めるための「ヤクック」式とてもいふべきやり方てあつて、經濟上一般に此地方て行はれてゐるさうだ。何故なれば「コリムスク」ては薪が非常に高いからである、併し此日は華氏寒暖計て零下四十七度の寒さてあつたから、此の方法すら何の益にも立たなかつた、氏は曾て「ワルソー」て非常に繁昌した辯護士てあつたが、既に此の憐れな穴窟て八年間、別に大した障りもなく暮してゐるそうだ、そして猶暫くは此の寂しき生活を續けねばならぬと物語つた。

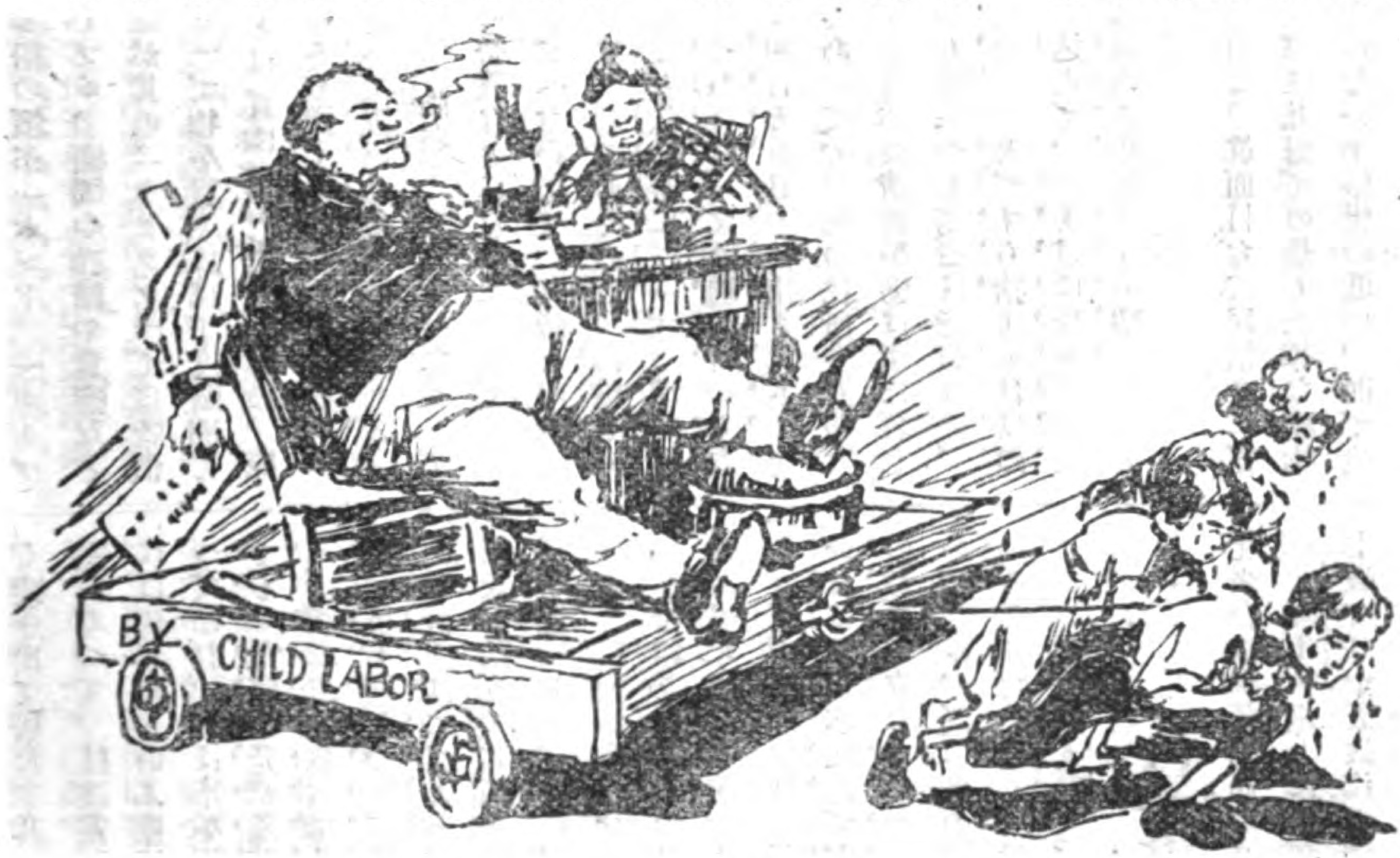
（以下次號）

合衆國の幼年勞働者

北米合衆國勞働局のウイルアムエスウォードピー氏は四月の「フランクレスリー」紙上に幼年勞働者の狀態を掲載せり、氏の統計に依れば現今十歲より十五歲迄の幼年勞働者合衆國内にて百七十五万に上り、多くは棉花及羊毛等の工場に於て重要なる職務を執れりと、而してかく幼年勞

働者の多き一因は玆に孤獨なる一人の勞働者と夫婦にて五人の子供を連れたる者と仝時に傭入れを求むる時工場支配人は孤獨の一人を拒絶して大勢の家族を有するものを傭使するが爲めなり、是れ家族全躰を職工たらしむるを得ると共に彼等は物品の消費者需用者となるを以て二重の利あればなり。

右ウオトドビー氏は工場及び石炭破碎等に働ける幼年工の慘狀を述べて、工場規則を一層嚴重にし速かに此等の罪惡を除去せよと叫び、進んで諸洲の工場條例を評論指摘し、且つ曰く典據すべき報告によれば南カロライナ洲の洲廳を去る一哩邊に存在する五の紡績工場には六歳乃至十四歳の幼兒を千人以上雇役せり。幼兒勞働問題に關しては一方に於て廉なる賃銀の仕拂を望む傭主の强慾と及び自己の幼兒をして製造場礦山等に勞働せしめざるを得ざる彼等の親の必要を防遏せざる可らず、又他方に於ては小兒年齡詐稱の惡弊を禁止し、尙教育程度を驗査せざる可らず、而して又各洲に於ける傭使し得可き小兒の最低年齡を十六歳と規定せざる可らず云々。



（幼年勞働の眞意義）

子に働かせて親が樂をする

寫實小說の害毒

（トルストイ伯夫人對アンドリエフ）

小說殊に戀愛小說に於ける寫實の限度は如何、又小說家は此方面に付て世人の劣情獸慾を挑發する事なくして如何なる點迄筆を揮ひ得るか。

此の問題はかの有名なる道德的小說家トルストーイ伯夫人に依て論ぜられ露西亞の新聞雜誌に顯はれて、文學者批評家等のみならず一般讀書社會より論議盛んなり、抑も此論議の起因は現今露國にてゴルキーの後繼者と呼ばれトルストーイ伯の文學上の孫なりと目せらるゝ若年の文學者レオニドアンドリエフの一著書に付きトルストイ伯夫人が激しく攻擊非難したるに初まれるものなり、今其批評の的となれる小說は「霧の中にて」と題する一編にして物語の筋書は、或一人の若くして高潔なる精神を有せる學生が惡友の爲に漸次不道德に陷入り厭ふ可き病に罹る墮落の徑路を叙せしものなり、右に就きトルストイ伯夫人は曰く

アンドルエフのかゝる著作は決して讀む可きものに非ず、我國の教育あり識儀ある社會は全露西亞に惡臭汚點を布けるかゝる不德小說を掃蕩せざる可らず、ゴルキーの述作は或る性格又は或事情中に於て常に一種の同情存し讀者をして著者の弱者に對する好意を背ぜしむるものあり、又、確かに善惡を區別し惡を憎むの慾を起さしむるものあり、而して彼が或階級の生活を寫す時に於て浮浪無賴等に付き詳しく叙する事あれば讀者は必ず彼が貧困無學及罪惡に原因せる不幸墮落を心底より悼めるものありしことを見るべし。

然るに之に反しアンドリエフの著書は讀者をして著者は自己の描ける罪惡を樂しめるに非ずやと疑はしむ、而して又實に如此にして著者は未だ道德上の思想堅固ならざる讀者に妖氣を吹き込むものなり、されども是即ち寫實なりとよ！

現今の衰む可き新進作家例令ばアンドリエフの如き只單に人間の汚點濁所の厭ふ可き片影を描き得るのみ、彼等は世を率ひて人間罪惡の汚穢を研究せしめ、一方にある人類の進步向上に資すべき道德宗教美術等の廣大美麗なる世界を放擲せしむるものなり、されば若し如此罪惡を描かんと欲せば罪惡の方面に非ずして眞理の勝利及罪惡を壓伏せる人道の價値を殊に赫々たらしめざる可らず、奚ぞ徒に紅を點じ翠を寫して青春の心を蕩蕩するのみを能事とせしむ可けんや云々。

甲板の艮夜

▲歐洲より　アルゼンタインへ去年一年に九萬の移住民出發せり、中五万八千人は伊太利人なり

▲白耳義に　於ける六十万人の勞働者、其中八万五千は婦人にして一万五千は幼年なり

▲白耳義の、　王レオポルド陛下は米國聖路易の博覽會に赴かるべし、蓋しこれ歐洲の國王が合衆國を見舞ふの始め

▲白耳義と　和蘭はグリニッチ時間と標準時を同じくし、獨、澳、丁、伊、瑞典、那威、はグリニッチの時間より一時早くす

▲英國人の　海外へ赴けるもの去年一月より八月終りまで十二万七千五百九十五人、其中二万四千七百五十九人は南阿弗利加へ行けるなり

▲人口百人　に就き就學兒童英國は十七人、合衆國は十九人、露西亞は僅に三人

▲御料地と　して世界最大のものを所有せらるゝは露西亞皇帝なるべし、一個處にて一億万エーカー、則ち英蘭土の三倍の土地を所有せらるゝ

▲愛蘭土の　人口は千八百九十一年以來其一割五分を減ぜり

▲合衆國の　Minnesota には七万五千人の英語を話し能はざる人民有り

▲亞弗利加　には七百の語[ランゲエーヂ]及び地方話[ダイアレクト]有り

▲龍動にて　最多き店は牛乳屋、其數一万二千

▲龍動人は　馬車賃の爲めに一日に六万八千圓を費やす割合となる、勿論乘合馬車は此外なり

▲千八百五　十一年、英國家屋の平均評價、一戶に就き二千百六十圓、現今は四千一百圓

▲五人家族　の家、英國にては一週間の食費最小額に見積りて六圓を要す、飲料は一切水計りとして

▲ロンドン　サウスケンシントン博物館は開館以來去年までの入館者四千万に上る

▲ドヴ海峽に鐵橋を架するとせば、三億四千万圓の架設費を要す

▲大西洋にて最深の個處はポートリコの北方海上百哩の點にして二万七千八百六十六呎有り、太平洋にてはグヮム島の附近にして大西洋よりも猶四千三百呎深し

▲世界水球上の各海洋には、總計二十五種の大潮流有り

▲バフインランドは現今島嶼なることを確められたり、世界大島の一にして八十万平方哩の面積有り

▲佛蘭西は今年までに二百四十九の水雷艇を建造せり、而して現今猶三十七艇の新造を計畫しつゝあり、英國は之に比して九十二の既造水雷艇と、七個の新造中のものあるに過ぎず、然れども戰鬪艦は佛の百十四艘に對して英は八百二十四艘を有す

▲英の最小なる戰鬪艦も九千五百噸有り、最新のコンモンウイルス號の如きは一万六千噸

▲錫蘭島は近年印度本土と殆んど同額の茶を產出す、一年の產額一億六千万封度、本土は一億九千五百万封度

▲シーラレオンのFoura Bay大學は米國に多き名計りなる山師的大學を除ひて世界最小のものならん、則ち五人の教授と二十人の學生あるのみ

▲旋風の一時間七十哩以上吹くものは、一呎平方に十八封度の壓力有り

▲電話機は巴里にて一万人の人口に七十一有る割合となる、ロンドンは四十七、ニューヨルクは百五十

▲英國は一人一日に二十六ガロンの水を用ゆ、一年百五十万ガロンなり、而して其半分は無駄に使ひ捨つるなり



日本と歐米の新聞

（中）

斯波貞吉

▲外國新聞に廣告多き事　先づ歐米の新聞を見て第一に驚かるゝは、廣告の多いことである。廣告の最も多いと云はるゝ倫敦の「デイリイ、テレグラフ」新聞は、凡そ我邦の新聞二頁大の紙面十二頁の中、其三分之二即ち八頁は廣告で填められて居る。而して其廣告は、我邦の如く一號二號の大活字を用ふるものは少なくて、細字を用ふるものが多い。勿論國々の新聞に依りて廣告の仕方に多少の相違はあるが、大いなる書を

入れたり大活字を用ふるものは、廣告の多い割合には少ない。之は廣告料の高いのが確に其一因である。隨て新聞社が廣告に依りて、莫大なる利益を收めつゝあることも明瞭である。横濱神戸等の外字新聞が、僅に三百人内外の讀者を有するのみなるに、主筆には莫大なる俸給を拂つて新聞を維持して行くことの出來るのは、全く廣告の收入の大なるがためだと云ふことである。新聞へ廣告を依頼するものは、我邦に於ても驚く可き割合に於て增加しつゝあるさうだ。生産的の事業に使用する莫大なる廣告料は、結局其物品を消費する人の負擔となるのであるから、斯く廣告の增加する即ち競爭の激烈となることは、吾々に取りては賴もしいことではない。併し新聞維持の上から見たら祝すべきことであらう。そは兎に角、外國新聞に細字の廣告が、隙間もなく並べられてあるのを見ると、誰しも其廣告に功能があらうと思はれぬ、けれども實際は驚く可き効力を有するのである。余は曾て之を實驗したことがある、余が牛津(オツクスホルド)に居たとき夏季中倫敦の近郊に住む積りて、下宿屋を求むるため三行許りの廣告を二日間或る新聞へ出すことを、試みに新聞取次所へ行つて依賴したことがあつた。僅に三行の廣告其上二回に過ぎないことであるから、一通でも返事があつたら仕合せなこと位に思つて居た。手紙は取次所へ來る筈であつたから、二三日過ぎてから手紙が來て居るかと云つて尋ねに行くと、少し來て居たやうですと答へたので、二三通多くて五六通も來て居るかと思つて居ると、抽斗から出して來た手紙は實に五十餘通であつた。眞に豫想外て廣告の効能の大なることを、此時初めて知つたのである。其後程經てから、此の如き小さな廣告に對して返書の多い所以を迺然に知つた。夫れは倫敦に下宿して居つたときであるが、或る日の朝歸國する本邦人を見送りのため、例になく早く起きて外出せんとして、下の室へ行つて見ると、主婦は已に起きて居て、切りに新聞に記號を附けて居る、何をするのかと思ふと、下宿を求むる廣告を搜し出すので、片つ端から返書を認めて遣るのが每日十數通であるとのことであつた。これが眞に主婦の朝飯前の仕事である。これてこそ廣告の効能のあるのも當然であると分つた。近來は我邦でも希望廣告と云ふ類のものが著るしく殖て來て、細字の廣告でも中々に効能があるさうだ。併し職業ありて人を求むる廣告は、何時でも直ちに効能が現はるゝが、人ありて職業を求むる方の廣告は容易に効

能が見えないと云ふことである。夫れから歐米新聞の廣告料は、希望廣告等の外は皆一时何程の定めて、一週間一個月一個年となると非常なる割引があり、木版などを廣告文に挿入するものなどは、特別に高い廣告料を徴收せられる。出版書店などは、一年間一欄或は半欄を買切りて、絶えず廣告するものが多い。先づ此等が廣告に就いて外國新聞と異なる所であらうと思ふ。

▲挿畫の事　米國の新聞には、色摺の挿畫などが澤山に入つて居るが、英國の新聞には挿畫のあるものは極めて少ない。倫敦の新聞で絶えず畫を入れるのは、「デイリイ、グラフイツク」位のもので、他は間々畫を入れることがあるに過ぎない。歐洲大陸の新聞にも絶えず畫を入れるものは多くない。併し總て新聞に入れる畫は、實に立派なものである。近來は寫眞版の畫を多く用ふる樣だが、日本では輪轉機を用ふる新聞社で、まだ完全な寫眞版を入れることが出來ない。一つは紙質の惡いのと、今一つは技術の進まない爲であらう。概して言へば日本の新聞の挿畫は、甚しく幼稚である。畫其物が既に美術である以上は、其畫を入れる目的が何であるに拘はらず、今少しく美術的の畫を入れて貰いたいものである。肖像の如き中には、全く肖たる點がなくまるで別人としか想はれぬものがある。此の如きは何たる目的であるか分らない。日本は美術國だと言ふて威張りて居りながら、其國の新聞の挿畫が此樣なことでは、實に驚かるゝではないか。粗末なる畫ならば寧ろない方がよいではないか。更に又驚かるゝは三面記事の挿畫である。不快の感を起さしむる外、何物をも見る人に利益を與へない、挿畫の効能は少なくとも文字以上でなければならぬ。啻に文字以下なるのみならず、見る人に不快の感を起さしむるならば、實に有害なるものである。新聞の價値を損するものである。若し高尚なる挿畫を入るゝものがあつたならば、其點丈でも其新聞は成功するであらうと思はれる。兎に角粗末なる挿畫は、日本の新聞の面目として入れて貰ひたくないのである。或は畫家に乏しいのかも知れぬ。夫れならば畫家の出來るまで止めて差支ないと思ふ。但し挿畫も競爭の結果追々に進歩しつゝあるやうだ。中には出來の善いのも多少はあるやうに思はれる。

▲外國記事の多き事　前回に述べた如く外國の新聞は各地に通信員を置いて、種々の出來事を續々電報で通信するのであるから、當然外國新聞には外國通信員

の電報が、全記事の大部分を占めて居る。我邦の新聞て外國電報と云ふのは　ロイテル電報と京城及び北京電報位のもので、之すら載せない新聞がある。此點て外國新聞に比べると殆んど新聞の態面を具へて居らぬ。我邦の新聞社は資本に乏しいから、容易に出來ぬことでもあらうが、讀者も亦外國の事には頗る冷淡である。滿州問題など丶云ふと多少騷ぐが、布哇で幾万の同胞が何の樣に苦しめられて居つても、加奈陀で幾千の我漁夫が、如何樣な迫害を受けて居ても、濠洲で我國民の移住を禁じても、夫等は一向に頓着しない。一切平氣てある。一般の讀者が此樣てあるから、新聞も徒らに巨額の金を費して、外國の記事を多く報ずることに努めないのも、無理はないことてあらうと思ふ。されども何時までも此有樣で過ぎると云ふことは、確にないに違ひない。今の世の中は一國の出來事が、瞬間に世界の隅々にまで影響する。自分等は知らずに居る間に、何時の間にかチャント甚しい影響を受けて居ることがある。今に驚く樣な目に遭つて醒めるときが來ることは確てある。其時には新聞にも、外國の電報が續々來るやうになるてあらうと思はれる。唯其時の餘りに遲からんことを憂ふるのてある。

▲外國新聞の重要なる記事　外國新聞が重要なりと認むることゝ、我邦の新聞が重要視することゝは非常なる相違がある。米國の一種の新聞は、無暗に煽動的（センセーショナル）なる記事を掲げ、讀者の好奇心を挑發して、漫に發賣數を增加することを得意として居る。此樣な新聞は歐洲には極めて少ないから之は例外として、歐米の重なる新聞は、政治上外交上若しくは通商上の事のみを重大の事としては居らぬ。苟も人智人心に影響を與ふることは、何事でも頗る重大の事と認めて居る。今一例を擧げて見るならば、マルコニーが無線電信を發明したことの如きは、內閣員の更迭よりも更に〳〵重大なる事として、新聞の最も重要なる部分に特筆大書された。其無線電信が始めて英米間に通信を試みられた時の如きは、諸國の新聞社は其發信の場所に特派員を送りて、其結果を報道することに努めた有樣は、さながら歐洲の眞ン中に大騷亂が起つた樣であつた。之は實に當然である。無線電信の發明は、啻にマンチエスターの海底電線製造會社の株を暴落せしめたのみでない。政治上通商上世界に影響を及ぼすことは、中々一國や二國の騷亂ごとてはないからである。此の如き大發明は流石に我邦の讀者でも、多少は重要なることが

分るやうである。然るに外國新聞で重要なる記事とするのは斯樣なことのみではない。彼の佛國のドレーフユー事件の如き、我邦の人は些細なる佛國の一問題である、一ドレーフユー大尉が有罪であると無罪であると、我等には何の關係もないと云ふ人があるかも知れぬ。又今現に佛國に於て騷ぎとなつて居るウムベルト詐欺事件の如き、我邦の人は詐欺位は珍らしい事でないと言ふかも知れぬ。然しながら此等の問題は實に歐米の天地を振動したのである。振動しつゝあるのである。各國の新聞紙は之が爲に紙面の大部分を割くを吝まぬのである。何故に此の如き事が、新聞に於て重要視せらるゝかといふに、之れ即ち人道問題なるが故である。事は一人に係るのみとするも、世界の人心に影響する所大なるが爲である。外國新聞の着眼は總て此通りである。我邦の新聞の如く例へ人道問題に關することでも、他の新聞に先んぜられたるため之を冷眼視して、全く讀者に報道しないものすらあるとは大なる相違である。吾々の考では世道人心に害あることも益あることも、共に何れの新聞も重要なることとなりとして、記すべき義務を持つて居ると思ふ。我邦の新聞で重なることゝするのは、殆んど政治以外にない樣である。實際政治の事は重要なるには相違ない、併し同じ政治上の事でも局長の更迭とか、政黨員の下らない動作の如きは、決して重要なることでない。之よりも重要なることは我邦にも外に澤山あると思ふ。曾て或る新聞で、明治三十三年の重なる出來事を記すとき、巴里の大博覽會の事を洩らしたことがあつた。實に之は驚く可きことである。同年の出來事で恐らく世界の最大事件であると思はるゝ、否世界の有らゆる文明を集めたる、世界の最大事件を忘れるとは實に驚かざるを得ない。併し其新聞が惡いのみではない、恐らく其事に氣が附かなかつた讀者も惡いと思ふ。此他外國新聞に盛んに報道せらるゝことで、我邦の新聞に洩れて居るのは、海上の事である。船の出入船中の事船員の事等は、報道せらるゝこと頗る稀である。此程或る海員の談に今日本には海上の事で生計を立てゝ居るものが數百万人もある。海上の消息のみを傳ふる新聞があつても此等の人の中で何十万の讀者を得ることが出來やう、今の日本の新聞で何十万の讀者を有するものが何處にある、利益の點から言つても海上の事を記すのは損でなからうと云つた事がある、一理あることゝ思はれる。

（以下次號）

大旅行家奇譚

陸行にて歐羅巴より亞米利加へ横斷せる最初の旅行家

鑑湖生

（下）

●さてド、ウイントの一行は暫くヤクツックに滯在した後、昨年の二月廿一日ヴエルコヤンスクといふ所へ向けて出發した、こゝはヤクスクを距ること六百四十哩、途にヴエルコヤンスク峠の嶮がある。此峠の嶮峻なることは殆ど垂直に立つて居る程で、ド、ウイント等がこれを越ゆるの困難は非常なものであつた。

●ド、ウイント等は九日を行程に費してヴエルコヤンスクへ到着した。こゝは忠君なる露國人が呼んでHeart of Siberia（柴比利亞の中心）といふ所であるが、流刑人は同じくHを以て始まる語を以て之を呼んで居る、即ちHell of Siberia（柴比利亞の地獄）といつて居る。實際此名稱に相應する惧ろしい所で、恐らく世界中最も寒い所であらう。冬の平均温度は氷點以下五十二度で、一年の中に雪のないのは僅に七十日ばかり、それから冬の最中には薄暗い晝が四時間あるばかりであとの二十時間は夜である。一の都會とはいひながら、總戶數は僅に四五十に過ぎぬ、そして其家といふは粘土と丸木とを以て作りたる小舍で、半ば雪に埋れて居る、四邊は暗澹たる雪の野が際限なく廣がつて居て、目に入るもの一として荒凉凄慘の感を與へぬものはない。

●此惧ろしい所に露國から追放された國事犯人が多く住居して居るが、彼等の生活は實に憐れなものである。一體露國政府が國事犯人を捕縛する時には悉く其財産を沒收する、其代りに一ヶ月十七ルーブル（我二十七圓許り）を與へ、又妻を伴ふ者には十八ルーブルを與ふる規定であるが、物價の廉い所であればこれで樂に暮して行けるであらうけれど、柴比利亞は一般に物價が高い、殊に此ヴエルコヤンスクは非常に高いから、とても安樂な暮しをすることが出來ぬ。例へばヴエルコヤンスクでは茶一斤の價が五圓であつて、すべての物がこれに伴ふて高價であるから、追放人は殆ど餓死せんばかりの境遇に居る。

●此等ヴエルコヤンスクに居る追放人の一人について酸鼻の極みなる話がある。數年ポーランドの一學生B

某といふ者國事犯の廉を以てモスコーに於て捕縛され、終身此地へ流された。B某には年若き妻があつて彼が捕縛の當時、妻は姙娠して居たが、人々は妻の心を痛ましめぬ爲め、夫の運命を告げずに置いた。やがて分娩の後、妻は初めて夫の不幸を聞き知つて、健氣にも柴比利亞に於て夫の苦を頒たうと決心して、政府へ其許可を願ひ出でた。政府の規定では罪人と同樣の取扱ひを受くることを甘んずる者には同行を許すことになつて居るから直ちに其願ひは聞き屆けられた。そこで貞操なる妻は家財一切を賣り拂ひ、僅かばかりなる旅費を調へ、乳呑兒をかゝへて遙々と柴比利亞をさして出發した。まだ柴比利亞鐵道の通じて居ない時であつて、且つ充分に旅費があるのでないから、馬車に乘る等の贅澤は出來ない、唯歩くより他はないのであつた。それでB夫人は國事犯人や强盜殺人犯人や等の柴比利亞へ流されて行く者と同行して、毎日毎日疲勞多き途を夫を思ふ一心に女の弱足でトボ〳〵と歩いて行つた。ところがB夫人は夫の流されて居る地をイルクッタ附近のヴェルコレンスクと聞き違へて居て、イルクックから更に三千哩も遠きヴェルコヤンスクであるとは知らずに居た。それで憂き旅行を幾十日、數月を重ねて、漸くイルックックに到着した。實にこゝ迄柔弱き女の身で來ることが出來たのは寧ろ不思議な位であるが、唯張り詰めたる一心に之を成し遂げ得たのであらう。イルクックに到着してB夫人は安心の息を吐き、同行の一罪人に向いて「あゝ嬉れし、もはや一月を經ば愛する夫の許に行くを得ん」と其喜びを洩らした。其罪人は何心なく「御身はモスコウで捕へられたるB氏の夫人にや、さらば御身更に三千哩行かざるべからず、B氏の流され居れるはヴェルコレンスクに非ずしてヴェルコヤンスクなり」と答へた。ヴェルコヤンスク！　三千哩！　あはれやB夫人はこれを聞いて落膽失望の極、氣が狂つてイルクックの病院で三日の間夫の名を呼びつゞけて狂ひ死にした。斷腸の極とはこのやうな場合をいふてあらう。

●ド、ウイントの一行はヴェルコヤンスクに於て前途の旅行は殆ど出來難い事であることを聞かされた。こゝより八百哩を經てスレドニコリムスクといふ所があり、猶ほ百哩を經てニジニコリムスクといふ所がある、此二つの地迄は露國の政治が行はれて居て露國官吏が時々來ることがあるが、これより先き一千四百哩ベーリング海峽に至る迄は人跡殆ど絶えて名は露領である

けれど實は全く王化の及ばぬ所である、唯チヤクチといふ無智蒙昧の土人が百里二百里を距てゝ野獸の如き生活を送つて居るばかりで、途といふものは全く無い。此間を旅行するには犬の引く橇に乘つて行くので、食物は所々に散在して居る土人に就いて之を得るのであるが、てうどド、ウイントが旅行する前此邊に飢饉があつて、其上に疫病が流行した爲め、犬が殆ど皆食はれてしまい、土人は疫病の爲めに或所では死に絶え、或所では他へ移住してしまつた。かくの如き次第であるからド、ウイントの一行がヴエルコヤンスクから更に北へ向けて出發しやうとした時には死地に入ると同じやうなものであると人々は諫め止めた。

●然しド、ウイント等は飽く迄當初の目的を捨てず、決死の覺悟を以て出立した。かくて三週間の困難なる旅行の後スレドニ、コリムスクへ到着した。こゝはヴエルコヤンスクよりも更に酷い土地で、こゝにも流刑に處せられた國事犯人が男女併せて十三人居た。ド、ウイントはこゝで非常の骨折りを以て辛く六十三頭の犬を得て、又旅路に上り四日を經て文明の最北端なるニジニ、コリムスクへ到着した。それから千四百哩の間、ベーリング海峽迄の旅行には四十日かゝつたが、其間の困難危險は譬ふるにものがない程で幾度九死に一生を拾ッたか分らない。然し天幸にも何等の誤ちなく、ド、ウイントの一行は昨年五月廿日ベーリング海峽の東岬(イーストケープ)に到着した。

●ド、ウイント等の最初の計畫はベーリング海峽（其一番狹い所は僅に四十五哩許りである）の氷の上を越えて、北米アラスカに渡るのであつたが、この仕事は非常に危險で土人ですらめッたに企てぬことであると聞いたから、之を思ひ止つて、夏になつて米國の軍艦が來る迄待つて居て、これに乘つて、アラスカに渡り、それからユーコン河を溯り、クロンダイク、カナダを經て遂に昨年の夏の末紐育へ到着した。かくの如くにしてド、ウイント等は巴里より紐育迄の陸行を成し遂げたのであるが、斯の如き冒險なる旅行を何が故に試みたかといへば、ド、ウイントは思へらく、後年亞細亞、北米兩大陸を聯絡する大鐵道を布設することがあるであらう、アラスカ海峽は海底に隧道を穿ちて鐵道を通ずることが出來る、柴比利亞鐵道も其最初に計畫された時にはとても出來ぬ企てゞあるといはれたものであるのに拘はらず立派に出來上つたのを見れば、此亞米聯絡の大鐵道も出來上らぬものとはいへない、さ

らば先づ其途を研究するも無益にあらずと。此考へを以て彼は此大旅行を試みたのである。

一外人の眼に映じたる日本の宗教

Jesse Page 氏

古弦 譯

左に譯するは同氏の著書 Japan: Its People and missions と題するものより拔抄せるもの、淺薄にして誤謬多く、弘法を支那人とせるなど噴飯に堪へざるもの多し、然れども其淺薄なるところ、誤謬多きところ、噴飯に堪へざるところ却て一讀するの價有り、且つ反省するの價有り。

譯者識す

▼

何れの國民でも必ず本來特獨の宗教を有するもので日本とても矢張規則に外れず、神道と稱する一の宗教を有して居る、之は日本の國教（國定教ではない）で哲學上の基礎は極めて單純なものであるが、非常なる政治的分子を含んで居る「ミカドの帝國」の著者の云ふ所によれば、此神道なるものゝ原始時代は單純なる自然崇拜教であつたが、ミカド族即ち大和民族なるものが土蕃を征服すると共に其宗教を奪ひ、ミカドを以て天の子と稱し土着宗教の神々であつた土地山川雷霆等の上に置き、同時に政治的意味を加へて統御の大機關としたものであらう。（譯者曰く神道に付きては尚詳述しあれど何の奇なければ單に以上丈に止む）

如此政治的意味を以て創められた一種奇妙なる宗教は今日も尚日本政府の保護中にあるが、人民の信仰せる宗教は佛教である、之は三世紀頃日本に來つたもので、後九世紀頃に至り弘法と呼ばるゝ支那僧の傳道に依り非常なる進歩をした、弘法の青年時代は奇怪不思議に滿ち／＼て殊に其穴中に生活した事や、かのセントアンソニーよりも一層多くの誘惑を受けた事は奇中の奇、怪中の怪である、併しながら彼が文筆に長じて日本のアルフアベットを發明し又木版書等の技術を日本に輸入した功は確實なる事である。

此技に於て佛教の經典が日本に普く播布された、同時に此新來佛教の此一僧侶は佛教を帝國に弘通する良策を得た、又は製造した、彼は伊勢の神宮に詣でゝ一週間參籠したが其間に夢想を受けた、其はトコウケビメ

ノカミ（不明）が彼に告げて曰く、神道の諸神は凡て佛の化身である、依て汝の信じて居る宗教は神道の分子を含んだ宗教でなければならぬ。と

▼

弘法の死後久しふして日蓮親鸞の二大僧出て、前者は法華、後者は眞宗と稱する二新派を開ひた、眞宗は今日最も勢力あるものである、此等佛教の各宗派は涅槃に對する見解に非常なる差ありて、一方は全然靈魂の滅亡を信じ、一方は靈魂神靈界に遊ぶものと信じてる。

日本佛教中淨土宗の根元は十二世紀の中頃法然なる人出て丶淨土教の教理發見に努めたに始まる、彼は九歳の時父の死に遭ふて佛教に對する信仰を起したが、學校教師てあつた博學の僧侶は此少年の性質慈悲心に富めるを看「玆に菩提薩埵の權化を送る」との極簡單な添書を持たして、當時の首府京都に近き比叡山なる僧堂に送つたが直に許されて、僧侶となり頭を剃り圓めて教典教理の研査に身を委ね十八歳の曉には高く儕輩に秀づるに至つた、されども佛陀の眞意中に彼は此高慢の誘惑を消滅せしめ、更に僧堂を辭して黑谷の傍らなる一小屋に孤獨の生活を始め玆に彼は自國中の貧困無字の輩を助くべき方法を發見せんとて一切經五千卷を通讀したと傳へらる、而して此勤勉刻苦は下の一句あつて彼に再生の思をなさしめた、即ち「敬虔なる誠心を以て阿彌陀の名を唱へよ」、かくて端なき禁慾の條件束縛や又は自力戒行道の苦を避けて死後淨土に達すべき道は只此佛名稱呼にありと堅く信じて、夫より毎日六万遍の稱名を始めた、如此して彼は久しからざるに世に著はれ少なくも三代の皇帝の精神上の指導者となつた、而して同時に此淨土教は世間に普及し、幾多の信者をして其非常に煩雜困苦なる儀式より免かれしめた、元來佛陀が說ける教門は八万四千の多數なるも、法然は只其一なる佛名稱呼を以て救濟の唯一法なりとしたのである、而して此教理の結果は吾人にも一目直に了解せらる、一度今日の日本に於ける佛教寺院に入る時は信者等が一齊にて繰返し〱呼はる「南無阿彌陀佛〱〱」の聲を聞く、說教或は教義の講演行はれつ丶ある間にも尙低き此聲が聞かれる、此宗派僧侶は非常に華麗なる法衣を纏ふて佛德讚嘆の詞を誦しながら市中を練り步き、鈴を振り鳴らしつ丶人民の捧ぐる喜捨を享ける。

かく人の救はれ行く所と想像せらる丶淨土なる土地は此現世界とは甚しく違へる平和と快樂の國にて、佛教

徒等は此現世界を以て不幸艱難失望に滿ちたる苦痛と死の道なりと呼ふのである、而して八方に透徹さる阿彌陀佛の眼に依て助け出され、死すれば何等の不幸も苦艱も將又死もなき淨土に再生するのである。

▼

ドクトルグリッフィスか古來佛敎の變遷を說ひて居るのに依ると

日本人は佛敎を日本化し得る天才の出てん事を希望した、而して法然玆に生れ淨土敎起つて世を風靡したのであるが、十二世紀頃より日本の佛敎は万有的平民的に傾き、後淨土門起て万有神主義愈々勢を添へ諸說混同主義盛なるに至つた、而して佛敎が支那に入つた以來或は「現實の人」を或は「理想を人化したるもの」の數多き佛の數々は又此淨土敎に於ても用ひられてある。

一撥の人民は死すれば佛界に入り淨土に行くを得るものと信じてる、之は彼等が死人を指してホトケ(會て一度人間であつた凡ての佛に對する名稱)と呼ぶ事實に徵して明かである。

日本佛敎全體の傾向は其敎義の進步としては全く驚くべき程である、古代の非常に煩雜極まる戒行禁慾の制度より變じて今や眞に何の手段も準備もなく殆んど戲とも見ゆる如く簡易のものとなつて居る、而して如此敎義は印度にも又支那にも未だ知られざるものである、又日本の佛敎は如何なる物にても信仰の目的物とする、これは中々高尙な思想である、されば日本の俚諺は決して嘲笑的意味の戲言に非ずして實際の眞理を顯はしてるものである「鰯の頭も信仰の目的物たり得」と云ふ

このグリッフィスの文は只日本に於ける佛敎の二大宗派に付て論じたもので殊に或點は尤も廣く知られて居る眞宗に關して居る。

▼

日本の寺院では常に其前に木造の大門があつて、其を入り入口には兩側に二個の極めて醜い神像(仁王を指す)があつて、赤や靑で無暗に塗り散らしてある不信者は恐らく一驚を吃する、塔は實に奇妙なる建築で七重の甍をなし一階每に屋根の角々に鈴を附し尤も頂上には寶珠ありて之を龍か手に握つて居る、そして殿堂の前庭には老年の媼が豌豆や大豆や米を皿に盛て賣て居る、蓋し之は其處邊に澤山居る鳩に信者達が買て施與するものであるが此等の鳩は堂內の薄暗い所に巢を構

へて祭壇の上などに卵を生み落して居る、堂内に於ける僧侶の讀經及び信者の喧騒及臭氣は外來人に取て實に一の苦痛である、其堂内にある無數の皿（燈明？）よりは一種の厭ふべき臭氣立上り殊に中央には銅製の龍（不明）がある之は龍は神なるが故にかくして慰めらるゝものと想像されてるのである、然しながら最も目を曳くものは本尊の前に掛つてる針線の簾てある。此處に參詣して居る祈禱者等は己の願が佛に聞かれたか否やを知るに迅速に容易な方法がある、先づ彼等は己の願ふ事を小さな紙片に記しよく／＼嚙んで後手にて丸めそして其を偶像に向て投げ付るのである、もし甘く佛體に的中附着すれば我願聞かれたるものとしもし落つれば非常に失望して賽錢箱に捧げた錢を吝しむに至るものである、祈禱に付ては奇妙なる事が頗る多ひが、恐らく之などは最も普通の仕方であろう。

▼

「ミカド帝國」の著者も云て居るが公衆用に供してある廣ひ坐の背面には種々の祭壇に佛や樂人及各時代の高僧達の金鍍の金像が幾何も並んであり、蠟燭は燃え線香は煙り經典は廣げられてある、そして特別に多くの金錢を喜捨した信者は特權を有して簾の中に入つて經典を讀み又は祈を禱げ其他の事を行ふ爲に普通の信者よりはずつと離れて坐る事を許される。

歐羅巴風の服裝をした人が狐や鬼や金鍍金した醜ひ偶像の前でペコ／＼頭を下げて禮拜をしてるのは我々に取て實に可笑しく見へる、素より洋服は基督教なりと云ふ規則はないが、吾人の狹き見解よりはどうしても高帽など佛教寺院とは調和が面白くなく、歐洲近代の上衣と東洋古代服の偶像とは何となく衝突する樣に思はれる。

其他日本國中至る所に偶像を認めない事はない、如何に田舍でも都會でも必ず大佛なるものがある、殊に奈良の大佛は其最大なるもので高さ八十呎、顔面の高さ十六呎、耳八呎、手指の最も高きもの五呎、全躰の重量四百五十噸程ある。

又日本人は山岳崇拜者で富士山の如きは殊に尊まれて居る。

が要するに日本人は儀式的形式的宗教信者で祖先を祀り法事を盛にはするが、眞に神や佛の教に遵ひ純正潔白なる行をなして自からを修むる事はしない、畢竟精神上の宗教はないのである。

時事諷壇



新へなづち

久良岐

▲天狗拘引

時は今、天が下知る五月にて
三日は持たぬ〇十の議士

▲政友妥協

仲直り理屈も何も内閣と
上下妥協に老の皺伸す

▲日露將戰乃作歌

まんちゆりあ　其が野に巣くふ鷲
其が目らは　白金なし
其が爪は　黒金なす
かゞ鳴きて　餌をあさる鷲
醜目らに　人を睨らみ
して爪に　國攫かむ鷲
專喰ひに　貪ぼる鷲
しが翼　未だ成らねば
しが羽の　未だ生ひねば
敷島の　日本武男は
燒太刀の　利心ふるひ
石槌い　頭槌いもちて
今撃たば宜らし

▲力士兩國賛

押照る、難波の市、大伴の、三津の濱びは、昔より、開け／＼て、人多に、滿てはあれど、人心、つましく有れば、上方の、贅六人と、語りつぎ、云ひつぎけるを、鳥が啼く、東の國の、名に立てる、角方の道に、西方の、振はずなりて、常陸山、稻川の徒、村肝の、心惱まし、お

ほゝしく、苦しむ時に、靈幸ふ、神の心か、大阪の、力士の中ゆ、荒岩と、名に負ひ持ちて、上り來し、兩國吾兄は、此道の、野見の宿禰が、鋭き事は、冬の林に、降る雪を、伊卷く旋風が、諸人の、目らにかゝらず、靜けさは、秋の野川の、夕榮に、沈める如く、鮮やけく、心落居て、敵をしも、物ともせねば、西方の、けはひ揚がりて、年々に、榮行く道の、ますますに、ふるひ起りぬ、勇魚取り、海の潮の、い湧くごと、最負人多き、兩國の、吾兄の命が、神力、稱へて我は、後の世の、力士が伴の、鏡ともせな

世の中の人の千心五百心乘れる諸肩見るにたくまし

諸肩に世人の心荷なひつゝ角力ふ丈夫 過ちあらすな

▲愛蘭士の一口話

甲「日輪樣と月輪樣と孰らが人間の爲めになつて下さるだろう

乙「ソリヤ月輪樣だ、ナゼッテ月輪樣は暗い時に出て下さるが、日輪樣は明るい時に出て下さるからチットモ有難かあれ〻や。

思潮

郵船會社の內國航路を廢して外國航路のみとせよ

「平民の友」　大井憲太郎氏

暹羅國又は馬來半島「スマタラ」「ボルネオ」の諸島は我移民地として、大に可なるものなり。然れども貿易其他の事情より打算せば、南米及中米の地は本邦に取りて恰好の移民地なり。二者其一を擇んで先後する所あると、若くは同時に此二方面に向て着手するとは、吾人の問ふ所に非らず、若し夫れ一定の方針なく、個人の隨意に放任し(貿易なり移民なり)置くに至ては、國論とし國策として國民を誘導奬勵する必要なしと雖とも、苟しくも一定の方針の下に、大に其步武を整へ着々奏功を期せんと欲せば、豫め移民地を指定し、國民の歸嚮適從する所を示さゞる可からず。

既に假に移民地を指定したりとせんか、此地に向て交通の便宜を謀るの策劃なかる可からず。是れ實に移植民問題に離る可からざる緊急問題た

り、又吾邦の現状南米及び中米に向て、新航路を開くの餘力あるや、否の疑問に對し吾人は優に之れあることを斷言せんとす。國庫は現に日本郵船會社に内國航路の保護金を與へつゝあるに非らずや。其今日に於て内國航海に保護金を與ふる必要なきのみならず。之を與ふれば翻て日本航海業の發達を妨げ、海國思想の發展を害する惡結果あるのみ、日清戰役は我航海業を頓に促進し、船艦亦頓に增加せり。されば個人又は團體の航海業者に、内國航路を一任するとも運輸交通の不便なきこと必せり。若し國庫補助の下に郵船會社をして内國航路を持續せしめば、恰も番頭が丁稚の任務を行ひ、丁稚をして空手徒食せしむるに異ならず。是れ奚んぞ策の得たるものならんや。宜く郵船會社をして内國航路を廢して南中米航路に轉ぜしむべし。國庫は個人又は團體が容易に爲し得可き事業に向つて、保護金を與ふるの要なし。（極言すれば權能なし）吾人更に極論すれば、歐米航路の如きも亦之を廢して可なり。郵船會社に保護金を與へて、同航路を取らしむる如きは蛇足なり。宜く之に代ゆるに一は暹羅、西貢、香港、上海、日本間の航路を開き、又一は新嘉坡を中心として西は「ラングン」南は「ジャワ」「スマタラ」北は暹羅間を往復し、以て歐洲航路に連絡せば、其利大にして亦我貿易と移民に大益あらん。濠洲線、濠洲線に至ては、將來倍々必要にして且有望なれとも、歐米線は外國船に托して、之を廢するも寧ろ利ありて損なからん。

現在の日本には勞働問題を起すの必要なし

「日本人」

須崎芳三郎氏

西洋の社會主義なるものは社會の病的現象に對して唱出されたるものにして、我國の社會が直に之を取りて對症救治藥とすべき症徴を呈し居るや否やは吾人の第一に疑問とする所なり。若し社會主義を最も廣潤なる意味に解して、强者の權利に對して弱者の權利を主張するものとせば、吾人は之れに對して同情を寄するに吝なる者にあらずと雖、今の社會主義者は此の如き見地に立ちて事毎に弱者の權利を主張せんとするものにはあらず。何となれば新聞紙に據りて諸氏の云爲を判斷すれば、諸氏は普通選擧なる一題目を有する外、國政の節々に向つて社會主義的批評を加ふることなく、泰西の一般社會主義者と同じく主として勞働者の朋友たるに止まればなり、諸氏の所謂社會主義なるものは西洋の同主義者と同じく、勞働問題の提唱者たるに止まる。而して此の如き問題の提唱が今日に必要なるか、又勞働者自身に利益なるや否は吾人の問はんと欲する所なり。

吾人は我國の賃銀が甚だ低廉なるを知る、然れ共何故に低廉なるかを説明するは勞働者の利益にあらず。何となれば是れ物價一般の低廉に伴ふ外事業の拂底に外ならざればなり。凡そ勞働問題なるものは農業國に於て起るものにあらず、少なくとも小農組織の國に於て不似合なる問題なり。勞働は必らずしも工場勞働の謂にはあらざるべきも、勞働問題としての勞働は工場勞働に外ならず。然るに我國の今日に於て此の如き問題を提起するは勞働者自身に利益なるべきか。

勞働の善惡は工場ありて而して後の問題なるは自明の理にして、未だ勞働すべきの工場なくんば、賃銀の高低と勞働時間の長短と共に議すべき餘地なし。而して今日我國に於て工場と稱すべきものは僅に紡績、製紙等二三あるに過ぎずして、是れさへも鞏固なる基礎の上に立つと云ふを得ず。况んや西洋諸國に於ては皆生産の過度に苦みて互に外國品を排斥

し、其剩餘は悉く販路を東洋に求めんとするは現世紀の著大なる現象なるに於てをや、多くの工業には自國の材料を缺く我國が、如何にして所謂商工立國の本旨を貫かんかは至大なる問題と爲すに足るべし。然らば今日に於て國民の最も痛心すべきは如何にして工業の發達を助くべきかにありて、如何にして工業を抑制すべきかにあらず。蓋し資本に對する勞働の抵抗は明に工業を抑制するものなり。吾人は今日に當りて我國の農業の如く憐れむべきものは少なかるべしと思ふ、若し農民等にして少しく祖先的思想を薄くするに至らば、彼等は相率ゐて鍬鋤を擲ちて他の業を求めんこと疑ふべからず。否今日に於ても十五萬の海外移民は悉く農民にして、年々都市の膨脹するも亦顯著なる趨勢なるを見れば、農民の其業に飽きたる者甚だ多きは、之を知るに難からず。然らば工場勞働者の候補者は業既に過剩なること疑ふべからずして、尙ほ將來は日々に其の數を增加せんこと必至の勢なり。

此時に當りて勞働者の利益を計らん者は、事業を勃興せしめて勞働の機會を多からしめんか、將た資本主の利益を減殺して工業隆興の氣運を阻止せんか、是れ痴呆にあらずんば選ぶ所を知るべき問題なり。工業は既に相當の發達を遂げて而して勞働者尙ほ朝夕に飽かずんば、勞働問題は期せずして提起せらるべし。未だ勞働すべき工場なく、僅に之れあるものも存立の基礎甚だ鞏固なきに當りて、假に勞働問題を提起して資本を脅かさば、是れ自から縊るの策にあらずや。

社會主義者の抱負

「社會主義」

阿部磯雄氏

吾人社會主義者の抱負と云へば、それは實に人類全體を通じて、皆んなが幸福を得るやうに致したいといふ考へに過ぎぬので、單に之れ丈けである。外に大きな勇敢な、雄偉な、スバラしい考へも何んにも持たぬ、實に謙遜なものです。吾人は此抱負を持つて居るからして、第一に人の造つた階級を認めませぬ。人類は元と平等なものである。一方は高く、片方は低く、一人に厚く、一人に薄く、こんな不公平な不平均な事は決して吾人の眼には無い。平等に、平均に、公平に誰でもに幸福を得させやう——此の位スナホな考が外にありませう乎。吾人は、三十万の生靈を屠つても、女と戯れたいと云ふ樣な、慘酷な考へを持ちませぬ。吾人は、生きた人間の生腕を斷ち切つても、自分の腹を肥やさうなどゝ申すやうな、無慈悲な考へを持ちませぬ。決して亂暴な事、慘憺たる事をやつて、自分等の快を得やうとする如き者では御座いませぬ。

吾人の抱負は、人類全體を通じての幸福を得さする事を申しまする。だからして、社會主義では獨り勞働者のみの利益、幸福を計るのみでなく、資本家の利益をも考へます。然し、今日に於て、現今の社會に於て、最も哀れむべき、一番不幸な者と云へば、如何しても勞働者である。それ故、只今の所ろでは、勢ひ勞働者を助けやうとして居る彼等に幸福を與へてやりたいと考へて居る。が、必ずしも、勞働者を濟つたのみで吾人の志は遂げたとはいはぬ。否々、吾人は資本家も、金持ちも、進んで、人類全體に誰も彼も總て幸福を得させやうと思ふので、實に之れが吾人の抱負なのである。

扨て此の抱負が、吾人の生涯を通じて、果して實現が出來る乎どう歟。先づ、此れは見込の無い事であると申さねばならぬ。希望を達するは將來を期するので、永遠を目的とするより外は無い。

英語に『disintrested』といふ語がある。之れは眞實に、利害の關係を打ち捨てるといふ意味ですが、吾人は此語を標準とせねばならぬ。謂はゞ『disintrested love』即ち利害の關係を全く打ち捨てゝ、眞實に人類を

愛する慾念を以て進み、事を成さればなりますまい、舌を爛らし、筆を禿して、鋭意熱心に社會主義を説いて見たもの丶、吾人の時代に其結果を見るとは出來ぬとする、即ち吾人の利益は來らぬとするより外は無いのであるが、それでも吾人は何處、何處までも利害の關係を打ち捨て丶利己心を放擲して、些細なる事を念頭に置かず、吾人は大なる高き抱負を持て居る者である。

會社合併の好時機

「實業の日本」　牟田口元學氏

多年常軌を逸し百鬼夜行の觀ありし我財界は今や漸く常態に復し恢復の徴候隱々たり。是れ豈に小會社の合併を斷行し以て之れが基礎を鞏固にし健全なる發達を期圖すべき好時機に非ずや。

夫れ會社合併の利益や擧げて數ふべからずと雖も、其最も主なるものは

經費を節減し得ること其一なり
手腕卓拔なる人物を招致し得ること其二なり
需要者に滿足を與へ得ること其三なり
事業の基礎を鞏固にし得ること其四なり

會社合併の利益や夫れ斯くの如く大なり、然るに合併の斯く容易に行はれず、否な合併談屢々識者の口頭に上り、而かも中途にして蹉跌失敗に歸する所以のものは何ぞや、曰く

當局者の虛心坦懷ならざること其一たり
株主の利己的なること其二たり
局外者の妨害を加ふること其三たり
合併を標目して其間私利を營むものあること其四たり

簡單なる心身修練法

「成功」　三上參次氏

極めて簡單にして最も行ひ易く而も古人の多く實行した心身修練法の一を述べよう、それは毎日日記を記す事である、我が日本では歴史上の大人物が日記を記す風習が、西洋よりも支那よりも多い、即ち王代（平安時代）の天子攝政關白等より降つて近代に至るまでの政治家學者、僧侶等の日記の存して居るものが極めて多いのである、抑も日記は日常見聞し、若くは考へ、若くは感じたとを記するもの故、之に由りて生ずる利益は一二にして止まらない試みに之を擧げて見ると、

第一は人を筆健めにするのである、文章の才は最も多く習練によりて生ずる事であるが、日々多少に限らず、日記を記すときは、故らに作文を學ぶよりも、又た徒らに古人の文を讀むよりも、此の點に於て利益が多いのである、健筆は、人の大なる一の資格て、天下後世を益する最大なるものである、

第二は觀察力を能くする事である日々の見聞を錄する習慣を養成するときは、自然に事物を觀察するに當り、鋭利深酷なる觀察を下す力を養成し、又た事物の觀察を多方面よりするの力を養成するのである。

第三に人は喜怒哀樂の情の動くことが頻繁なるものであるが、其喜びを分ち其の悲みを訴へ、其の怒を洩すに最も適當なる、最も危險なき相手は即ち日記である、思ふこと言はざれば腹ふくるゝと云ふのは古き語てあるが、去りとて無下に他人に對し喜怒哀樂を共にすべきてない、然るに之を日記に認むるときは最も公平なる、而して最も已に同情を表する友人を得た感があるてあらう、古人の日記を見るに實に、其の人の家庭

に在りて、其の人の天眞を見るが如く、長所美點は勿論、弱點短所等まで手に取る如くに見うるのである、扨てこれは日記に對する現在の快樂であるが、之を後日に繰り返して見るときは、又た云ふべからざる快樂を覺えるのであらう、況んや其の人の老後に於て已往の出來事を繰り返すことが得るは此上なき樂であらう、昔しより朝廷の縉紳連が朝廷の出來事若くは他人の坐作進退等を記することが最も多いのは、後日再び同樣なる場合に遭遇するときは、過去の日記を繙きて參考とする必要があつた故である、本邦に於て日記類の最も夥しく存在すると云ふのは、實に此必要によるのである。

第四に上に云へる如く日記に對し已の凡ての喜怒哀樂を表するときは不知不識の間に人格の向上進歩を見るのである。試みに之を古人の多くの日記に見るに、其の最初の間は或は穩かならざる感情、正しからざる思想等のあらはれなること屡てあるが、其の年を經るに從ひ、漸次に圓滿善良に赴くのを見る、是れは年齢の進むによりて然ることは勿論であるが、日記と云ふ鏡の日々已を照すにより、反省する機會の多いのによることも少なくないのである。

第五此の如くして日々筆記したる見聞の事實、感情思想の紀念物は、即ち後世に至りて歴史家の根本史料として尊ぶ所のものとなるのである、偉大なる人物の日記は素より云ふまでもなく、凡人の日記と雖も少くとも其の人の當時の世態人情等を明にするに、究竟なる材料となるてあらう。

第六是等の利益に加ふるに、就中最も著しき利益は人の修養上の一方便となることである、毎日の筆記と云ふは事易きに似て實は甚だ難きものである、故に古人の日記の原本を見るに、往々紙に空白の所を存して居る、是れは其の日の出來事を錄せんとして錄することが出來ず、後に之を記さんが爲めに餘白を存して置いたものである、然るに人事は常に繁忙なるものであるから、後日には亦た後日の仕事が出來て、前日の事を記す遑がなく、遂に空白の儘になり了つたのである、日記が寫本となれば已に其の事情は分らぬが原本を見る時は此の事情が頗る明了である、去れば日記を記さうと決したならば先づ就蓐前の三分乃至五分乃至十分必ず筆を執ることに決し、恰かも古人が看經した如く、又寫經した如く、又た日參した如く、又た武藝を修むるに當り、或る種類の規則を遵守した如く、必ず之を筆記する習慣を養成するときは、後に左までの苦痛を感じない樣になる、是は實に最も障害なき修養の一方便で、且つ上述の如き數種の利益を已に收め、又天下後世にも傳ふることが出來るから此の習慣は苟も文字あるものには、一般に行き渡ることにしたいと思ふ。

英人の眞面目なることに就て

下田次郎氏

「教育公報」一

英吉利人は人間が眞面目であつて輕率でない、詰りシルレルが人生は眞面目なりと言ふたやうな工合に、何事も英國人は眞面目に考へて居る、日本人は事を成すのに眞面目さが足りないかと思ふことが澤山ある、唯其日〱の凌ぎであらうと思ふ。且つカーライルの所謂英雄の眞相は誠實であるといふ、それが英吉利人は發達して居るだらうと思ひます、熱心と誠實が大に目立つ、さうして實業的であつて時間は金なりといふ格言も英吉利から出たのでありますが、それて工業の發達が非常なもので、そして人間が輕薄でなく親切でありまして、學校を觀るのでも總てに付

て親切に感じたのは佛蘭西や獨逸でなくして英吉利でありました。それから信用が大したもので人を疑はない銀行で金を預つても受取を呉れぬといふことは名高い話、汽車に荷物を預けても受取はくれぬ着いた所に行つて澤山ある荷物の中から此分が自分のだといへばそれで宜いのであります、人の荷物を取らうと思へば取り次第でありますが決して間違ひがない、それから家庭が堅い佛蘭西あたりから英國の家庭に這入ると當分肩が凝るやうな氣が致します、さうして人に逢ふには紹介を要する、人を訪問するのでも突然はよくない、一度行かうと思ふがイツ御暇かといつて向ふの返事を聞いて行くのでありますから時間の無駄がない日曜には英國などは屹度休む、獨逸、佛蘭西あたりは休まぬ所もありますが、英國は屹度休んで多く御寺に行く、日曜は美い着物を着て子供でも大人でも御寺に行つて說教を聞いたりバイブルを讀む、それから公園て演說をやるハイドパークなどには五六個所位ありまして、見物人は謹聽して居る、さうして其演說に付て疑義があると演說者と討論を始めるそれが決して聯弄的てない、又傍らて勞働者などが君はドゥ思ふかといふ工合に話合ひをして居る者がある、極めて眞面目にやつて居ります、日本のやうに喧嘩がない、例へば煙草の灰を着物に落されたといふやうな時は名を聞いて置いて、裁判所に訴へて損害賠償を取るといふ工合に折合切つて居る、喧嘩だけては損害はもどらぬ、それから言語を愼むといふことがある、日本の家庭にはマダ餘程其方に於て遺憾な所がある、詰り夫婦長幼男女の間に於て、或人には言ふても宜い、或人には言ふては惡いといふことを家の內でも愼んで居るといふことが見受けらるゝ、又田舍的の生活を好んで、學校に於ても教室の窓に花の咲いた植木鉢を置いたり、或は教室に花を挿して置く、其他希臘羅馬あたりの美術品の寫しを始めいろ〳〵の掛圖等が澤山飾つてある、日本の學校に歸つて來ると斯ういふことが欠け居つて、學校の內が丸て空家に這入つたやうな感じがするのであります、もう少し學校の裝飾に注意しなければならぬと思ふ、日本は美術國であるから學校でも趣味裝飾があらうと思ふのに教室には塗板と椅子と机ほかないそれで外人も失望する。

▲世界一の龍動

紀元千六百零三年に十五万人の人口なりしロンドンは、千九百年に四百五十万となれり、爾後半世紀を待たずして七百万とならんとす

現住ロンドン人の三割五分は地方にて生れたるものなり。ロンドン市に結び付ける六個の鐵道會社、二個の鐵道馬車會社、及び市中の乘合馬車會社、普通馬車等の交通機關にて、一年間にロンドンへ吸ひ込み、又は吐き出だす人口は四億九千万人より五億万人の間にあり。

ロンドンの貧民窟イーストエンドには本年初めの調査にて二千八百五十十人の盲目者有り。



汗

漱石選

制服の汗を着かえて浴衣かな　柳家

立語帽子の汗をぬぐひけり　牛歩

注進や汗ふきあえぬ物語　同

椎の下に汗入れて居る法師かな　縦横

打ち勝つて汗とらせ居る相撲かな　同

つゝしみて僞をまをす笏の汗　摩天鵑

汗ふきは銜へて髱の手まさぐり　同

温泉上りの汗に嬉しや竹の風　初聲

身の汗を胸くつろげて吹かれけり　同

汗くさき故里人に訪はれけり　烏兵

晴の晝飯あつし鼻の汗　同

汗ふいて息つき貌や旅の人　丁堂

面ぬぐや額に汗の美少年　同

山寺や法話に集ふ汗の人　鳳梧桐

働きの汗となる日や蟬の聲　同

汗の顔眼鏡の曇り拭ひけり　芒生

短褐や腹もあらはに臍の汗　同

汗の手に繭の眼利や小商人　同

腫物の脊中の汗をぬぐひけり　同

炎天や蜥蜴に汗もなかりけり　萩生

身だしなむ玉の膚や汗しらず　同

脊の汗腹の汗暑き日なりけり　同

汗の足ところもの藍のそまりけり　同

叱られてひたあやまりぬ玉の汗　同

人
瀧殿や汗も出てざる樹々の風　鳳梧桐

地
湯の汗を風にふかるゝ二階かな　丁堂

天
汗じみし守袋もかたみかな　鳥兵

選者吟

汗の香の馬車てて上野風涼し
舞姫の小鼻に汗のうつくしき
遠乗の汗を木蔭に吹かれけり
汗あつき式はてて解けぬ纓にくむ
言ひかねて頻りに汗をぬぐひけり
汗ふきの得ならぬ香り席隣る
汗水の講義も人の眠き頃
汗にじむ洋紙やペンの走りがき
汗頓に瀧の小茶屋を去りかねつ
十二階上りて汗の顔すゞし

課題

鳩吹（六月十六日限）
稲妻（七月十八日限）

花たちばな　光風撰

○　曉竹

心なく妹が文讀む窓の邊の山吹散りて蝶夢に舞ふ

櫻散るゆふべ山路を行く僧の行手にひゞく鐘しづかなり

○　花涙

老武者のかぶとに鍬閃めきて五月雨さむく鳴く時鳥

○　酒運兒

牛の乳しぼる男の子の影寒く牧場の西に日傾きぬ

○　山田野梅

すゞらんはこかねの髮の白絹の裾曳く姫が戀の花なり

（鈴蘭、又君影草とて植物園にあり、草五六寸、白く小さく、鈴の如き花あまた咲いて、かほりの殊になつかしきなり、谷の間の姫百合ともいふ）

さらぬだにうつむきがちの花うばら雨の雫の思あまれる

若葉せるかなめからたち桓根路箒目清き山の手の朝

○　羽田叢雲

天そゝりそゝり天立つ大巖の一本松に月入りのころ

薄月に匂ふ梅が香詩巻にこめて送らん人や誰なり

歌の師のゆくへかしこといたづきの我妹は夜毎庭に星みる

○　正富汪洋

水涸れし夏田を來れは土割れて秀眞に似たり天名地鎮に似たり

此戀よわれシルレルと身をなして夢むカントの君に戯れむ

稚兒の手拍子とりて踊る見ゆ池に臨める藤のあづまや

白百合に頰ずりすればさにづらふ君が笑顔に觸るゝ心地す

○　磯野登佛

床の間に牡丹くづれぬ唐金の獅子の香爐烟ゆるう噴き

○　鹽田香園

雨あがり櫻若葉のふもと路に春のなごりの鶯をきく

○　森爵童

豆腐燒きて友と花見んさみどりの山椒の若芽薫よろしも

ゆゝしかりしむかし忍びて城跡の朧月夜を松に笛吹く

菜種咲く田圃道日は落ちて羽重たげの蝶一つあはれ

夕風に家路いそぎつさくら狩病あがりの君いたはりて

いつの代の愚者英雄ぞ墓どころ髑髏累々春の草もゆ

○　栗山直扶

宗匠が娘の乞ひをもだしわび雨に濡れつゝ桃の花折る

水ぬるく蛙鳴くなる里河の岸の日あたり歎冬の臺老ゆ

開帳のまうけをいそぐ山寺の幕の戰ぎに櫻花散る

春の淵に四ッ手おろして柳陰翁ひさごの酒かたぶくる

只ひとり雨のつれ〴〵暮しわび旅の日記書く春の湯の宿

幼子に誘ひ出されて涅槃會にからくり見たり八百屋お七の

○　小池武俊

朝宵に思ひは絕えず徒に五尺の男世を泣きほそる

息の緒に思へる妹が朝かげの細りし見れば生けりともなし

漢詩

柳塘撰

黃鶴樓　菅桐南

遠客來登黃鶴樓。樓荒臺古迹悠々。寒烟落日詞人恨。
付與長江萬里流。

詩味亦無限

洞庭湖

西南山斷楚天長。積水浸空望渺茫。弔古懷人無限意。
孤帆明日達瀟湘。

唐調

定王臺

濕氣殘虹遮遠巒。不知何處望長安。臺前草樹猶含雨。
疑是親王涙未乾。

結語以意匠勝、

過賈誼之故宅觀古井

古井無瀾晚照明。雨餘風竹怪禽鳴。東來萬里知何意。
一徑蒼涼弔賈生。

起承造句奇警而有味、

寒泥途上　上原清蔭

探勝車輪去似飛。水鄉風景麗朝暉。人家隱見椰林外。
綠葉如花曝浣衣。

綠地碧天連四隅。茶園椰圃繞晴湖。忽看鷗鷺爲群白。
即是名家一幅圖。

綠樹籠山水漲田。青秧處々間池蓮。涼飈拂面不知暑。
彷彿家鄉六月天。

錫人爲我劈椰子。脣頭忽爾覺清美。驕陽欲午暑如熬。
傾盡洗心甘露水。

路沿溪澗入烟嵐。飛瀑如雷懸怪石。忽看孤峯頭上橫。
天邊屹立五千尺。

東穿積翠上羊腸。偏喜山間日午涼。轣轆飈輪二十里。
蘭醫爲我說風光。

寒泥湖上訪古寺

夕陽蘸水挂遙峰。湖上停車曳知筇。童子不知亡國恨。
菩提樹下說靈蹤。

寒泥勝景不獨冠于錫蘭、實爲東洋靈蹟、此詩篇々寫本地實況、當抵一部地理誌、



普通教育と專門教育

米峰

苟も高等な專門の學術技藝を學ばうといふものは、それより前に、まづ普通の學術技藝を修めて置くといふとは頗る重要なことであつて、專門教育の功果の大小は、實に懸つてこの準備の有無に存すと言つても差支はない。未だ單純底下の普通知識をさへ有しないものが、どうして複雜高尚の專門の學術技藝を習得することが出來やうか。高等小學をさへ卒業したかしない位の程度の連中が、やれ法律でございの、政治でございの、乃至は又、哲學だとか醫學だとか、イヤハヤどうも、片腹痛い次第であるどころの騷ぎではない、たゞ實に立派な片輪を製造するに終るが落ちである。然るに、彼の私立の法律學校や醫學校などには、この片腹痛的連中が、八分を占めて居るといふことだが、日本もなか／＼、餘計なお金と、餘計な時間と、そして餘計な人足を持つて居ると見える、この分なら、露西亞と戰爭をおッぱしめても、…………。

そは兎も角もとして置いて、さて高等なる專門の學術技藝を學ぶものは、少くとも今の中學校卒業生か、若くはそれと同等以上の學識を有したものでありたいといふことは、至極結構なことで、我々の理想も、正にそこにあるのであつて、今度公布になつた「專門學校令」といふものが、專門學校入學資格を、さういふやうに定めたのは、頗る我等の理想と一致して居て、文部の當局者の中にも、多少話せる人間、即ち我々の言ふことを理解し得る丈の役人が居るといふことはわかつた。

しかし、それはたゞ我等の理想である。然り、實に理想である。將來は是非さういふことにしなければならないし、又是非さうすべきものであると確信して居る

のであるが、現下直にそれを實現しやうといふのではない。イヤ、出來れば勿論明日とは言はない。今からでもやりたいのである。やりたいは山々であるが、事實即ち社會の事情といふものは、いつもそう論理的に現はれて來るものではない。たッた四年の義務敎育でさへ、奬勵又奬勵、それでも一向捗々しくないではないか。中等敎育如何に隆盛に趨いたからと言つても、なンの知れたものである。今の時に際して、専門學校の入學資格を、あのやうに規定し、直に以てこれを實施しようといふのは、有爲なる天下幾萬の青年學生の進路を杜絶して、學を廢さしめようと强迫するのであつて、社會の文化の上から見ても、國家の經濟の上から考へても、これ程の大不都合な事は又とあるまい。

専門の敎育を受けやうといふものは、必ずまづ普通の敎育を受けたものでなければならぬといふのは、當然の理窟であつて、又實際さうありたいのではあるが、さりとて、正當に中等敎育を受けたものでなくては、専門の敎育を受けることが出來ないと制限するといふのは、餘りに實際の事情を顧みない、殘酷な處置ではあるまいか。そりや勿論、高等小學さへ卒業したかしないか分らぬやうなものでは仕方もあるまいが、相當の年齢に達し、相當の知識を有して居るものであつて、進んで専門の學藝を修めやうとするものがあつたならば、どし〳〵これを敎育するのに何の妨げがあらう。例へば、こゝに一青年があつて、極めて數學に堪能であるが、その家貧にして中等敎育を受けることが出來なかつた。しかし、たゞ數學のみは、苦學の結果として、中學以上の力を有するに至つたから、そこでこの青年、更に進んで數學専門の學校に入學しやうと思つて願ひ出したところが、資格がないといふので不許可になつたといふことがあつたとしたら何とする。當局者が、「専門學校令」第五條の但書に、「美術、音樂に關する學術技藝を敎授する専門學校に就いては、文部大臣は別に其の入學資格を定むることを得」とやッたのは、即ち繪畫や彫刻や音樂などといふものは、必ずしも正當に中等敎育を受けないものでも、學修することが出來るといふのも一ッの理由であらうし、又現在東京美術學校や東京音樂學校の生徒の中から、正當に中等敎育を受けたものでないものを引去つて仕舞ふと、剩すところ幾人もなくなつて仕舞ふばかりでなく、これからも、十分の入學者を得ることが出來ないといふ恐があるといふことも、一つの條件としての上の事であら

う。既に繪畫や彫刻や音樂を學ぶものに、かやうな特別の規定を設けてやるとすれば、同一の理由を以て、數學を學ばうといふものにも、特別の規定を設けてやつても差支はないではないか。更に進んで、醫學にも、法律にも、漢文にも、英語にも、皆美術音樂と同一の規定を設けて、專門の學藝を脩める間道を拓いて置くは、當然なことではあるまいか。否、未だ十分に中等教育の普及しない日本の現狀は、途を間道に執らなければならない青年が多數なのであるから、寧ろこの多數の青年が、進んで己の好み且つ得意とする專門の學藝を修得するの途を杜絶するやうな「專門學校令」は暫くこれが施行を見合せて、更に時期の到るを待つことにしたらどうだらう。

專門教育は、普通教育の後に來るべきものである、この點に於て、我等は「專門學校令」の精神を是とするが、この令公布のために、正當に中等教育を受けたものでなければ、專門教育を受けることは出來ないといふことになつては、我等は、斷じてこの令に反對せざるを得ないのである。

各種學校と專門學校

「專門學校令」が公布せられたので、各種學校の中には、殆ど致命の大打擊を蒙るものもある。まづ高等の學術技藝を教授する學校は專門學校で、專門學校は「專門學校令」の支配を受けなければならない。依て若しこゝに「專門學校令」によらずに、高等の學術技藝を教授する各種學校があれば「專門學校令」によりて專門學校たるの認可を受けしめられるか、さなくば閉鎖を命ぜられるのである。例へば彼の二松學舍の如き、漢學專門の學校は、從來はたゞ各種學校として成立して來たのであるが、その教授するところは、即ち中等以上高等なる專門の學術であるのだから、專門學校にするか、閉校するかの二途、何れかを擇ばなければならない。よし又奮發して、專門學校にしたところで、正當に中等教育を受けた青年が、さう澤山に入學するといふことは頗る疑はしい、つまり名義は一時取繕ふとしても、學校經濟の上から、事實上閉校するより外しかたがないといふことになるのである。かういふ種類のものは英語、數學、國語、裁縫、その他各種に亘りて、隨分少なくなからうと思ふ。中には純粹に、營利的にやッて居るものもあるだらうが、兎も角その設立者は非常の迷惑であるし、そこに學んで居る幾多の

學生は、一時方向に迷ひ、或は一生の方針を誤るに至るかも知れない。言ふまでもなく、法令は下に服從の義務を負はせるものであるから、調査に調査を重ねて、寸毫も遺憾なきを期すべき筈のものである。然るに、省の硝子窓越しに見渡した位で、早計に號令を下されて、おたまりこぼしがあるものではない。

既に「專門學校令」は各種學校として、專門の學術技藝を教授するものを認めないのであるから、今後の各種學校といふものは、悉く皆中學校程度以下のものでなければならないことになるのである。ところがこゝに、東京物理學校の數學及び理化學の如き、國民英學會や正則英語學校の英語の如き、下は中學一年級位の程度から、上は非常に高尚なる專門の學術までを教授して居るといふ事實がある。此等の學校は、「專門學校令」の支配を受くべきものであらうか、それとも從來の通り「私立學校令」に依つて、各種學校として存在すべきものであらうか。若し「專門學校令」の支配を受くべきものとすれば、その中學程度の部分は解散しなければならないし、各種學校として存在しやうといふには、その高等なる學術を教授する部分を廢止しなければならない。此等の學校に對する當局者の處置如何は、我等の刮目して見んと欲するところである。

夏期講習會を有功ならしめよ

夏來らむとして、夏期講習會の廣告はちらほら見えるやうになッて來た。年一年に盛になる夏期講習會、我等はたゞそれに伴ふ幾多の弊害を耳にするの外、絕えて何等の功績があつたかといふことを聞かないのである。「夏期講習會無功」とは、我等が數年來、本誌の上に繰返したる宿論である。然るに世にはお茶人が多いと見えて、無功と知つてか知らずにか、何處の講習會も、千客萬來といふ有樣、寧ろ驚くの外はない。そこでつら〳〵考へて見るに、かういふ時には、いくら聲を涸らして「講習會無効」を怒鳴つても、到底彼等の耳には入るまい、いつそ講習會を有功ならしめる方法を案出して、彼等に教へたならばとも思つて見た。

一體講習會無功の重なる原因は、期日の極めて短きこと、學科の頗る高尚難解のものなること、科目の多きに過ぐること、講師の不親切なること、講習員の不眞面目なること等である。その中で、講師の不親切と、

講習員の不眞面目とは論外として、短期日の間に高尙難解の學科を數多く講習するといふのが、實は講習會の特長として、多く人を呼ぶ所以であるのだが、そこが即ち又講習會無効の依て基くところであるのだ、倫理學に、教育學に、論理學に、心理學、これだけの學科が僅二週日の間に、しかもたッた二圓内外の講習料て、卒業證書が貰へる、まア何でも構はぬ出かけて見ろと、一ッは好奇心から、一ッは慾得づくから、西より東より集まッて來て、遂にはたゞ會主の懷を肥し、鳥の子紙を貰ふといふことの外、何等の得るところなくして歸るものが多いのである。言ふまでもなく、學術の研究は、好奇心で成就するものではない、慾得づくで出來るものではない。

已に夏期講習會無効の原因が、期日の短いのと、學科の高尙難解なのと、科目の多いのとにあるとしたならば、期日を長くし、學科を通俗平易のものとし、科目を減じたらよいではないかと言ふものがあるかも知れないが、それでは講習會が成立たない。無効の原因といふのが、即ち繁昌の原因であるのだから、それはまアそのまゝにして置いて、他に方法を考へなければならないのである。

方法と言つて別にないが、講師は豫め講義の要目を發表し、且つ適當なる參考書を指定し、講習員は指定されたる參考書に就て豫習し、聽くべき學科の大體に通じ、そして講筵に出ることにすれば、講習員の力がやゝ平均するから、講師の方では講義がしやすいし、講習員の方では講師の言ふことが善く呑み込める、從つてくだらない質問に時間をつぶすといふこともなくなるし、少しもわからないと言つて愚痴をこぼさないでもよいようになる、即ち一擧兩得の結果を見られるのである。

本年の夏期講習會として、その要領を發表したものは既に澤山あるが、中で哲學館の講習會だけは、この方法を執つて居るが、世間幾多の夏期講習會々主たるものも、たゞ自ら得るのみにとゞまらないで、眞に講習員をして、多少の得るところあらしめやうといふ誠意があッたなら、せめてこの位の面倒は見てやッて貰ひたいものである。

新聞評壇 第二回

前月各社揭載の廣告に就て

前月警視廳は公安を害する賣藥に就て嚴重なる取締りをなすことゝなれり、其手始めとして第一に「血塊月やく忽ち下る確證新藥調經丸」及び同「ビスマイン」と稱し、姙婦服用せば即座に流産する等の廣告を揭げ、其實墮胎を爲さんとするものは此藥を飲めと云ふが如きものを取締りたり、而して調經丸の如きは其營業者より廢業を屆出でたりと傳ふ。

これ吾人が已に一昨年の誌上に於て「誌上の犯罪」と題して多數不正の例證を擧げたるものゝ一なり。吾人は當局者の處置が今日まで等閑に附しありしにいさゝか慽みなしとせざれども、此取締りが勵行せられんとするを見ては實に喜悅の念に堪へず、各新聞紙面の各部を評論せんとするに當り先づ其一着として廣告欄に就て都下新聞に對する前月の所感を述べんとす。

社會風俗の上より見て、左の各種廣告は新聞業者の責任としてこれが揭載を拒絕し、一方警視廳の責任として之を禁じ、或は廣告方法の改善を當營業者に注意すべきものたることを感じたり。

五月五日より仝月二十日まで十五日間都下の新聞に顯はれたるものの中特に吾人の注意を牽きたるは

一

ゐもりの黑燒
都ぎぬ
花の梅
舶來快樂劑
やまと玉

二

ブラニール
江戶みやげ一名長名丸
なじみ藥
肥後ずいき
めうと玉
薄きぬ

三

滋强丸　（其廣告文）

四

淋丸　（其醜書）

五

生殖器專門藥（陰萎病及び秘法書云々の廣告文）

六

毒掃丸（其醜書）、

七

子宮サック（其廣告文）

八

毛はへ藥（其廣告文）

九

夜の秘密（其廣告文）

右の內或は實際社會に必要なる醫藥品も有らん、然れども社會風俗の上より見て、其露骨醜惡なる廣告文、及び醜書は決して看過し得べきものにあらず、中には堂々四ッ目屋の名を冠して世人が四ッ目屋事件の記憶猶新たなるを利せんとせるものすらありき。

吾人はリザト以上の廣告を掲げたる新聞の名と時日回數を云はざるべし、これ各社の反省を乞はんが爲めなり、今後の一二ヶ月を見て猶かゝる醜廣告の續出するあらば其時を待て公表せんと欲す。

一方に美術館の裸体畫にすら干渉する警視廳が斯る廣告の醜書及び廣告文躰に對し、今日まで何の顧みるところ無かりしは最も怪み思ふところ、吾人は廳吏の常識有無を疑はざらんとするも得ず。

▲世の逸せる新聞界の傑物

雙樹生

▲曰く黒岩君曰く秋山君今の人、新聞社會の人傑を數へて其一二指を屈するは、必ず此に人に限れるが如し、然れども、此二人は社主也、社主としての成功の資格を有するもの也、記者としての資格に至つては、未だ以て社主としての資格に於けるが如く花々しき褒辭を棒ぐる能はず、余の見る所を以てすれば、記者としての眞の資格を有するものは、此二人の外、別に是れあり、今は暫く潜んで其光芒を放たずと雖も、其伎倆は、黒岩以上、秋山以上、優に海內一の名を占め得る人物あり。

▲其人物は誰ぞ、曰く田川大吉郎氏。

▲彼は、今、新聞社會の人にあらず、然れども、其過去に於て、其經營したる新聞に於て、彼は新聞記者として、黒岩以上、秋山以上、當代絶倫なる實驗を示したるにあらずや。

▲試に先づ其履歴に見よ、彼は廿歳に滿たずして郵便報知新聞の論說記者となれり。二十三にして都新聞の

主筆となれり、三十歳に足らずして改革後の報知新聞を主裁せり、年少にして新聞主裁者たるものは江湖、其人なきにあらず、然れども、首府の新聞紙に於て、しかも、彼が如く弱冠にして新聞に主裁たりしものは殆ど稀也、此點に於て、彼の新聞記者的天才は、拔群なるものといふべし。

▲都新聞は花柳新聞也、然れども、其編輯方法は、彼か在社當時の方法を踏襲せるもの也、十年後に及んで、前人の遺法を踏襲せるは何故ぞ、報知新聞は家庭新聞也、而して初めて其紙面に家庭趣味を注入したるは、實に彼也。

▲彼は婦人記者なるものを初めて日本の新聞界に聘用したり、彼は、少なくとも四五十圓の記者を雇うて頗充すべき新聞紙の第一面に於て却つて、掲載料を得て、しかも社會に對して甚だ重寶有益なる職業案内を初めたり、御伽話の如き、衛生顧問の如き、實業紹介の如き、悉く彼在社當時の報知新聞に於て創められたる也、

▲次で彼の思想に見よ、彼の思想は堅實也、彼は甚だ能く常識に富めり、是に於て、彼の新聞は、或るものゝ如く神經的ならず、又、或るものゝ如く不公明ならず、何處迄も公平に、何處迄も虛心に公明正大にして、しかも、高潔清純也。

▲彼は主義あり、主張あり、是に於て彼の主裁する新聞は、今の多くの新聞紙の如く、決して旗幟不鮮明ならず。

▲彼は活動的也、甚だ能く戰闘的精神に富めり、是に於て、彼には進歩あり、發達あり、しかも、其進歩や、發達や、秩序的也、ステツプ、バイ、ステツプなり、今の多くの新聞記者の如く現金主義若くは鼠色主義ならず、此點に於て、彼は、新聞記者としての外、マンとして實に尊敬を値すべき一種の人格を有す。

▲最後に於て、最も服すべきは、彼が精神界の人物なる事是れなり、今の新聞記者は多く否、寧ろ殆ど物質的也、彼等の對象は、黑塗馬車也、一攫千金也、酒也、女也、然れども、獨り彼に於ては然らず、彼は黑塗馬車を夢みずして自轉車を利用し、一攫万金を願はずして節儉の福音を説き、酒と女を解せずして宗教と道德を知れり、彼自身の立ち場は政治家也。

然れども、彼の立てる土臺は宗敎也、彼が講堂に於て享けたる敎育は法律學也、然れども、彼は、哲學を知れり、敎育學を解せり、文藝にも通ぜり、家政にも留意せり、此點に於て、彼の趣味は決して偏狹ならず、

今の物質一點張なる新聞界に於て、彼が一頭地を抽出せる所以は實に此處にある也。

▲今の日本文明は、既に物質的方面を終りて精神的方面に移れり、今に於て、最も要する新聞記者は、精神界に對して深き注意を拂ふものたらざるべからず、彼の累々たる物質一點張の記者は、既に時世遅れの廢物に過ぎず、此時代的立ち場より見て、田川氏、彼は、今日の新聞界に最も能く適應せる人材也、彼をして活動せしめよ、而して其記者的天才を發揮せしめよ、彼は、實に今日の新聞記者也、精神界のエヂター也、我徒は、彼が現狀を見て、人材經濟の上に甚だ勿躰なく感ずる也。

▲五月の都下新聞所感

白雲子

(一)議會正副議長の決選投票に、河野廣六、松田和夫、大岡義太夫、國益大天狗岩谷松平など〻書したるものあり。

帝國神聖の議事を以て茶番狂言と同視す、國民の撰良たる代議士にして此の如し、一國の不祥豈此の如きものあらんや。

而して新聞紙の之を慨し、之を譬め、之を論じたるもの無し、一種の娛樂として共に笑ふに過ぎず。

(二)政友會分裂すべしと云ひ、議會解散すべしと傳へ、上奏案提出と舁く。

一國の政界に採ては大活劇の月なり、國民は宜しく政談に狂熱すべし、然るに一般國民特に輦轂の下に在る都民にして耳を政治に貸さず、只回向院の相撲のみに狂奔す、立憲國民としての不祥豈此の如きものあらんや。

而して新聞紙も亦重きを政界よりも相撲界に措けり、首相の演説に僅か半段を供するの紙面は、梅ケ谷の記事に一段二段を費やす、只時好に投するのみを知て毫も國民を導くの態度無し。

(三)鼠小僧の講談本に心醉して遂に窃盜となりたる小杉慶次郎なるもの有り、俳優訥升に心醉して發狂せる小女小竹くめなるものを生じたり。

演劇講談の爲めに盜賊となるもの、破落戸となるもの情死を希ふもの等擧ぐれば見るところ、又一國婦人の理想とする男子が、獨逸の如き軍人等の男らしきものに向はずして今猶俳優の如き階

級に向へる如きこれらは皆我社會の病態なり。

而して新聞紙は如何なる筆鋒を以て此事實を迎へたるか、多くは面白可笑く挿繪まで添へて之を記載し、毫も之を矯めんとの意を以て報道したるものなし、却て火を消すに油を以てし淵を埋むるに雪を以てするの態度に出でたり。

（四）邦人最初の西藏探險者河口慧海氏歸朝の報有り

冒險者探險者に關して國民は最も歡迎の意を表せざるべからず、特に西藏探險は歐米人の等く望んで未だ一人の完全に成功したるもの無きを聞く、之を我國民の中より彼地に止まること一年以上と云ふ大成功者を出だしたるもの實に世界に誇るべき一國の名譽なり。

右の尊敬すべき冒險歸朝者に關して、新聞社は如何なる記事を以て迎へたるか、二三の社を除ひては僅々の報道にして止まりしのみ、或は他社に報道を先んぜられたるが爲めに掲げず、或は之を掲ぐるも、誤謬百出、其眞想を誤まるもの多くして社會を欺かんとするなり、これ豈世界的大日本國民を養ひ出だすべき社會の先導者たる新聞記者の行爲ならんや。

▲諸新聞に對する希望

斬天生投

●万朝報——小說を少なくせよ、三面記事の正確を期せよ、自轉車や將棊欄や相撲や地日一日噺等を少くせよ、電報を五號活字にせよ。

●報知新聞——職業案內を縮めよ、一面に最少し記事を殖せ、全紙の趣味餘りに一方に偏す、紙を薄くせよ。

●時事新報——全紙面をずつと引締めよ、太いばかりが能でなし、俳優談は餘りシツコシ。

●朝日新聞——小說を減ぜよ、抱一庵ものを避けよ、頭痛がしてならぬ、某村貞彦逛樹の紀行文も除け腹が下つてならぬ、東亞通信を益々發揮せよ。

●二六新報——突飛を愼め、先日の如き號外は吃度出す可らず、嚇かしを亂發す可らず、世の信用追々薄らぎつゝあり、勞働者ばかりでは食はれまじ、三面を愼しめ。

●都新聞——小說を改良せよ、花柳界便りを廢せよ、文學美術記事を殖せ。

●國民新聞——隔週附錄を盛にせよ、小說を改良せよ、最少し活氣あれよ、諸方へのオベツカを止せ、ます〳〵記事の充實に努めよ。

●人民新聞——毎月懸賞とか景物とかを斷然廢止せよ、言ふ事が少しも當らぬ、今の處では近き未來に盛泯新聞となるぞ。

●日本——確つかりしろ、盲碌しては困る。

●日々新聞―元に戻れ。
●毎日新聞―單調〳〵、平山は止めろ、沼南尙江大に言へ、一万歳は甚だ拙かつた。
●國益、日出國、東都日報―廢刊！廢刊!!
●一括―淫猥の記事を縮め全様の挿畫を止せ、人身攻擊の筆も全然、大阪の新聞に負けぬ樣、紙面を賑かにせよ。

▲五月の新聞時事評

磯野魯佛

◎讀者の好奇心や助平心に迎合して唯彼の售らん哉售らん哉的手段を以て淫猥醜陋の記事を掲ぐる新聞程憎むべきものはない、常に男女間の關係に就て正論讜議を事とする時事新報が、刑餘の賤婦ヒステリーの准患者たる花井於梅の經歷談をさも難有さうに自分勝手の冐頭を付けて麗々しく永々しく書立る了見は、僕等は到底推測することは出來ぬ、二六などが殺人犯は一時の激情に因て爲されたるものなれば其憫むべきを知つて憎むべきを知らぬなぞと例の屁理屈を並べて、同じく此賤婦の提灯持をするに至つては實に鼻持のならぬ事である、若し夫れ報知新聞の蝮のお政の懺悔物語なぞと來ては熊公八公の好奇心を利用して、自家新聞の呼物に供する卑劣手段の他一の取るべき所はない。勿論僕等もお梅やお政が刑餘の人間であるから飽くまで之を追究して再び社會に伍する事が出來ぬやうにせよとは云はぬ、否大に彼等に悔過遷善の經路を與へ將來永く眞人間として世に處する方法を示すべきは先覺者の當然の責務であるが、彼等の一擧一動を貴重なる紙上に毎日紹介するの必要が何處にあるか、他なし紙上の飾りとなし呼物となして下劣なる讀者の愛を惹かんが爲のみ、時事や二六や報知が其一面に於てなしたる折角の議論も此淫猥なる三面記事の爲めに滅茶々々となつて、世の識者は最早彼等の言論は恰も石川五右衞門や鼠小僧の說法視して恐らく耳を貸す者もあるまい。世に商賣人根性程きたないものはない。

◎それから止めてほしいは讀賣新聞の當世百美人の肖像付小傳である、彼等はたゞ良家の娘で未だ何等の汚行がないと云ふだけで、取りたてゝ天下萬衆の耳目に訴へる程の價値が何處にあるか、之も矢張り他人の娘を自家新聞の呼物となし賣品と爲して幾多すき者の嗜慾に供するのである、之が爲めには隨分其當人や親たちの迷惑を感ずる者もあるであらう、いや屹度ある、若し之を迷惑に思はず却て得意然たる色ある者は一種の賣色者流である、昔者容色ある者を一枚摺にして繪双

紙屋なぞて賣品としたものだが、之も中流以下否寧ろ賣色的人間の子供に限られ決して良家の娘などが一枚摺となつて店頭の陳列品に供される事はなかつた、今や讀賣新聞では淑女の龜鑑とか標本とかの好名目の下に良家の娘を一種の賣品として居る、彼の人の子を賊すとはそれ此等の新聞屋の謂であらう。

◎回向院の角力の記事は却つて目下の大問題たる外交の報道よりも詳細に議會の記事よりも幅を利かせて居る、讀書嫌ひ、修養嫌ひ、眞面目嫌ひのお祭人種の劣等なる趣味を煽起し發動させて一枚も餘計に賣らんとするの外些の主張も抱負もなきワイ〳〵新聞ばかりでなく、平素理想の人道の矯風のと鹿爪らしき議論をする堂々たる新聞亦此の野蠻なる遊戯の犢鼻褌擔ぎをするに至つては吾人唯呆然自失オヤ〳〵たらざるを得ざる次第である。（五月十七日）

▲日露開戰に對する新聞觀

仝

◎僕は絶對の非戰論者である——其主義の上より信仰の上より——が、今日滿韓の風雲穩かでないと云ふ所より都下（地方は知らず）幾十の新聞は筆を揃へて露國の行動を非難し膺懲の軍起さゞるべからず、問罪の師出さゝるべからずと、恰も火事場に於ける彌次馬然として喋ぎ廻る其調子の慷慨らしき天晴燕趙悲歌の壯士芝居を見る樣で、僕等の眼から觀る時は實に一場のコメヂーである。彼の二六が例の正義の人道のと不得要領なる抽象名辭を擔ぎ廻るにも躊らず號外までも出して開戰熱を鼓吹し、讀賣東朝各主張を異にするも其開戰説たるは同じである、特に東朝の如きは鐵崑崙靺鞨天尊なぞと名前からして水滸傳にでもありさうな東洋的英雄揃で、平日の議論からが殺氣冲天當るべからずだから此際至極尤なことである。獨り此際毅然侃然主義の上より主張の上より非開戰論を公にし、非戰主義を唱ふるのは萬朝報と毎日新聞である、前者は社會主義を執る人が多いだけ夫だけ戰爭なるものゝ社會人類に及ぼす害惡を認知し主義の上より戰爭を非認するのであつて最も吾人の意を得たる者である、後者は沼南君の舊著「日本と露西亞」を讀んだ者は今日尚君が日露開戰を主張する人でないとを解するであらうし、又平日平和人道の爲に盡される同紙の上で人を殺し國を奪ふ底の蠻論を鼓吹しやうとは誰も豫期するものはあるまい、殘陽氏の名を以てせる戰爭人種は即ち沼南氏の

持論であらう、否毎日新聞の當然に唱道すべき福音であらう。今日主義主張なき我國の政論壇上に此二新聞のあるあるは實に砂漠に綠地の在るやうな感なくんばあらずである。其他紛々たる木葉新聞はたゞ人氣に投合し與衆に媚付するの外一の見るべきもの聞くべきものを認めぬ。勿論僕は日本時事國民の三新聞については未だ多くを云ふべき權利がないから何れ其中例の無遠慮の評論を試みやうと思ふ。

▲三面記事の責任に付て

神田玄聲子

國民新聞四千號の祝ひとかに「新聞紙に對する豫望」とか云ふものを天下に募られたそうだが不幸にして余は見なかつた、嘸かし面白ひものも多かつたらう、で或は少しも珍らしくも何ともないか知らぬが余も玆に新紙全躰に就ての批評やら希望やらを混ぜ〳〵に書いて見たいと思ふ其實例は來月にも御目に掛け樣と思ふ。

余の玆に言ひたいとは、所謂三面記事なる市井の出來事に關する新聞紙の責任である、此三面記事が今日の如く詳細に重要に傳へらるゝとは未だ見ざる所であらう、東京廿幾個の新聞紙只一の「日本」を除いては何れにも心中人殺等の記事を見ないものはない、さて此三面記事掲載の可否論は別に申すとして、兎に角或は一欄を或は一欄半も大切なる紙面を塞げて掲載する以上、今少しく責任を有して書て貰ひ度と思ふ、今日の如き有樣では只人の好奇心好惡性好色性を挑發する爲に三面記事ありと罵じられても一寸申譯はあるまいと思ふ、新聞の記事中で取消の一番多ひのは三面記事であるが、仝時に訂正せらるゝ事の尤も少ないのも三面記事である、余は今玆に恰好なる實例を擧げ得ないから一寸讀者に請ふて置くが諸君にして三日間三四の新聞の三面記事を對照せられたならば其書き振りの異なるは素よりであるが事實の描寫甚しく相違せるに驚かれるであらうと思ふ、殊に或事件の原因の探査に付ては鷺烏に化し蛤雀となれる事少しも珍らしくない、之に付ては一の實例を記憶して居るが何でも二月頃であつたと思ふ四谷停車場近傍で轢死を企てた若ひ女があつた、處が幸に人ありて助けたが、其女は某酒店に仝居する某の女で、轢死を謀るに至つた原因は同居してる酒店の主人が自分を妾にしようとするいくら拒んでも肯かない、主人は愈々迫て、聞かずんば親子二人を

追出すと云ふ段に立至つて、其の傍であはや手込にもされようとした、之は或一新聞の報ずるものである、又他の一新聞では左樣でない、單に主人から强姦され樣としたので死を決した、又他の新聞では親父が强姦しようとした淺ましさの結果である、又更に或新聞に依れば主人の妾になれと親父に强迫された結果である、此一少事件に付き殆んど全く異なる四種の原因が公にされて居る、而して或物に從へば親父惡なり、或は主人主となり、親父從となれるかと思へば、或者を讀めば左にあらず、而して今日に至るも余は何れの報道が正確なるや決定する事が出來ない、何れの新聞にも一言の訂正もない、言ふ者は或は言はん如此一鎖事再探確報に値せずと、咄何等無禮の言ぞや、例令對象如何に小なるも、性格如何に卑しきも苟に一面人身に關する事件である、個人の權利なるものに大小廣狹の差なき以上は無暗に虛僞を報じて其儘に措くは甚だ不德なるものと思ふ、不幸にして描寫せられたる當人達は恐らく新聞の名に慄へる位のものであつたろうから或は一片の取消にも及ばなかつたかも知れない、否爲すも無駄なヿを知つて爲なかつたろうが、如此は新聞社にて再撿三偵の上宜しく正なるもの丶寃を雪ひでやるのが新聞社の社會に對する德義であろうと思ふ、如此眞僞混亂の報導を世に公にせられて悲涙に暮れてをる人及社會を放逐された人は幾何程あるか知れたものでない、近くは女學生攻擊の如き十中四五は必ず虛僞乃至誇大の記事である、蓋し現今の新聞記事中の三面は報道の迅速をのみ競ふて少しも正確を期して居らぬ、如此くにして猶廣言して曰く世道人心の爲なりと、吁。

▲新聞小言

（其　二）

荒尾勇造投

◎現今の新聞紙に就ては、云ひたい小言が澤山あるが、先月は小生も博覽會見物と洒落て、大阪へ旅行したから、一ッ大阪の新聞に就て、見聞した事だけを書いて見よう。

◎大阪の新聞は總てが營業的方面に發達して居る、隨つて團結力に富んで、東京のやうに小さい新聞が群雄割據的に存立する餘地が無い、新聞と云へば朝日、毎日の二新聞に限ッたやうで、大阪新報などゝ云ふものもあるが誰も振返ッて見ない。

◎どう云ふものか、營業的方面に發達すると共に精神的の主張は滅茶々々になる、何でも蚊でも金で面を張るといふ根性ばかり募ッて、高尙な理想はゼロになる、東京の新聞も近來營業的に擴張すると同時に、精神的主張は衰へて來る、今の所謂文明といふものが、物質的に偏して精神的修養をおろそかにする弊があるからだ。

◎東京でも比較的理想の高い社主や記者の居る新聞は、營業の方面に於て何時でも劣等の地位に居る、例へば島田三郎君の人物は新聞社會唯一の名譽を占めて居るが、其管理する『毎日新聞』の賣高は情けないものだ、聞く處に依れば何でも四五千枚しか發行しないとサ、陸羯南君も先づ人物として非難の少ない人物だが『日本』は既に孤城落日、糧食の供給に不足で、加藤淸正蔚山籠城の躰がある。『讀賣新聞』に高田早苗君が關係を絕つてからとて別段衰へもしない、『萬朝報』も黑岩涙香君が靈魂不滅論を唱導するやうになつて却て面白くないといふ、何でも新聞は衆愚の見るもので、大俗に受けの好いものだから、賣高を多くして社運を盛んにしやうとするには、むづかしい理窟を知ッて居る人は駄目だ、とはナサケ無ひではないか。

◎大阪の新聞は營業の方面に於て、優等の地位を占むるだけに、記者などは實に三文の價値もない、隨つて營業部の先生達は中々羽振が好い、商人なども編輯部の人だと云へば快く貸賣をしないが、營業部だと云へば、お拂ひはいつでも宜しうおますと喜んで居る、其癖大阪の新聞記者は、金力の點から云ふと、東京の新聞記者の幾倍だか知れない、東京で月給二三十圓の記者が大阪へ行けば七八十圓は確かなものだ、『報知』に居た何とかいふ男が、此頃『大阪毎日』へ飛び込んで、何處かへ出張すると云ふ事で、旅費の請求をした處が、東京なら三十圓と請求しても、十五圓位で濟して呉れと會計から壓制される處を、餘程大きく出るつもりで五十圓の請求をした、それを會計員は可笑がッて、何だケチな、これはかりで間に合ふのか、兎も角社員の躰面を維持しやうとするには二百圓位いるだらう、サア二百圓持ッて行き給へと、無理に金を押付られて、先生面喰ッテ、其金に手が出せなかッたと云ふ奇談がある、萬事此調子で黄金萬能主義の跋扈する代り、品性の素養は却つて皆無だ。

◎河口慧海氏の歸朝に就ても、大阪の新聞は西藏探檢談を、金で買收しやうと思ッて、非常に激烈な競爭を

したさうだ、是れには慧海和尚も大閉口の模樣であッた。

▲新聞紙の罪惡

牛門の一生

無暗に人の私行秘事を摘發して筆誅攻擊するのは確かに許し難き大罪惡てあるが又何かなしに人を賞讃して其人の承諾も得ずに肖像を揭げたり何かするのも甚だ宜しくない、飛んでもない迷惑を醸す事がある、吾輩から見れば當今「讀賣」に毎日連載しつゝある當世百人娘の如き躰の善い罪惡である、夫は精探の上とか何とか賣藥の效能的保證やら自讃やらあつた上て揭げるのてあるから或は間違はあるまい、併し夫ならば夫て先年揭げた「明治の令孃」位に詳しく書て貰ひたい、美貌と年齢と書畫詩歌茶花の上手な事の說明文ではチト信用が出來ない、已に「明治の令孃」が撰を誤り事實の間違があると言はれるではないか、若し又如此記事を以て賣上を增さうなどゝの企てならば實に眞に大罪惡と言つて宜しい、此頃の万朝報に懸賞文募集を以て少年少女の虛榮心を挑發するを罪惡の一に數へたが、之は其よりも勝れた罪と思ふ、載せられた當人は或は喜んで居様が、其親達の或者が如何に心配してるかを思ひ玉へ、殊に讀賣の一面には案外の醜陋なる小說がのせてある、最早多言するには及ぶまい。

又、讀賣は久しく家庭新聞として愛讀せられ今も猶其の方面に讀者が多いのである、然るに此清き高き潔き新聞ならざるべからざる同紙が、かゝる當世百人娘が揭げらるゝ許りか、滋强丸の廣告を歡迎するのは果して何の意義てあらうか。

滋强丸の廣告は久しき以前よりの問題て、今日では花柳種を以て生命を繫ぐ小新聞の外、これを載するを敢てしない、それを讀者の如き新聞が歡迎するとは其意を得ぬことの限りてある。



雜評

局外文談

小觀記者

○故子規子病を得て俳名漸く高く、寧齋病重ふして詩愈妙に入る、紅葉子今や不治の病に陷る、その小說果して上進すべきを得るや如何。

○近來の著書中最も評判を取りしは兆民の「一年有半」と龍溪の「新社會」なり、前者は片々たる斷言隻辭、後者は平凡の空想談のみ、而もその十幾版を重ねて洛陽の紙價を高からしめんとしたる、人氣といふものは妙なものなり。

○近來最も感ずべきは黑岩涙香が哲學宗教の問題を研究しその意見を發表したることと是なり、彼は到底尋常

の士に非ざるなり。

○今日青年輩の思想の浮華淫靡を去て漸く高尚森嚴の問題に向はんとするは頗る賀すべし、唯此際世の所謂宗教家の徒が果して能く彼等を滿足せしめ得べきや如何。

○之をキリスト教にしては「聖書の研究」之を佛教にしては「精神界」トニカク信仰の皷吹に勉むるの勞や多とせざる可らず。

○浩々洞一派の文温潤玉の如きはあり、而も炎々として人を燒かんとする火に乏し、内村氏のは意促り語短く大人の風度を闕くものありと雖も烈熱の氣に於て取るべし。

○曾て蘆花生の兄蘇峰と絶つの文「黑潮」に出でたり、黑潮其物は讀まざれども此文は讀みたり、主義の合せざる骨肉と雖も恕すべからず、彼はたしかに信仰あり義氣あり、尋常小說家にあらず。

○今日の小說家に最も闕如たるものは確乎たる信念なり、構思の妙、文彩の華之れなきに非ずと云へども一片靈熱の紙上を照耀するものあらず、世道人心に何等關渉するものなし、吾國に大小說なしとは大信念なしとの謂なり。

○必ずしも宗教的信仰に限らず、苟も血あり、涙あり義憤の氣勃々として抑へんと欲して抑ゆべからず、筆を驅て萬言走る、是の如くして大文章を成さゞるものあらず、病は人をして眞實ならしむ、紅葉子たるもの一篇の「おき見やげ」を遺すの意なきか。

○近來古今名著の翻譯さるゝもの多し、ホーマーのイリヤッドの如き、ミルトンのパラダイスロストの如き、プルタークのライブスの如き最も其の著しきものなり吾國の讀者をして是の如き大文學に接觸せしむるの必要あるのみならず、下等新聞の三面記事にも劣れる倚翠偎紅の外殆んど何等の記すべきを知らざる多數の作者輩彼等自身を敎育するに於ても亦是の如き翻譯の出づるは最も喜ぶべきことなり。

○されど讀まずんば始よりなきが如し、無學文盲の吾國の小說家輩は是等の翻譯物を借りてゞも外國の文學を咀嚼すべきなり。

○唯調子はづれの議論をなし、人を驚かさんとするは今日の風尚なり、而も調子はづれのみにて主意索漠、撞着矛盾の配列にして止むもの多し、大町桂月の如き例とすべし。

○桂月の文は達者なれども駄文なり、唯譯もなきこと

をヌラ〳〵書きちらして御茶を濁ごすものなり、原稿料をせしめるには最も都合よく出來たり。

○緑雨の雜筆又々二六紙上に見ゆ、此種の文字に於て當世獨歩と稱すべし、意義深酷、字句洗錬、宛としてジヨナザン、スウイフトの斷句を見るの心地す。

○彼の文は唐辛の如し、小なれども辛辣の氣人を刺す。

○德島蘇峰の日曜講壇、平理常談、淡々として他の奇とすべきものを見ず而も靜かに味ふて情趣津々として悉きず、天才なきものゝ屬す能はざるもの多し、東坡の謂はゆる絢爛より平淡に入るとは彼れ今日の文境なり。

○鳥谷部春汀「太陽」に據て人物を月旦する歲あり、而も文に變化すくなく、千篇同調の譏あらんとす人物評は矢張蘇峰のが面白し。

○予は最も翔川の文を愛誦せしものなり、彼か詩七分文三分の奇文は何人にも望む能はざりし技倆なりしが下手の橫ズキとやらにて一度び政客の群に投して文學者としての彼は死したり惜しむべからずや。

○末松青萍曰ふ予にして若し政治家たらざりせば或は大文學者たるを得たらんものをと、彼は今にして始めて文章の衣冠よりも尊きを想ふに至りしか、晩しと云へども悟らざるに勝る。

○文學に緣因なき職に在るものゝ文章詩歌を愛す、何となく奧ゆかしきものなり、角田竹冷の辯護士を以て俳偕の宗匠たる、山田奠南の法學士を以て漢詩を好める、森鷗外の醫學博士を以て小說家の名を博せるは已に人の知る所なるが、農學博士勝島仙之助仙坡と號し法學博士江木衷冷灰と號し、醫學博士土肥慶造鶚軒と號し皆漢詩を以て家を爲す程の人なりと聞けり。

○鷗外は獨り洋學家に非ず、左の如き漢詩をも作る人なり、

臺灣軍中嘯樓有詩見寄次韻

征袍不礙一身閑、幕府名流日往還、戰迹收來詩卷裡、
羇愁除去酒杯間、昨聞征鼓鳴貂角、今見龍旗指鳳山、
好是天南凉氣到、桂香飄處賦平蠻、

○山路愛山の大阪論、大文なり、上中の二編已に出づ上編最も觀察の警拔を示せり、吾人の輕々看過して氣付かざる事をも關東ものたる氏の眼には如何に强く映じたるかを見るも頗る興あり。

○花井梅の獄中談諸新聞紙に上る、殘酷苛虐人をして酸鼻に堪へざらしむ、今日の監獄が尙如何に多く改良すべきものあるかを徵するにあまりあり。而も是等の

記事を載する最も詳細を極めたる時事新報を始めとし各新聞未だ一言の監獄改良に及ぶものを聽かず、知らず何の爲にかゝる記事を掲けたるにや。

○花井梅が獄中にて聖書の光を見たる教誨師等の參考に資する大なるものあるべし。

零談些話

零翁

●日本人も大分世界化して澳洲と濠洲を穿き違へ、瑞西と瑞典をゴッタ混ぜにする樣な天保黨は少くなつた併しマーダ〳〵世界の隅々まで注意する樣にはなつて居らぬ。歐羅巴と云へば英國と獨逸計り、亞米利加と云へば北米合衆國計り、其他の國に就ては何の知識も持て居らぬ。阿弗利加の地名で知て居るのは埃及とトランスバール、亞細亞で分るのは支那と朝鮮、其外は全く不知案內の赤毛布、方角さへ知らぬ連中が多い。

●輿地誌略と云ふ明治初年の地理書で、ドーシタ譯か釋迦の足蹈みさへしたことの無い錫蘭島を、釋迦佛誕生地と書いた、それからと云ふものは何々博士編纂と、名丈け立派の實、糊と剪刀の一夜作りの地理教科書では、悉く誤りを傳へて居る。それを正直に學校で習ふた今の若い者は、歐羅巴行きの紀行文や通信に、麗々敷「佛誕生地に詣す」などゝ書く。最も甚きは毎月出版する「旅行案內」にある郵船會社の歐洲航路案內記にまで之れを書いて居る。

●鎌田榮吉君が先頃極々最近に驗定を受けた、且つ各學校で好評のある、地理書を一冊見たところが、誤りが多いので驚いたとのことである。次の數個條は其驚きの中の最もヒドイのだとの事、成程驚かずには居られない。

第一、阿弗利加のことを暗黑大陸として內地は未だ探檢が行屆かない所としてあること　勿論四十年前まではそうであつた、今では彼の通り歐洲列國が入り込んで寸地も餘さず占領し、北から南へ鐵道さへ布き詰めようとして居る此阿弗利加を黑暗々とし書いてある。

第二、匈牙利を歐洲中の未開國としてあること　これも三四十年前は日本同樣であつたかも知らぬが今日では長足の進歩を爲し、北米合衆國中の諸地方と同じ速度を以て進むのは、歐洲中此國計りであるとは三歲の童子でも先刻承知の事である。

第三、希臘のコリンス地峽の切開と云ふ著名の事實

を認めて居らぬこと　此切開は埃斯士利人の設計て、羅馬以來希望の大工事を成功したのである。此評判の高ひ新事實を知らぬ。

第四、モナコ國を知らぬこと　佛國の南部で外交史上に有名で、且つ珍らしく小さ國と云ふので世人の能く知れるモナコを十五方哩の最小共和國と書いて居る。十五方哩でも無ければ共和國でもない、長さは僅か一哩餘幅は五百ヤードの村落見た樣な獨立の公國である。

●昔の印度や、支那や、今の歐羅巴や亞米利加の文學は、隨分日本に輸入もされ、受賣りもされて居るが、波斯の文學と來ては誰れもまだ日本で飜譯して居らぬ誰か一ッ波斯文學通となつて珍らし物喰ひの日本人にヤンヤと云はせ、文學博士にでもなる氣はないか。

●今でこそ英露の間に挾まれて、見る影も無き姿となつて居るが、古來幾度か歷史上に花を咲かせた大帝國ゾーロースターの古から波斯の文學は隨分研究するに價がある。

●波斯の詩歌で、最も多く歌はれ原料となつて居るものが四ッ有る。一は鶯、二は薔薇、三は酒、四は盃の廻はし飲み。これは今の若い日本の新派詩人とやら云ふ泣虫が歐羅巴の菫がドンナ色で、ドンナ香が手に採たこともないクセニ菫が無ければ歌か出來ないとは違つて、波斯實際の國情を代表して居る。鶯と薔薇を賞み、酒を嗜むこと波斯人の如きは實に世界に稀れである。

●それに就て妙なことは、波斯人が卓子を圍んで團欒先づ杯を隣客に囑し、順々に廻はし飲みすることや、盃の獻酬をすることを、波斯語でサキと言て唯一の娯樂として居ることとである。何んだか日本語のサケはこれから來た樣な心地がする。誰やらは天照皇太神を初め、日本の古事記は波斯の火敎が萬物を明暗に別けて太陽を崇拜するのと相一致し、風俗や、習慣や、色々の點から日本は波斯と古しから何かの因緣があると云つた。成程そうかも知れぬ。これが西洋人なら波斯と日本に就ての大論文や大著述が出來るに相違無ひ。

●歐米の學者は時に飛んでも無い獨斷をやる。喩へば孔子は西方亞細亞から支那へ移住した人物だとか、アイヌはイスラエルの十二種族の一族だとか云ふの類で僅かの材料を種にして兎に角物にする伎倆はとても日本人には出來ない。三月のハーパー誌にドクトル、スチユワートクーリンと云ふ男が、支那の文明は亞米利

加から移つたとの題で書いて居るから、何を云ふかと讀んで見たら古代の阿米利加に一度バビロンや埃及と同等の發達があつたに相違無ひ。それは地中から堀り出す古器物で分る、特に支那の文明は古代米國の文明か渡つたのであろう、カリホルニヤのユーバヴアレーと云ふ處では、支那の筮竹と其數まで一致せる同形のものが有る支那の古書易經に現はれて居る事物は米國で一致せるものがマダ／＼多いとのことであつた。此種の推論はたび／＼歐米人の間に見受ける。

●明治の初年赤松連城君が龍動に留學してバーローと云ふ宣教師の家に寄寓して居つた或日論語の一部分を宣教師に飜譯して聞かせた、宣教師はこれを聞ひて大に感嘆し「其思想其趣味、決して東洋的でない、乾度孔子はパレスタイン近傍から支那に往つた人に相違ない」と云つた。「東洋でも西洋でも眞理は共通である、支那に生れた孔子とて君等を惑服させる言の吐けとぬ云ふ様な愚なとがあるか」と爭ふて見たが、先生頑として可かない。

●ソコデ連城君は默して仕舞ひ、其日晩餐の食卓に向ふた時、何氣無き躰でカップの水を一口グッと飲みほし「コレハ不思議此水は日本から輸入して來たに相違」ないと言つた、先生釣り込まるゝとは知らず大に笑ひソンナ馬鹿なとがあるものかと返へしたが「イヤソレデモ趣味が同一だ」と、ヤッ付ケたので先生大に閉口して額を叩いて降參した。

●國民としては三文の價も無き印度人にも個人として哲學者發明家其他色々の技能に長じて居ることは決して歐米人に引けを取らない。特に數學にかけては印度人が第一で、ケンブリッヂやオクスホルドの數學のスコラーシップは大概印度人である。彼の無線電線や、叉眼と云ものは左右同時に見るものでないとの發見なども印度人の賜物である。ベンガル人でカルカッタ大學の教授となつて居るボースと云ふ印度人の博士は、動物と同じく植物も脉を打つものなることを發見した植物計りではない總ての鑛物にも人間と同じく脉搏のあることを實驗した。ソシテ鑛物でも強く打てば一時其脉が絶へ手で摩すれば除々回復し毒には中毒し酒には酔ふことまでも實驗し得て世界の學術界を驚嘆せしめた。世界の糟粕計り嘗めることにこれ忙かはしき日本人は、到底亡國印度人にも及ばない。

●錫蘭のシンハリース語でウエノと云へば公園と云ふ意義になる、妙な暗合ではないか。

停車場の半夜

摩天鶴

時は五月十九日午後第十時、僕は今新橋停車場樓上の食堂に在り、相對する者は米國軍艦ケンタツキー號の樂手、其の名を知らず、年配は四十前後、生國は伊太利。

彼は日本語を知らず、僕は伊太利語を解せず、互に默して語らざるもの少時、やがて彼は僕が與へたる麥酒の一盞を恭しく其の額にさゝげ「君が健康の爲に」といふが如き樣して仰きぬ。僕は打ほゝゑみつゝ輕くうなづきて、茶を啜りぬ、二人の前には乳に浸したる覆盆子の皿各一個あるのみ、夜既に更けたればにや他に一客なし、彼と僕とは相見て依然として默せり、窓外車馬の聲時々轢轆なるを聞く。

君よ、此の不思議の會飮を君は如何に解せむとする乎。

今夜米國代理公使の邸宅に夜會の催あり、僕は之に列すべき樂隊に關する一切の事件を處理すべき命令を受けたるなり、當日午後四時公使は横須賀淀泊中なるケンタツキー號艦長發の電報を示し、且別に五圓紙幣八枚を僕に與へて曰く之を以て一切を卿に委す。

僕が受けたる訓令は唯之のみ、由來米國公使館に於ける命令はすべて甚簡單なり、常に曰ふ一切を委す、一切を委すと、某々の事を處理するに當りて唯單に處理せよといふのみ、如何の方法を取るべきか、言はず幾何の資を費すべきか、言はず、何人に諮るべきか言はず、初め僕の未だ此の間の消息に通ぜざる時、屢々細目を尋ねて屢々斥けられぬ、故公使バツク大佐の如きは此の點に於いて僕に教ふる所殊に明確なりき曰く卿は無教育の人に非ず、必ずや責任の何たるを解せるなるべし、吾等が命令の常に主眼を擧げて細目に渉らざるは畢竟卿が自由活動の範圍を成るべく廣からしめて漫に無用の掣肘を加へざらんと欲するが爲のみと。

されば一通の電報と四十金とは事の處置を決するに十分なりき、電報に曰く、樂隊六人六時五分横濱を發すと。

僕は直ちに二人曳の車を命じて築地に走れり、樂手の爲に今夜の宿泊を用意せむとてなり、用意了りて直ちに新橋停車場に車を飛ばせり、電報には六時五分横濱發とあれども斯る列車は時間表中に見當らず、是れ必定横須賀發の誤なるべし、されども尙念の爲に六時

五十六分着の乘客を待ち合す、果してなし、さらばとて空しく八時二十分迄待ち合してやうやく一行六人の到着を見たり。

君よ之にてわが事の一半は了るべかりしなり然に樂手の一人誤りて東京に送るべき樂器、横濱宛にしたりといふ、此に於て次の列車にて之を取り寄すべき手筈をとゝのへざるべからず、次の列車は九時十六分横濱を發し十時六分新橋に着すべきものなり、乃ち倉皇として荷物掛に走り委細を語りて轉送を頼めば、貨物輻輳の折なれば次の列車はいかゞあらんなどいふ、更に驛長室に至りて助役某ゝに同じことを頼む、某は氣の毒なりとて特に電話もて横濱に掛け合ひ呉れたり、曰く十時十分頃には必ず着すべしと。

件の樂器といふはベス、ヴイル、乃ちベス、ヴィルの樂手を除きて他の五人を車に載せて公使館に送り屆け九時半再び停車場に來りて、右の樂手と會せり、今之と食堂に會飲せるは樂器の到着まで手を空しうして待たんよりはと思ひたればなり、斯くて五分、十分、二十分、互に相見て相笑ふのみ、彼れ言はず僕は語らず自ら私かに其の光景の餘りに小説的なるを笑ふ。

彼は窓外の街上を見やりて初めて口を開けり、Japan fine! chinu, booh! nolike! と斯く言ひて彼は眼を見はりて僕を見、其の肩をつき上るやうにゆすぶりて間時に兩手を前に開きぬ、一盞の麥酒にやゝ勇を鼓せしなるべし。

彼は次いで怪しき英語もて連りに語りぬ、其の生立より軍艦生活より樂手としての身の上に至るまで。

* * * * *

翌朝代理公使に會せし時、公使啞然として笑つて曰ふ、蚤蚊の如き小さき物か失はれたりと聞かんこそふさはしかるべけれ、ベス、ヴイルの如きが見失はれたりとは前代未聞の珍事也、と。

げにもベス、ヴイルは長さ一間半に餘れる巨大なる樂器なりしなり。

福翁遺韵

城南浪客

故福澤翁は一生漢學を擊破し新智識を日本に注入したりし急先鋒たり漢詩の如きは唾棄して顧みざるべしと想はるれども實際は然らず花鳥風月の催す處時々韻を拈して推敲に從はれしが往々にして誦すべきものあり今友人某氏に聽得たるものを抄録して翁が胸中の閑日

月を紹介すべし。

題品海孤舟圖

品海水清夜四更。孤舟欲睡睡難成。子規一蹶掠波去。御殿山頭月有聲。

函根湖上

箱根山上忽逢海。不二峯前不見峯。萬頃汪々緑波面。一輪寫出玉芙蓉。

子規

不如歸復不如歸。杜宇聲中日色微。二十餘年關左客。如今與汝尙依依。

秋夜

秋夜天如水。秋江水似天。飄々舟一葦。碎月入無邊。

宛然詩人的の詩。

嘆老

白髮三千丈似霜。風光剱又斷人腸。秋江水落秋山乾。獨倚欄干看夕陽。

是れ翁にしては餘程の厭世觀なり、

除夜

今是昨非嗟已遲。春風秋月等閑移。頭顱四十六齡叟。老却一年無一詩。

是も不平の年越しに就りたるものなるべし

庚辰元旦

屠蘇傳飲氣醉々。七子團欒伴雙親。二十餘年如一日。無災無害又逢春。

是れ翁が家庭の本色、天下の見て羨望し、又敬服し措かざる處

民情一新成

四海昇平歌舞天。先生辛苦有誰憐。三旬餘日幽窓下。讒記民情論一篇。

世人皆醉我獨醒たるの氣象あり。

答求書人

被激漢流三十年、文園門外苦辛身。莫將蛇蚓惱衰朽。讀字人非書字人。

餘り妙ならざる書を强られての口實なりしならん

但し晩年に至りては中々上手となられたり

買觀音木像

休道佛恩能濟人。人間濟佛亦前因。光明赫奕金剛德。贖得觀音墮落身。

翁得意の嘲罵的文字、人をして抱腹せしむ。

教訓

積財如上山。散則如下山。熱界人多少。誰能上下山。

黑雲吐明月。霖雨報晴天。天變與人事。由來不偶然。

三

所思不可言。所言不可爲。人間安心法。唯在無所思。

好個處世の良箴となすべし

題福翁百話首

一面眞相一面空。人間萬事遂無窮。多言話去君休笑。
亦是先生百戯中。

百話は翁が大乘的説話にして、翁が人間観を露出したるもの也本詩の如きも多少哲學者メキたり。

散　歩

一點寒鐘聲遠傳。半輪殘月影尙鮮。草鞋竹策侵秋曉。
歩自三光渡古川。

是れ翁が發病一年前後の作にして毎朝増上寺の鐘を合圖に朝七八名の塾生を伴て草鞋を穿ち竹杖を携へ元氣よく白金附近を散歩されたる實况なり古川邊には翁が狸蕎麥の別莊あり時々そこに立寄り茶を喫して歸られたりと。

紅塵累埃

ドクトル、キルトハル

▲東京の貧窟民たる四谷の鮫ヶ橋、下谷の萬年町、淺草の松葉町、芝の新網、本所の緑町、牛込の長延寺谷等の貧民窟に就て鵜澤幸三郎氏が「平民之友」誌上に述べたる彼等の生計に就ての一項は左の通りである。

東京貧民窟の生計

△收入の多少は職業、年齢、勤惰等によりて一樣でない。人力車夫（此社會の車夫は辻車又は挽子なり）一日一圓以上の收入あることとあるも一定せぬ。先づヤヽ一定の收入あるものは紙屑拾である。成年なれは一日三十錢より四十錢、一ヶ月平均八九圓で、兒童は一日六七錢より十四五錢に及ぶそうだ。又家内の内職で一ヶ月二三圓を得るものもある。

△支出は食料、薪炭等諸雜費、家賃、被服料、娯樂料等である。これ等消費の割合は區々別々にして太だ據り難い。今便宜の爲め家族五人の一家を標準として擧げると

（イ）食費　一日南京米一升五合、又は兵營殘飯十二三錢、一ヶ月平均四圓、副食物其他一圓三十錢、計五圓三十錢。

（ロ）家賃　一ヶ月三十錢より八十錢平均。

（ハ）被服費　蒲團又は蚊帳等の損料借賃三十錢、其他の被服履物料八十錢。
（ニ）薪炭等雜費　七十錢。
（ホ）交際費　仲間、隣家、族戚等に對して三十錢。
（ヘ）娯樂費　此種の重もなるものは、菓子、酒、果物、肴類等の間食、寄席、芝居見料、其他の遊樂費をも含むものだが、是等の額は甚しく差あり、到底一樣にいふことは出來ぬ。兎に角收入多き丈け、悉く之れを投じ盡し、貯蓄の如きは更に顧みる遑がない。

要するに極々の貧困者にあらざるよりは、一般の貧民は一日平均三十錢の收入なくば、五人の一家族を養ふを得ぬのである。之れを田舍貧民に比すれば、贅澤な生計の樣に見えるが、都會の地は物價高きと、凡て金を要するのだから、田舍に居て此半額で生活するよりも遙に困難である。と。

▲又貧民街の小學校則ち特殊小學校の一たる下谷區萬年町の萬年小學校に於て生徒男女二百零七人に就て思想試驗の一部を施行したる結果「敎育時論」に左の如く出て居る。

▲嬉しき事
家族と同居　二人（百五十二人の生徒中）
適意の遊戲　四十七人（同上）
花見其他の見物　二人（同上）
金錢を貰ふ事　十人（同上但し八歲以下の生徒のみ）
物品を貰ふ事　四人（同上、同上）
食物を貰ふ事　六人（同上、同上）
美衣を纏ふ事　十五人（同上但八歲以下の女子八人八歲以上の女子四人男子三人）
敎育を受くる事　二十七人（同上）
親に褒めらるゝ事　六人（同上）
敎師に褒めらるゝ事　二人（同上）

▲悲しき事、苦しき事、恐しき事
犬馬等の動物（恐）十人（百二十四人の生徒中但八歲以下のみ）
病氣（悲、苦）十七人（百二十四人の生徒中）
盜賊（恐）一人（同上但し八歲の女子）
火事（悲、恐）四人（同上）
地震（恐）二人（同上但し十歲以下の女子）
妖怪（恐）二十四人（同上但し十歲以下のみ）

親に叱らる（恐、苦）二十二人（同上八歳以下十八人）

監禁或は打擲（苦）二十二人（同上）監禁は戸棚或は俵に入れ打擲は棒又は薪にて打つもの

家より放逐さる（恐、苦）四人（同上但し八歳以下のみ）

家計の補助（苦）十三人（同上

奉公に出さるゝ事（苦）四人（同上）

以上の如く、彼等の多くは身躰を放縦にせんことを希望し、兩親若くは他の尊長者に責せらるゝこと等は度外に置き、盗賊は毫も恐るべきものと感ぜず（實際或程度迄は彼等も盗心あり）妖怪を信じ、苛酷なる躰罰を恐るゝ等、之を普通兒童に比較して甚だしき懸隔ありと。

▲東京市の人口は三十四年末現在で百六十三萬零八百九十四人、戸數は三十八萬一千三百三十六であるが、「六合雜誌」に山縣東根氏が東京府廳の調査書報告書に依りて調べて以上の人口以外三十四年末に一時在留の人口は左の通りとして載せてある。

東京市内一時在留人口

類別		男	女	計
止宿人	旅人宿	一、九九九	五二六	二、五二五
	下宿	一四、四一五	六三〇	一五、〇四五
	木賃宿	三、三一六	一、〇五三	四、三六九
	其他の家	二、八三七	一、五八四	四、四二一
	計	二二、五六七	三、七九三	二六、三六〇
在營兵員		一六、九三九	……	一六、九三九
在寄宿舍生徒		七、五二〇	二、五三七	一〇、〇五七
在寄宿舍職工		五、二五五	七、〇六四	一二、三一九
在養育院		五〇七	二八四	七九一
在福田會育兒院		四五	四五	九〇
在病院患者		一、二一四	一、〇三四	二、二四八
在感化院		四一	―	四一
在監人		四、二〇九	二〇九	四、四一八
總計		五八、二九七	一四、九六六	七三、二六三

之は市郡總計であるが此七萬三千餘人の内、五萬一千餘人は東京市内に在るので八分以上は市内と見てよいのである。

又市内に外國人は千百五十二人あつて、清國の二百八十七人、北米の二百五十人、英國の二百三十六人、韓國の百九十九人（三十四年）は最多の方で他は獨逸の六十八人、佛國の六十四人て、外は十人以下位である。



讀者之文壇

短文　我國の繪畫に就て

▲東京美術學校教授從七位とか正七位とかの肩書を無上に難有く思ひ、丁度野狐が寶珠の玉でも拾つたやうに嬉しがる畫工先生が幅を利かして居るうちは我國の繪畫の將來も知れたものである。藝術の價値は人爵の有無に由て高下のある譯ではない、一管の彩筆よく鬼神を叱咤する底の氣概がなくつてはならぬ、僕は此に於て彼の甘我蕪白が御門跡の御使を怒鳴りつけた勇氣に轉々感心せざるを得ないのである。（本鄉　晉佛）

▲藝術に對する自家の名譽を阿賭物の多少に由つて二三にする畫工先生が傲然大家の名稱を占有する今日我國の繪畫界は實に心細いものである。賞願とか富豪とかの依賴となれば經營慘憺たゞ其鑑心を失なはざらんことを努め、通り一遍の依賴とか餘り潤筆料の取れさうもないのだと思へば手腕も經驗もあやしい門人に代筆をさせ、麗々しく自分の冠置や落款を押捺して一時を糊塗する名家否迷家があると云ふに至つては實に沙汰の限りである、後世若し其繪を以て品評を下する者があつたら何とするか、まさかに其繪に之は報酬が少いから、弟子に描かせたものだとの斷りもなからうから、矢張り夫も明治の大家川端石章とか橋本恩邦とかの畫て候と云はれるのであらう、王侯貴人の前にも容易に屈すべからざる藝術家が金錢の爲に大切な名譽を滅茶々々にして省ないとは實に呆然たらざるを得ない、ところが今日はこんな先生が中々多いさうである、僕は此に於て彼の素封家の高慢の鼻を畫筆で叩き折つた文晁の膽玉に感服せざるを得ないのである。（本鄉　晉佛）

▲千篇一律徒に樣に據て胡蘆を描く底の先生や、モデルに雇た醜業婦の曲線美に垂涎三尺畫韻を漏す底の先生が跳梁跋扈して居る今日我國の繪畫界は決して多望なものではない。併し僕は默悟、外面、芋村、不折、爲山の諸先生は其手腕に其趣味に其人物に推服して居る者であり。在來の和製品―即ち雅邦玉章一派の粗製品―は大嫌だ（仝上）

▲我邦には未だ眞の繪畫無し、人を樂ませる快畫も無ければ、社會を訓へる誨畫も無し、現今只有るは

塊畫なり　つくれ芋を集めて積んだる如き山や人物を書く

繪畫なり　百事古人の意匠を盗んで樣に依て胡蘆を描くズルキ方法のみを案ず

晦畫なり　實物を知らず學術を知らず理論にも晦く實際にも晦らし

廻畫なり　只神事行燈廻はり燈籠にのみ適すこれ丈けは油畫より水彩より日本流が最も適當なるを覺ゆ

怪畫なり

壞畫なり

歐風を學んで成らずさりとて古流の日本畫にも遠かりたり歐三和七の妖怪躰日本畫を打壞はし西洋畫を打壞はし到頭自家の立脚地をも打ち壞はし何物をも成功せず

（波嶺）

▲僕はドウしても日本畫には感心出來んれ、何たつて自然から五百里も千里も遠つてゐるんだもの、見給へ「水平でない海」や「傾いた家」や「正方形でない碁盤」や「おた福極まる所謂美人」や「小人島見た樣な人物」や「眉毛の馬鹿長い眼の三角な老人」や「猫の樣な虎」や「口伸してる虎」やア、猫の樣な虎はまだしもの事僕が一昨年あたり上野の展覽會で見た「眞向の虎」と云ふのは何う見ても達磨が虎の皮をかぶつたとよりは見立てられなかつた「虎を描いて達磨に似る」とは驚いたれ、いつの展覽會を見ても畫題の千變一律なのには閉口するよ　先づ日本畫で見らるゝのは花鳥計りだれ、歴史畫にも極々稀には見るべきのがあるが……山水畫などに到つてはゼロだ先づ「長芋の逆立見た樣な山」「白酒の樣なドロ〜した水」「狸の金玉見た樣な岡」少しも面白くない、吾々こそこんな日本畫を始終見てゐるから、何とも思はぬが、此長芋山水を西洋人が見たら殆ど判斷に苦むだろう、我が國の繪畫を西洋人が摸樣だと云ふさうだが無理はない、やれ雅邦のやれ阿房のと騷ぎまわる奴等の氣が知れないや……れ—君

（啾々田夫）

▲我國の繪畫は當分滅茶苦茶だ、一躰畫人は理想が高くないから駄目だ、其のくせ理想畫などは畫き得なひのみならず、奇麗に畫き上ける繪に精神こめてやるなど云ふとは皆無らしく思はるゝ、だから大阪の博覽會などを見ると誠に恥かしくなつてくる、橋本の瀟湘八景など見れたものでない、故に僕等現今生きてる畫家は皆んな現今に於ける中等以下の畫家として憚からぬのだ、宜しく今日大家であると云はれる生きて居ない人々の繪畫を見たまへ、必ず高尙な精神のこもつてゐる所が何所かに現れて居る、けれども僕は現今の繪畫界は退歩しつゝあるとは思はぬ、隨分進歩的傾向を以て行きつゝあると考へる、されども好繪畫題あるにも係らず、之をとりえないのを遺に思ふのだ、皇后陛下大阪博覽會行啓中に好畫題が一つあつたと思ふが、今日迄誰一人として其の好畫題をとつて筆を揮つたとは聞かぬ、兎に角繪畫界は人間の精神を高尙にして、資料を東西洋にとらせ、熱心に改良させたいものと希望するのである。

（京都老泉洞生）

▲前月の「社會主義」に片山潜氏の大阪博覽會を見た紀行中日本畫に關する通信が出て居つた、日本畫には日本畫の長所有り、氏の如き日本畫の分らぬ門外漢には批評の資格無けれど、又捨て難き點有り、左に抜き書きして貴紙の短文欄に投ず

（ち、か）

其日本畫に至りては、余は評するの能力を有せず。余通觀して、如何に不自然極まる畫なるかと感じたり。而して千變一律、畫題と云ひ趣向と云ひ、先づ野蠻的と云はざるべからず。吾人の見たるをなき山水あり、生存すべからざる人物あり、チークヮードの花鳥あり、若し寫生畫とせば其巧みなるを勞とすべし。若し自ら畫けるものとせば實に愚なり滑稽なりと云はざるべからず。偶々眞を畫ける子守りの畫あれば、其赤子は小犬的なるを如何せん。余は餘りに日本畫が仙人的にして、人情と遠きに驚けり。日本畫家は一の別社會を爲せり。故に國民的畫を與ふる能はず。蓋し彼等は能力なきなり。余は日本畫家中にも、一バービゾンスクールの起らんとを欲するなり。佛教以外に高尙なる道德宗教あるを知らんことを望む者なり。

▲エマルソン甞て云へることあり、汝が只今よしと信じたることは直ちに語れ、然らずんば明日吾と同じき事を他の人に依て學ばざるべからず

ろの愚を見んと、我國の繪畫界實にかくの如し、徒らに歐風にのみ心醉せんか、新しき他の善なるものは遂に學びえずして、古き我が長を人に依て知るの愚を演ずるに終らんのみ。

（牛門の一生）

▲我國の畫家に眞面目で滑稽諷刺の畫を研究するものゝないのは眞に怨みてある、歐米の雜誌を見る度に、一片のポンチに天下の偉人豪傑を罵倒し盡くすのを見ていつも此感にうたれないことはない

（四インチカラー）

▲何の展覽會、かの共進會、日本畫と云はず西洋畫と云はず、少しおつだと思つて居ると、ちやんと何處かに粉本が御ざる、それでも日本の繪かきで候とはよくも云へたものだよ、ヘンチヤンチヤラ可笑しくツて臍の横丁の癪物（オデキ）のあとが茶を沸かすじやねーか馬鹿〳〵しい。

（高輪逸人）

▲此頃の若手連の畫いた繪で人を畫けば若い女、若い女を畫けば海老茶式部、青年畫家――海老茶式部、ハヘアーなーる程、天外の寬風戀風もこゝらあたりから生れたのではあるまいか。

（初野の男友達）

▲今の雜誌の挿繪は大方西洋雜誌から其儘持つて來たもので成興とかいふ青年畫家の筆は特にそれが多い。

（内幕生）

▲美術學校の生徒に黑田さんの繪はどこがいゝのかと問たら兎に角に僕等が眞似の出來ない所があるからいゝのだといつた。

（非洋獅子）

▲美術院派は最早研究的の態度を失つてしまつた、無聲會の連中が怠らず研いて居るのは感心じや。

（仝）



▲雅邦畫伯は同じ繪を描かない、必ず筆を下す每に趣向を異にして居る、然るに玉章畫伯は一度面白い山水を見或は其景を描くと幾度もそれに似た繪を描くと、或人が謂ふから注意して居るが成程其言の通りである。

（O P Q）

▲日本畫は眞に其の繪の妙を解しない富豪とやらいふものゝ自慢の道具に使はれて居る。西洋もさうかしら。いやそれでも名畫は皆美術館にあるといふから、日本人は所謂寶の持腐れなんだ、

（公德生）

▲相撲に關する短文を讀む

摩天鵰

前々號に揭げたる「相撲排斥論」に對して意外にも前號の短文欄に於て愛鬼生君、磯野菩佛君、金聲子君及反動生君等の同情を得たるは僕の最も驚き且つ喜ぶ所也、有體にいへば僕も內實は相撲を好める者、唯僕が相撲排斥を極言せる所以のものは天下が之に狂奔して無益に其の財と時とを之に費すを憤りて聊かにても世人の反省を促かさんとするの微意に出てたるのみ、今や相撲熱は日本の國病たり、而して之に對する多少の苦言を呈せるは天にも地にも芳賀文學博士の「角力論」と僕の「相撲排斥論」とあるのみ、心細からずといはんや、僕は社中の同人が擧げて僕の議論を僻論なりと評したるにも拘はらず、之を公開したるもの、誠に一人の同情者をだにわが讀者中に見出し得んことを欲したればなり、而してその結果は一人二人のみならずして合計四人を得たり、僕の驚き且つ喜べるもの故なきに非ざるを知るべし。

若し夫れ牛門の一生が僕の明答を求めたる諸問に至りては多くは問題の

外に馳せて僕が答ふべき限の者に非ず、(一)(二)(三)(四)(五)は論理學の所謂「無關係」なるものとして僕は明白に此に答辯を拒絕す、(六)は僕の意を甚しく誤解せる者、再考を煩はさずんばあらず、(七)に至りては是れ不完全歸納法に基づける臆斷なり、僕は先づ論者が如何にして之を證明せんとするかを質さんと欲す。

回顧すれば僕が「紙上の犯罪」の題下に堕胎藥の廣告を攻擊せるは一昨年の九月なりき、而も昨今に至りて警視廳は初めて之が取締の必要を感じたりと傳へらる、世間は存外に近眼也、相提排斥の聲が社會に多少の反響を起し來りしことは夫れ何時を待つべきか。

▲「上野美術生」氏に白す　　短文係

日本紳商に就て一大雄編を投寄せられたるを謝す。惜むらくは文長きに過ぎ所謂短文欄には掲載し能はず、折を見て他欄に掲載すべし。

課題

●紳士と貧民の家庭（六月十八日）

●我家の消夏法（七月十八日）

新刊紹介

▲法制論纂　國學院編

東京銀座一丁目　大日本圖書株式會社發行

そのむかし國學院に於てこの道の大家ども多く集ひてたびたび講演を開き給ひき。これをすりまきにせしもの號を追ひ百餘に及ぶ。今其中より制度法律に關するものを一括して法制論纂といふ。上古より今時代にうつり、貞永式目時代より徳川時代に到る迄、歴史的の順序に配列したるはまことによし。由來此種の書は故中村博士の陽春廬雜考と官職制度沿革史あるのみ。本書はそれよりも其人多きだけ所謂所論廣く亘れり。故飯田武郷氏を初めとして小中村博士、栗田博士、黒川博士、三上博士、萩野博士、松本博士其他井上頼圀氏内藤耻叟氏等造詣深き人々のみ、歴史國語法律の學に志すものは、こよなき參考書たるべし、されど惜むらくはかゝる大冊子にして索引なき事を、國學院嘗其人なしといふに非るべきを、なほおひおひに國史論纂、國文論纂も世に出づるとかや、索引こそあらまほしけれ。（定價貳圓參拾錢）

▲寫生文　寒川鼠骨氏著

東京神田南甲賀町八　内外出版協會發行

子規子一派の創めたる寫生文といふものが此頃流行するやうになつた。所謂其本家本元の品はこれだといつて世に示したものである。なるほど多少の主張もあり研究を經たものらしい、寫生文の意義と作法と種類と文例とがある。

▲芭蕉俳句全集　大塚甲山子編

仝上　内外出版協會發行

「精確なるものと、やゝ信憑するに足るものとを集めて一千三百二十七句を類題といたし本書を得申候、句數はこれでも一葉集などより大凡二百五十句も多かるべく候」　小形本（定價二拾五錢）

▲名著文庫

東京神田裏神保町　富山房發行

カッセルのライブラリーに倣ふといふのだが釘裝はたしかに彼よりもよいけれども内容はどうだか、然し元來日本のは種がわるいのだから仕方

がない。純文學は勿論の事ながら哲學的のものも入れてもらいたい。

第一編　芭蕉翁繪詞傳、　幸田露伴氏校訂

蝶夢の小傳と翁の句集を前後に添えたり。翁の正傳は先づ此書を數ふべし文致亦翁を傳するに適し、眞情紙端に溢る。

第二編　近松淨瑠璃三種　饗庭篁村氏校訂

鑓の權三と天の網島と夕ギリと所謂世話物の上乘なるものを收む。其由來と詞の解を前後に添えたり。

第三編　雨月物語　芳賀矢一氏校訂

上田秋成作、今まで活字本を多く見なかつたものなり、卷頭の白峯は露伴氏が二日物語が先をなせるものといつては惡いかしらん。校訂者は吉備津の釜、磯良の窮鬼は圓朝の牡丹燈籠の本になつたといつて居る。

（定價各冊上製廿八錢）

▲社會主義活辨　高橋五郎氏著

東京銀座一丁目　大日本圖書株式會社發行

第一編に社會主義の變遷を敍し二編に『新社會』を評し三編に社會主義と社會學とを論ず近來俄かに勃興し來りし社會主義者の熱したる頭腦を冷すべく恰好の著述なり。矢野氏の新社會に對して調和的解釋を試みたるが如し、

（定價二拾五錢）

▲イリアッド物語　正宗白鳥氏編

神田裏神保町　富山房發行

通俗世界文學の第三編にて原作の面影を傳ふることに於て殆と遺憾なし。文も亦古雅に失せず雜俗に陷らず、早稻田一派の稍よき折衷體なるこそめてたけれ、情育的讀本として其目的に適へるものか。（定價二十錢）

▲植物之感覺　三好學氏著

同上　富山房發行

吾人は博物學に於て多少の趣味を持て居るけれども專門に研究する程の勇氣はない。といふのは學名とか何とかいふ味噌臭い機械的の記臆を要するから、然し思ふに吾人の趣味は道樂趣味素人趣味で植物採集とは物見遊山に似たもの、解剖とはイタヅラのこと、纖維組織は天然の風致、花が美しい貝が珍らしいなどといつて居るのは俗人外道の術で、藝術の賊子である。然るに賊子猶教ゆべしとて堂々たる博士諸氏が吾人の道樂趣味を滿足させる爲めに博物叢書なるものを物されるのは大に感謝する所である。第一編は植物の感覺といふ。植物が外界の刺擊を感受するといふ實例を集めたもので、蠅地獄（草名）ねむのきの事は申すに及ばず、蒲公英の花が明所で開き暗所で閉ぢる、白木蓮の花が必ず北を向く。其他物理的化學的の刺擊に感ずること殆ど生類を宿すが如く草木國土悉皆成佛の意を化學的に考へたくなつた。因に記す向日葵の花の廻轉はどうだろう、餘り知れ切つたことだから書いてないのか、それとも或は嘘なのかしら。

K・H・生　（定價參拾五錢）

▲夢の女　永井荷風氏作

東京神田錦町二丁目　新聲社發行

敢えて長々しく筋書など列べずとも、又喋々しく時代の反影とか傾向とか主張とか呶々せずとも、一言して明治一代女といへばそれで大方知れるだらう。下女奉公。妾。娼妓。待合の女將と夢路をたどつて遂に得る所は家庭の和樂にあらずして、痴漢の縊死と妹の墮落ちと、老耄した父の負傷と死とを見たばかりて。終るといふ一篇の悲史である。北星君の濱子に對する澄子よりも荷風子の地獄の花に對する此篇の方が稍々見

ろべきであらうと思ふ。如何にも世間に在りさうな筋の物語であるけれども、作者の同情が足りないから何となく他人の身の上話の様に聞こえるのは惜しいものだ。（定價參拾五錢）

▲新小説　第十八年第五號

東京日本橋區通四丁目　春陽堂發行

例によりて例の如く、風葉のへそ日記、氷光關月のおかめ銀杏、霹山の苦衷、（以上小説）世は青葉の眺めなり。評叢にはモデルの談、川岸景紀、社會は大阪種、時文欄の箇外が郷里の友に答ふる書はよけれども毎度ながら自分勝手な書籍の廣告には恐れ入るなり。（定價廿五錢）

▲婿選び　山縣五十雄氏譯註

東京神田南甲賀町八　内外出版協會
仝　本郷彌生町三　言文社　發行

英文學研究第五册、ヂッケンスの短篇にして彼が他の大作を研究せんとする者の爲めに、わざと此文備ある少壯時代の作を選ばれしなりと、譯の忠實なる事は世既に世評あり、常盤木の緑四時變らざる如く一時流行せし此種のものゝ凋謝せしにも係らず依然として斯學研究者を稗益しつゝあるは吾人の僅かに認むる所、作者の小傳と註解と譯文と然も其人物を日本流の名に改めたるなど皆よし。（定價貳拾錢）

▲該撒（シーザー）殺害　同氏譯註

同　上　内外出版協會
言　文　社發行

同上第六册、マークトウエーンの文、附錄として抱一庵氏と𩿙湖氏とのトウエーンに就きての論爭文あり。紙數半以上に亘れり。これ讀まざるべからざるものなり。世人は初めて抱一庵氏の譯錄の全く信賴すべからざるを知るべし。（定價貳拾錢）

▲基督傳之轉機　柏井園氏著

東京京橋區銀座四丁目　教文館發行

基督教祖の小照『轉機とは基督の一生に現はれたる回轉の時機にして英語にて所謂「ターニング、ポイント」の意なり。基督の生涯に斯の如き區劃回轉あることは福音書の中に其跡を尋ね得べし』といへり、洗禮より復活まで六章に別つ、偉人傳中の轉機は其人自ら感悟するに非ずんば捉へ難きものなり。（定價拾五錢）

▲恩惠錄　原忠美氏著

東京京橋尾張町二　警醒社書店發行

著者が基督教より得たる信仰の表白なり「吾人の最大の目的は神を樂みつゝ神に順ひ、神に靠ひつゝ神を愛するにあり。吾人の急務は人となるにあり」とあり、願くは濁世を救ふ福音となりて衆庶の耳朶に觸れん事を。（定價貳拾五錢）

▲佛教の信仰　浩々洞編著

東京本郷四丁目七　文明堂發行

信仰ある胸に映りし佛經の意義にして、字句の註解といふよりも、其理義を實踐的に説くものなり、今の佛教界に於て教ゆる所あるものは唯精神界一派のみ、詩歌的讃美的基督教的にして、哲學的研究的實務的に非ずといへども、佛教の信仰を得んと欲するものは此一派に據るも亦可なり

我等いかでか如來を離れ光明に遠かるを得む。野にゆかば野に御佛あ

り山に登らば山に光明あり……

（定價參拾錢）

▲英雄僧日蓮　池元呦鹿庵氏著

東京神田錦町二丁目　新聲社發行

英雄僧日蓮と詩人親鸞とは共に近來異様に聞ゆる稱呼の一對なり。僧の一字を加へたるだけは稍可なり。筆致日蓮の剛邁を叙するに適せり。氏は嗚呼古英雄の著者なり。

（定價貳拾五錢）

▲明治畸人傳　坂井久良岐氏

東京神田南甲賀町八　內外出版協會發行

伴蒿蹊の近世畸人傳に倣ひしもの、畸人の意義も亦全く之れによれり。著者既に畸人なり、傳聞のいかさま者を誤信するの過ちあらん事を恐れ、悉皆之れが著者の交友及び面識の人士中に求むといへり。飄輕なる逸話のみに非ず多く其道の秀話を揭ぐるはよし、褒めざるべからず。

（定價貳拾五錢）

▲讀書の栞　二六新報社編

東京京橋區尾張町　新橋堂發行

長井金風氏の編なり、讀書者に便利なる書なり。各科共に必讀の者を舉げたり大方誤らず。索引あり。ハイカラ形

（定價貳拾五錢）

▲强肺術　文明堂編輯局譯述

東京本郷四丁目五　文明堂發行

サンドーの鐵啞鈴躰操は目下大流行であるけれども、虛弱なものは甚しく腦を害する、此法は危險がない。棒一本の外器械がいらないそして東洋在來の法を生理的の根據から完全にしたやうなものだから、結果を信じて試みることが出來ると思ふ。譯文流石に隔靴の惑がない。

（定價參拾錢）

▲獨弦哀唱　蒲原有明氏著

神田佐久間町　白鳩社發行

新躰詩人蒲原有明氏の作を集めたるもの、山下幽香氏の繪畫を挿めり。

（定價金貳拾錢）

▲澄子　草村北星氏著

京橋區銀座三丁目　知新館發行

澄子は浪子の妹でない。作品としての價値は妹の位置にある、劣るとも優るまじきやうに思はるゝ。まだ初々しい所はあるけれども同情のある筆致だから讀むに足る事は申すまでもない。末段の活劇はいかにも芝居めいて居る。澄子の末路があはれてある

（定價貳拾錢）

彙報

●世界人口の宗教別　獨逸傳道會長ツエルレルの調査したる所に據れば、現今世界の人口は十五億四千四百五十一万人にして、其內五億三千四百十四万人は基督教徒、千〇八十六万人は猶太教徒、一億七千五百二十九万人は回々教徒、八億二千三百四十二万人は佛教と其他の諸教徒及び無宗教徒なり、而して最も著しき割合に於て增加しつゝあるは基督教徒なりと云ふ。

●警視總監の訓示　前月警視廳に於て東京府下各警察署長を集め左記事項に對し一層取締を嚴にし假借なく相當處分を加ふべき旨訓示したり

（一）不良の青年（二）各戸に就き種々の名目を以て金錢を強請し民に迷惑を被らす者（追々祭禮の季節に向ひ此種の弊増加すべき時特に注意すべき事）（三）淫賣婦（四）不良の牛乳を販賣する者（五）清凉飲料水の製造にテール色素及びサッカリンを使用する者（六）抽籤の方法を以て公衆の射倖心を誘はんとする銀行又は銀行類似の所業を爲す者（七）「番」又は「常連」と稱へて一部の車夫が一般車夫の停車に供せる停車場を占領する者（八）許可を得ず恣に製造工場等を建築又は増築し甚しきは直に之れを使用する者あり右は場主に於て處罰を免れざるは勿論其構造の不適當なる爲め反て補修、改造に多額の費用を損ずるに至るを以て斯る不都合なき様注意を加ふ事（九）湯屋の出入口を開放せしめざるは勿論戸外より内部を見透さゞる様設備せしむる事等

●〇〇〇〇〇〇〇牛馬虐待と警視廳

去る四月中東京府下各警察署管内に於て牛馬使役方取締に關して或は説諭を加へ或は告發し或は積荷又は乘客を減ぜしめられたるものは左表の如し動物虐待防止のために近來警視廳がかく注意を加へらるゝに至りたるは人道の爲め誠に慶すべきことゝ云ふべし

荷馬車	説諭	二千百七十一件
	告發	六十件
	積荷減量	五百五十四件
荷牛車	説諭	百五十件
	告發	五件
	積荷減量	二十一件
乘合馬車	説諭	六百四十件
	告發	二十一件
	乘客減員	四十九件

●〇〇〇〇〇〇〇日本銀行の物價表

明治三十三年十月の相場を一〇〇として算出したる三都の物價は左の如しと

	四月總平均	三月總平均	二月總平均
東京	一〇二、四八	一〇二、五九	一〇一、二〇
大坂	一〇三、八三	一〇五、〇〇	一〇四、二〇
京都	一〇五、八六	一〇六、一四	一〇五、八八

●〇〇〇〇〇〇〇銀行會社の抽籤禁止

近來銀行又は銀行類似の所業を爲す諸會社にて一定の貯金或ひは積立金を爲したる者に其貯金積立額の數十倍を抽籤に依り貸付を爲すもの大に増加の模樣あり今回警視廳に於て從來此の方法を用ひつゝありし左記の銀行會社等に對して斷然是等の方法を用ふることを差止められたりと

不動貯金銀行（芝櫻田本鄉町）晩成銀行（淺草）菱屋銀行（日本橋）國民貯蓄銀行（京橋區南傳馬町）日本殖産銀行（神田）明治勸業銀行（神田）興業奬勵會社（神田錦町）愛國共濟會社（深川）帝國産業會社（淺草）商工金融株式會社（京橋）相互福德貯金會社（神田）

●〇〇〇〇〇〇〇全國圖書館の現在

文部省最近の調査に依れば全國に於る圖書館は總數五十あり、内官立一即ち帝國圖書は藏書總計四十一萬八千五百九十二册、其内衆庶の閲覽に供するもの和漢十七萬千八十四册洋書四萬五百七十八册計廿一萬一千六百六十二册なり、最近一ヶ年の閲覽人員は十三萬三千八百三人一日平均四百人强に當れり同館は新築未だ落成を告げざるに、閲覽人は日に月に增加するを以て滿員の爲め入場を謝絶するもの日毎に多きを加ふと云ふ、次に公立に係るものは宮城、秋田、

德島の三縣に各二館、京都、千葉、兵庫、奈良、愛知、廣島、山口、熊本の一府七縣は各一館にして私立に係るものは新潟縣に五館、千葉、兵庫島根の三縣に各三館、群馬、福島、宮崎の三縣に各二館、北海道及東京、大阪二府并に茨城、山梨、長野、宮城、青森、奈良、三重、滋賀、廣島高知、福岡、鹿兒島の十二縣に各一館にして計三十五館なり、此等の公私圖書館に於て閲覽に供する圖書數は和漢書三十九萬一千七十七冊、洋書一萬六千四百九十三冊、計四十萬七千五百七十冊、一ヶ年の閲覽人員十萬七千七百八十人にして一館一日平均閲覽人は僅かに十人に當れり是等公私圖書館中設備やゝ整頓せるものは二三館に止まり其他は概ね規模狹小にして藏書に乏しく閲覽者に滿足を與ふ能はざるの現況なりと。

●露國の宗敎統計　最近の統計に依れば露國には希臘加特力敎徒九千五百八十万人、羅馬加特力敎徒一千二百十五万人、新敎徒六百七十五万人、猶太敎徒四百五万人、アーメニア敎徒百三十五万人、其他の敎徒二百七十万人ありと云ふ、露帝は希臘加特力敎の首長にして同敎寺院の僧職は總て皇帝に依り任免せらるゝなり、然れども其實權は目下敎務省の掌握する所となり居れり、又同國にて目下五人の首僧正、十四人の大僧正、四十八人の僧正ありて、希臘加特力敎徒を支配し、六万五千七百二十一個の寺院、四百九十七個の僧院、二百六十八個の尼寺と、五万八千百二人の僧侶、八千〇七十二人の番僧、八千九百四十二人の尼とを有し、千九百年度に於ける寺院費は二千三百五十五万八千六百八十留なりしと。

●暹羅留學生の來朝　暹羅國政府の法律顧問法學博士政尾藤吉氏夫妻が同國皇后陛下の命を奉じて伴ひ來れる留學生八名は去月來朝、麻布霞町なる同國公使館に入れり內男子四名は十五より十九まで女生四名は十三より十六までの齡にして、共に本邦の公卿華族ともいふべき名門の子女なり、男生の方は今日まで同國の學習院にて敎育を受け、多少英語の素養あり女生の方は盡く宮中に生立ち曾て外出したることだになしといへり、右の學生は本號海外欄に掲げある同國皇后陛下の思召にて來朝し美術工藝の傳習を受くと云ふ、其の監督敎育は女生は高嶺女子高等師範學校長に男生は高楠外國語學校長に一任せり。

●香港の外人の數　昨年の六月三十日に於ける香港の人口は英人及び其他の外人一万八千五百二十四人、淸國人二十九万三千三百人、合せて三十一万一千八百二十四人なり、即ち十八個月間に殆んど二万人の增加なり、而して同地に於ける歐米人の數は日本全國に於ける歐米人の數よりも遙に多しと。

●基督敎青年會　米國に於てのみならず實に世界に於て目下最も有力なる、基督敎の團體は同國の基督敎青年會なる由にて其會員の數は三十万人其資産は六千万圓を有すと云ふ。

●ダルニー在留の日本人　最近の調査に依ればダルニーに在留する日本人の數六百七十八人にして其中六十七人は商人二人は石工三十人は大工一人は靴製造人三人は鍛工二人は器械製造者四人はペンキ屋其の雜業を營むものは四十六人ありと。

明治三拾六年

公論日誌

其六

公論日誌

公論日誌

自四月廿一日
至五月十五日

四月廿一日　●東京化學會常會后六時帝國大學内にて　●好話會后六時より常盤木倶樂部にて
●醫學專門學校長會議昨日に引續き開會
▲本日の倫電は歐洲大陸は一帶に餘寒嚴しく果實樹園等被害少からず、殊に白耳義の如き十二時間連續の降雪あり滊車の交通をも絶ちたりとの事を傳へ候、▲東京市選出代議士岩谷松平選擧法違犯の爲め關係者拘引致され候

松平の鼻もパインと折れにけり、（パインとは近頃松平の賣出たる煙草に候）

廿二日　▲今日東京地方裁判所にて例の祈禱坊主濱口熊嶽の公判有之候
○早稻田大學講話會大坂中の島公會堂にて開かれ、大隈、鳩山、高田、有賀、岡田、和田垣、浮田等の諸氏出席聽衆三千頗る盛會なりし由に候、▲本日上野停車場にて前に初めて上京せし際引ッかけられし憎さにわざ〳〵出かけてポン引の車夫釣り出し下谷署に訴へ出てし小僧有之候、だます〳〵と思つてついだまさるゝとは此事にてや候はん

ポン引をポンと引き出す小僧哉

廿三日　▲本日前十時より滿洲問題に關し閣議有之候滿洲撤兵問題に關し露國より或る提案を我に示したる爲なるべしと傳へ候、▲今日岩谷松平氏拘引致され候、▲尙ほ元陸軍被服廠長熊田正路陸商務省收賄事件に關し、書肆八尾新助は詐僞取財の嫌疑にて何れも拘引と相成り候、▲本日千住と新宿と何れも妓樓にて自殺したる者と娼妓を殺さんとしたる二組の痴漢有之候　▲尙深川にて空俵商中村某は不良の女房に置捨てにせられ小供かゝへて僂麻質斯に惱みしが世をはかなみて縊死を遂げ候死せる懷ろに子供の養育を頼むことゝ要の姦通告訴狀と有りし由哀れの男に候

噫無情四十四年の夢いかに

廿四日　▲本日大坂の實業家磯野小右衞門、松本重太郎、田中市兵衞の三氏は勳五等に敍せられ瑞寶章を授けられ候、▲ルートル電報は北方亞非利加より西班牙國首府に達したる報道はサハラ砂漠の土民が宗教上の戰爭を始めたる由傳へ候　▲本日皇后陛下には大坂博覽會行幸の爲め御出發有之候、▲又本邦御遊覽の爲め御來遊の獨逸聯邦王族リウプンヒト親王同妃殿下本日横濱へ御着滊車時十一分新橋着御微行にて同國公使館へ御入御相成候

廿五日　○東京外國語學校講演會后五時半より高等商業學校講堂にて
▲本日より岐阜、津、一宮、龜崎、半田、小田原、國府津、熱海、大牟田、和歌山の十ヶ所に電話所開設致され候、
△政友會在京總務委員は總務委員會終へて後打揃ふて伊藤侯を帝國ホテルに訪問致し候、尙革新派の人も午後事務所に集會致し候、又同政友會茶話會午後一時より開かれ候、○先頃解約されて歸國せし帝國大學教授獨逸人ヤンソン氏は大學創立以來廿餘年間教授として勤勉されし紀念にとて薫陶を受けし學士博士連の發起にて製造せし半身銅像本日除幕式執行され候、○本日より司法省にて日々通勤の給仕二十三名の爲め給仕學校新設實行致され候、△本日倫電に曰はく露國は滿州の兵を撤せずして翻譲の要求を慶親王に提出せりと又此れに對して獨逸は冷然と搆へ、日英米は淸國に對して要求を拒絶せしむべしと、

春くれて何の花見ぞ道化面

▲今明兩日水交社にて下田歌子女史の爲めに開きし癸卯閣遊會有之候、

廿六日 ▲本日義手義足の製造に多年苦心したる京都の小柳六之助氏は普く義足の効用を知らしめん爲め、結核症にて七年間惱めるを近日に至り義足者の富士登山のことなど聞き斷然決心して切斷の治療を受けて僅かに十五日なる滋賀縣の荒田九平氏に、自分の製造の義足を着用せしめて比叡登山を試み、坂本尾崎を經て途中一回休息せしのみにて無事歸京するの好成績を得たる由に候、▲本日秋田縣横手町に大火有之候戸數千二百燒失致し候、

廿七日 △本日后一時には英公使小村外相を訪ひて滿州問題に關する密議をなしたりと傳へ候 △尚又政友會は本日の總務委員會にて革新派の首唱にかゝる黨制改革につき協議したる由に候、▲本日午前八時陛下は京都御所御出門にて大坂博覽會に行幸相成候、▲本日卒業せる海軍機關候補生は本日横須賀に着港せし練習艦須磨、明石兩號に乘り込み來月六日同港拔錨近海巡航し更らに渡清韓沿海航海の途に上る筈の由に候、

▲横濱に後妻夫を怨みて縊死を遂げたる者有之候、

ゆく春を夫つれなき怨み哉

原因は先妻の離縁に夫の理不盡のことせしを聞きての事の由に候、

廿八日 ▲今朝上野公園にて廿一二才商人風男の縊死者發見致され候、懷中の遺書には宛名湯本樣中には身の不品行わびたる縷言世は樣々に候、△本日現内閣反對の全國同志記者一同芝三縁亭に會合致し協議する所有之候 ▲子爵清岡長説氏京都に於て死去致され候

廿九日 △國民同盟會員集會近衞公官舍にて △進歩黨領袖會議午前より早稻田邸にて

▲去る十八日小樽横手町の大火に對し本日行在所より小樽には八百圓、横手町には千圓の御救恤有之候、△本日の倫電は露國陸軍大臣極東觀察の爲めセントピータースボルグを出發せりと傳へ候 △然るに又々秋田縣下に火事有之候此月は秋田は火のたゝり月と存じ候、

三十日 △現内閣反對同志記者は去月廿八日芝三縁亭に會合の結果本日に至り一編の宣言書を發表し妥協に絶對的反對の意向を表し候、▲今曉新宿停車場前茶亭にて酌婦を殺し自らも自殺したるさわぎ有之候原因不明なるが多分は痴情の嫉妬よりなるべしとのことにて候、△本日發のルートル電報は露京に於て露國が清國に對する要求は單に捏造の事實なりとのこと正式に宣言せられたる由傳へ候、△尚同電は露國外相が在露國米國太使に滿洲に於ける外國人の權利に附き同地の開放を阻止するが如き意思なしと保證せる由をも傳へ候、△齋藤海軍總務長官今朝吳に急行致し候、

五月一日 ▲本日午前三時頃新橋發荷物列車に我から身をすてゝ轢死を遂げたる十五六歲の少年有之候、身元原因不明とのことに候、如何なる理由かありしさりとはあはれの最後に候、

十五年何を苦にやむ身のはてぞ

▲去月二十八日虐待の口惜まぎれに放火せし少女三十日に捕はれて本日東京地方裁判所に護送され候、

少女阿仙戀知らずして火にぞ飢ゆる

二日 △本日の倫電はマセドニヤ國サロンカ市に於ける亂暴なる爆裂彈騷ぎありて土耳古銀行は爆發せられたるを傳へ候、▲内電には伊豫長嶋沖にて昨夜日本汽船速見丸沈沒東京吉原藝妓の樂隊一行其他乘客三十餘名の行衛不明を傳へ候、

旅になく歌姫の末ぞ無慘なる

▲函館よりは凱旋丸の坐礁を傳へ候、△首相京都に赴くにより本日臨時に閣議開かれ候　△尚其他の會合は陸軍參謀長會議、政友會關東派幹事會、東京市區改正委員會等にて候、

三日　▲社會教育演説會后一時より　▲傳染病應急手當講習會　▲ペスト豫防慰勞會松田市長發起午後一時より　○東鴨家庭學校捧堂式后一時より

△政友會革新派大會錦輝舘にて△近衞邸にて滿州問題協會開會

△外電は佛國に於ける英帝の歡迎を傳へ候、

▲尚本日は俗に所謂八十八夜の種蒔に候各地の季候は長野四十五度の外大抵六十度内外の樣子に候　▲横濱海岸防波堤内にて聯合競漕會午前九時より有之候、▲鍋島男爵の嚴父齋正氏死去致され候、

四日　▲向ふ四日間武徳祭大日本武徳會にて▲日本美術協會考古會向ふ十日迄　△北信八州會万安にて

▲三人組の賊の捕縛、壯士と車夫との喧嘩出來事は此位にて候

花ちりて青葉は淸きながめ哉

時鳥閑なる時に何ぞ鳴かざる

五日　△本日上海經由の倫電は又々バルガンの動搖を傳へ候、△同電に英佛の親交を嫉んで伯林の半官報ポスト新聞は實在の英佛親交は不可能にして不和の起るは必然なりと傳へ候由滑稽の愛嬌ある行爲と存じ候

それ〱隣りの美いちやんおらがもの

▲大坂に暴風有之博覽會場外の大坂商船の高塔倒れ二名即死したる由に候、

▲本日の血塗さわぎ數件列擧致し候へば

×英人の自殺　所は横濱根岸町死因不明年十九ピストルにて

×夫婦の情死　同横濱戸部町但し見出されて未遂危いこと

×喧嘩の血塗　深川西元町親しき同士が飾台酒の上にての騒ぎ

×學生の自殺　濟生學舍の生徒洋刀にて遺書天下の無情を怨んで

×花嫁の自殺　嫁して小男姑の折合惡しとて毒藥自殺名は阿清

あゝ夫婦心中、學生の自殺、花嫁の自害何ぞ惨に候はずや

五月五日菖蒲の太刀の狂ひかよ

▲本日天皇陛下は京都御所より堺水族館御覽の爲め行幸有之候、

▲今夜靖國神社祭禮の芝居におりし大猿飛び出して人を傷けたるの珍事有之候、

市に出れば何ぞ三猿の戒啖かざる

六日　△本日發朝鮮京城よりの電報は露人の龍川郡に渡來して土地家屋買收しつゝあることゝ濟州島に於ける邦人迫害事件に關する林公使の談判とを傳へ候、▲内電には宇都宮にて贋造紙幣行使者の捕縛と臺灣のペストを傳へ候、

▲昨日と同刻皇后陛下にも亦堺水族館へ京都より行啓有之候、

△政友會代議士協議會后一時より本部にて、衆議院議長の候選有之候、△中立議員紅葉館に會して中正倶樂部の組織をなし候

△東京市會后四時四十分開會三十間堀埋立に關する議決有之候

▲本日朝本所回向院相撲の番附發表致され候、横綱は例の大男大砲、朝汐張出大關より關脇におち、小結の荒岩前頭におち太刀山前頭にて荒岩の次に上り候

七日　▲男爵野村靖氏逝去　▲今夜烏森にて學生の刃傷騷ぎ有之候

△滿洲問題政談大演説會正午より錦輝館にて　△普通選擧期年同志會發會式后六時より錦輝館にて　○台灣協會語學校語學會后五時

半より青年會館にて　▲中央衛生會后一時内務省にて　△前十時首相官邸にて臨時閣議　△政友會議員總會后二時より本部樓上に開く　△進歩黨議員總會后一時半本部にて　▲本日豫審庭にて岩谷松平は選擧法違犯有罪の決定を與へられ候　▲本所に繼母を恨んで割腹自殺したる十九才の婦人有之候、▲今夜七時頃深川西元町一番地の川中へ卅七八歳奥樣風の女の死體漂着致し候死后二日以上經過せるらしく手に珠數かけたる覺悟の上なるべく身元は不明のよしに候、

何を怨む十九女の厄年ぞ

死ぬよりはつらき富貴の怨み哉

八日　△彌本日を以て第十八臨時議會召集され候、衆議院にては議長選擧せし處、議長片岡健吉氏副議長杉田定一氏に當選致し候、かくて内閣より直ちに電話にて京都行在所に奏上に及びたる由に候、

▲本日政界の會合は進歩黨政務委員會午后より本部にて貴族院議員各所屬團體事務所に會合致し候

九日　▲風俗改良會總會后二時より　▲明治母の會后二時中央會堂にて　▲東京婦人會講演會后一時半本郷會堂にて　▲東京禁酒大會芝浦海水浴にて

△伊藤侯大磯に皈り候　○博士推薦の事につき文學博士會文部省にて開かれ候、▲千葉縣にて小學校々長の實子を殺して我又自殺したるもの有之候、

十日　▲大日本衛生會總會頭補欠選擧　●學士會院講演美術學校にて　○東京藥學校庚寅同志會園遊會、前九時半　●日本圖案會總集會正午より日本橋常磐木倶樂部にて

▲本日午後〇時五十八分・兩陛下京都御發輦

▲韓國特報あり清國安東縣の露兵約一千鴨綠江を越えて韓國に入ると、果して事實に有之候哉

十一日　▲午後三時二十分兩陛下新橋停車場着御　▲今朝信州其他東北地方霜雪被害の電報有之候　▲本月上旬の貿易は概算左の如くに御座候

輸出品價	六、六五六、八一七		圓
輸入品價	六、八八一、〇九一	（一月以降累計）	圓
輸入超過	二二四、二七四	三三、九二四、一三〇	

十二日　▲本日午前十時　貴族院に於て第十八議會開院式御擧行あらせらる　△倫電は徐々バルカン半島の動揺を傳へ候、▲清國貝子載振親王殿下御入京相成候▲近来桂首相は伊藤侯の邸に日參致され候

▲本日政友會に二名の脫會代議士有之候▲東京商業會議所總會▲萬國佛教青年聯合會總會、高輪佛教大學に於て、

十三日　▲議會奉告文を奉る▲横濱にペスト患者現はれ候、然も二名

十四日　▲韓國京城發電報によれば林公使は龍泉郡に露兵駐屯し居れるが韓廷は如何に處置するか明示せよと照會したる由に候▲近衛師團の軍吏拘引せられ之れに關しては意外なる出來事を生ずべしなど申候ものも有之候いかゞ▲本日政府より豫算案を衆議院に提出致候、政友會と妥協の結果地租繼續案は引き込ませ候

十五日　韓國京城發電報によれば英佛兩國共に金鑛採掘權を韓廷に要求したりと有之候▲東京市參事會は三十間堀埋立事件に關し内務省の告示を遵奉し能はざる廉より總辭職を決議致候▲警察署長會議▲文學博士會、文部省に於て